

活動プログラム集

令和2年3月改訂



鹿児島県立霧島自然ふれあいセンター

P 1	活動をより効果的に行うために
P 2	植物観察
P 4	野鳥観察
P 6	昆虫観察
P 8	星の観察
P10	ナイトウォーク
P12	グリーンアドベンチャー
P16	霧島連山の登山活動
P17	霧島連山の主なジオサイト
P18	韓国岳登山
P20	えびの高原池めぐりコース（白鳥山を含む）
P22	大浪池登山
P24	高千穂峰登山
P26	栗野岳登山
P28	甕岳登山
P30	大浪池～韓国岳～えびの高原登山
P32	中岳中腹探勝路登山
P34	霧島滝めぐりウォーク
P36	丸尾自然探勝路散策
P38	柳ヶ平散策
P40	龍馬チャレンジハイク
P42	ウォークラリー
P45	霧ふれ発見ビンゴゲーム
P50	マウンテンバイク・トライアル
P53	キャンプ活動
P55	テント設営
P59	野外炊飯
P65	キャンプファイヤー
P74	ニュースポーツ（カローリング・シャッフルボード・ストラックアウト・輪 投げ・グラウンドゴルフ・フライングディスクゴルフ・ゲ ーゴルゲーム・羽根っこゲーム・チームワークゲーム）
P88	オリエンテーリング
P91	周辺施設との連携を図ったプログラム
P92	創作活動を効果的に行うために
P93	創作活動プログラム一覧
P94	焼き板
P96	塗り箸
P98	ガラス工芸
P100	レザークラフトキーホルダー
P102	プラホビー
P104	水ロケット
P106	コルク工芸コースター
P108	バルーンモデリング
P110	洋風
P112	桜チップキーホルダー
P114	切り絵
P116	ともしびのつどい

活動をより効果的に行うために

霧島自然ふれあいセンターでは、いろいろな野外活動を行うことができます。以下のことに留意して実施しましょう。

◎ 留意事項

1 活動プログラム作成時

- ア 団体のねらいが達成できる活動内容にしましょう。
- イ 活動時間にゆとりをもちましょう。
- ウ 利用者の意見，発達段階に合った活動を選びましょう。
- エ 自主的な活動になるよう計画をしましょう。
- オ 荒天時の対応も考えておきましょう。
- カ 引率者の役割分担を決めましょう。
- キ 引率者は，事前の実地踏査や研修をしましょう。
- ク 霧島自然ふれあいセンターの職員と打合せをしましょう。

2 活動前

- ア 活動について，霧島自然ふれあいセンターの職員と最終確認をしましょう。
- イ 参加者全員が活動場所や内容，時間などを理解しているか確認しましょう。
- ウ 活動上の安全を確認しましょう。
- エ 活動に必要な道具，材料は準備できているか確認しましょう。
- オ 霧島自然ふれあいセンターからの借用品名や借用する数を確認しましょう。
- カ 気象状況を予想し，必要な物を準備しましょう。
- キ 活動に適した服装で，トイレも済ませましょう。
- ク 無線機が必要であれば，霧島自然ふれあいセンターで貸し出します。（台数制限あり）

3 活動中

- ア 常に人数や健康状態・安全の状況を把握しましょう。
- イ 必要に応じ，適当な休憩をとりましょう。（夏場は，水分をこまめにとりましょう）
- ウ 登山では，引率者は集団の先頭・中間・後尾に付き，参加者の状態を常に把握できるようにしましょう。
- エ 必ず救護車を準備しましょう。
- オ 緊急時には，必ず霧島自然ふれあいセンターに連絡しましょう。

4 活動後

- ア 人数を確認しましょう。
- イ 健康状態の悪い人がいないか確認しましょう。
- ウ ゴミの後始末をしましょう。持ち込んだ物は，それぞれで持ち帰りましょう。
- エ 実施後は，ふりかえり等を行い，今後の活動に生かしましょう。

植 物 観 察

ね ら い	センター周辺の野草を観察する。 (1) 霧島の大自然とのふれあいを深める。 (2) 植物への興味・関心を高め、植物や自然を愛する心を養う。	
時間・費用	・ 1～3時間 ・ 無料	
対象・人数	・ 小学生以上 ・ 100人程度	
場 所	霧島自然ふれあいセンター周辺	
準備・道具	【参加者が準備する物】 ・ 筆記用具、メモ帳 【霧島自然ふれあいセンターで準備する物】 ・ ガイドブック(図鑑類) ・ 虫めがね	
コ ー ス	(1) つどいコース (1時間) つどいの広場周辺 (2) ふれあいコース(2時間) ふれあいセンター → ふれあいセンターキャンプ場 → ふれあいセンター (3) ひろびろコース(3時間) ふれあいセンター → 自然教育の森 → ふれあいセンター	
留 意 事 項	(1) 安全面に十分配慮する。 (2) 貸し出し用具は確実に返却する。 (3) むやみに採集しないようにする。	
実 施 方 法	【内 容】 ※ 貸し出し用具の借用 1 整列, あいさつ 2 植物観察の心構え, コースの説明 3 植物観察 (1) 植物や樹木の種類を図鑑で調べる。 (2) 花のつき方を観察する。 (3) 薬草や毒草を調べる。 4 まとめ 観察した植物の種類, 気付いたこと, 発見したことなどを発表する。 ※ 貸し出し用具の返却	【留 意 点】 ○ 野外活動は、無理なく楽しく行う。 ○ 移動の際は、交通安全に留意する。 ○ 資料を参考に観察する。 ○ 毒草もあるのでむやみに触れない。

霧島自然ふれあいセンター周辺の植物

	シダ類	単子葉類	双子葉類(草木)	つる植物
1	ゲジゲジシタダ	アシボソ	アカツメクサ	アオツツラフジ
2	コハシゴシタ	オオアブラススキ	アキノキリンソウ	イワガラミ
3	ゼンマイ	カモジグサ	アキノノゲシ	エビツル
4	ヒメワラビ	クサイ	イヌタデ	オオバウマノスズクサ
5	ベニシダ	コヌカグサ	エゾギシギシ	オニドコロ
6	ホシダ	ウシノシッペイ	オオアレチノギク	キカラスウリ
7	ホラシノブ	コブナグサ	オオバコ	クズ
8	ワラビ	ササガヤ	オトギリソウ	サルトリイバラ
9	ノキシノブ	シナダレスズメガヤ	オトコエシ	スイカズラ
10		ススキ	オトコヨモギ	ツタ
11		チガヤ	カタバミ	ツルウメモドキ
12		チヂミザサ	キツネノマゴ	ツルマメ
13		トダシバ	アラゲハンゴンソウ	ナツフジ
14		ネジバナ	クサネム	ナワシロイチゴ
15		メカルカヤ	シロツメクサ	ナワシログミ
16		メヒシバ	スミレ	ノササゲ
17		スズメノヒエ	タケニクサ	ノブドウ
18			ノダケ	ヘクソカズラ
19			ヒメジヨオン	ミツバアケビ
20			ヒメムカシヨモギ	ヤマノイモ
21			ヤクシソウ	ツルコウゾ
22			ヨメナ	
23			ヨモギ	
24			ワルナスビ	
25			ヒメミカンソウ	
26			アレチマツヨイグサ	
27		(アキノキリンソウ)	オオイヌタデ	(ミツバアケビ)

野 鳥 観 察

ね ら い	霧島自然ふれあいセンター周辺のいろいろな野鳥を観察する。 (1) 自然とのふれあいを深める。 (2) 野鳥への興味・関心を高め、生き物を愛する心情を育む。	
時間・費用	・ 1～2時間 ・ 無料	
対象・人数	・ 小学生以上 ・ 100人程度	
場 所	霧島自然ふれあいセンター周辺、キャンプ場等	
準備・道具	【参加者が準備する物】 ・ 筆記用具、メモ帳 【霧島自然ふれあいセンターで準備する物】 ・ 双眼鏡(30個) ・ フィールドスコープ(要相談) ・ 野鳥図鑑(山野の鳥30冊、水辺の鳥30冊)	
コ ー ス	(1) つどいコース(1時間) ふれあいセンター → ふれあいセンターキャンプ場 → ふれあいセンター (2) ひろびろコース(2時間) ふれあいセンター → 自然教育の森 → ふれあいセンターキャンプ場 → ふれあいセンター	
留 意 事 項	(1) 安全面に十分留意する。 (2) 貸し出し用具は確実に返却する。 (3) 自然保護に気を付ける。	
実 施 方 法	【内 容】 ※ 貸し出し用具の借用 1 整列、あいさつ 2 野鳥観察の心構え、コースの説明 3 双眼鏡の取り扱いの説明 (1) ひもの長さを調整する。 (2) 双眼鏡を折り曲げ、左右のレンズの幅を両目の幅に合わせる。 (3) ピストンリンクで左目のピントを合わせる。 (4) 視度調整リンクで右目のピントを合わせる。 4 野鳥観察 (1) 野鳥の発見 (2) 野鳥の観察 ① 体の大きさ(知っている鳥との比較)を観察する。(鳩 カラス スズメ) ② 体つき(スマート、ずんぐり) やくちばしの長さや形を観察する。 ③ 尾の長さや形を観察する。 ④ 足の長さ形を観察する。 ⑤ つばさの長さや形を観察する。 5 まとめ 観察した鳥、気付いたこと 発見したことなどを発表する。 ※ 貸し出し用具の返却	【留 意 点】 ○ 野外活動は無理なく楽しく行う。 ○ 静かにそっと観察する。 ○ 長袖、長ズボンを着用する。 ○ ゴミは持ち帰る。 ○ 野鳥の巣には近づかない。 ○ 双眼鏡で直接太陽を見ない。 ○ 目と耳を使ってよく観察する。 ○ 鳥に気付かれないようにする。

霧島で見られる主な野鳥

	野	鳥	名
留 鳥	ツグミ、クマタカ、コジュケイ、ヤマドリ、キジ、キジバト、フクロウ、ヤマセミ、 アオゲラ、オオアカゲラ、コゲラ、サンショウクイ、ヒヨドリ、カワガラス、ミソサザイ、 トラツグミ、ウグイス、ハシボソガラス、エナガ、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、 シジュウカラ、ゴジュウカラ、メジロ、ホオジロ、ホオアカ、ハシブトガラス、イカル、 カワラヒワ、スズメ、カケス、コシジロヤマドリ、アオバト、 カゴシマアオゲラ、ナシエオオアカゲラ、ヒメアマツバメ、 キュウシュウコゲラ、ヒバリ、キセキレイ、モズ、セッカ、ムクドリ など		
	 (カワラヒワ)		
旅 鳥	ムギマキ、エソビタキ、アカハラ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、サメビタキ、 エソビタキ、ノビタキ、ノジコ など		
夏 鳥	サシバ、カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、アオバズク、ヤイロチョウ、ツバメ、 キセキレイ、コマドリ、ヤブサメ、センダイムシクイ、キビタキ、 オオルリ、コサメビタキ、サンコウチョウ、イワツバメ など		
	 (オオルリ)		
冬 鳥	オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガカモ、ハシビロガモ、 チョウゲンボウ、ジョウビタキ、タヒバリ、ルリビタキ、アカハラ、シロハラ、 キクイタダキ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、アオジ、シメ、クロジ、アトリ、マヒワ、 ベニマシコ、ウソ、ヤマシギ、ビンズイ、キレンジャク、ヒレンジャク、ツグミ、 など		
	 (チョウゲンボウ)  (ヒレンジャク)		

昆虫觀察

ね ら い	霧島自然ふれあいセンター周辺に生息する昆虫を観察する。 (1) 自然とのふれあいを深める。 (2) 自然や生き物を愛する心情を育てる。	
時間・費用	・ 2～3時間 ・ 無料	
対象・人数	・ 小学生以上 ・ 100名程度	
場 所	霧島自然ふれあいセンター周辺	
準備・道具	【参加者が準備する物】 ・ 筆記用具、メモ帳 【霧島自然ふれあいセンターで準備する物】 ・ 昆虫図鑑(30冊) ・ 虫めがね(100個)	
コ ー ス	(1) ふれあいコース(2時間) ふれあいセンター → ふれあいセンターキャンプ場 → ふれあいセンター (2) ひろびろコース(3時間) ふれあいセンター → 自然教育の森 → ふれあいセンター	
留 意 事 項	(1) 安全面に十分配慮する。 (2) 貸し出し用具は確実に返却する。 (3) 自然保護に気を付け、むやみに採集しないようにする。	
実 施 方 法	【内 容】 ※ 貸し出し用具の借用 1 整列, あいさつ 2 昆虫観察の心構え, コースの説明 3 昆虫観察 (1) 昆虫の種類を図鑑で調べる。 (2) どんどこに昆虫がいるか調べる。 (3) 昆虫のからだのつくりを調べる。 4 まとめ 観察した昆虫の種類, 気付いたこと, 発見したことなどを発表する。 ※ 貸し出し用具の返却	【留 意 点】 ○ 野外活動は無理なく楽しく行う。 ○ 道路を歩くときは, 交通ルールを守る。 ○ 図鑑を参照する。

霧島でよく見かける虫

- | | | |
|--------------|-------------|------------|
| ○ ルリシジミ | ○ クロアゲハ | ○ オオスズメバチ |
| ○ ウラギンヒョウモン | ○ ジャコウアゲハ | ○ ミヤマクワガタ |
| ○ ミドリヒョウモン | ○ ウラギンシジミ | ○ ヒグラシ |
| ○ キリシマミドリシジミ | ○ ジャノメチョウ | ○ ヒメコガネ |
| ○ モンキチョウ | ○ ヤマキマダラヒカゲ | ○ ドウガネブイブイ |
| ○ スジグロシロチョウ | ○ ベニシジミ | ○ ニワハンミョウ |
| ○ アサギマダラ | ○ イシガケチョウ | ○ アイハンミョウ |
| ○ ナナホシテントウムシ | | |



(キリシマミドリシジミ)



(イシガケチョウ)

霧島自然ふれあいセンターの周辺にすむ虫

- | | | |
|-----------|--------------|--------------|
| ○ アオスジアゲハ | ○ アカタテハ | ○ シオヤムシヒキ |
| ○ ナガサキアゲハ | ○ モンシロチョウ | ○ フタモンアシナカバチ |
| ○ アゲハチョウ | ○ キチョウ | ○ クマバチ |
| ○ コミスジ | ○ ヤマトシジミ | ○ クツワムシ |
| ○ クロヒカゲ | ○ ヒメウラナミジャノメ | ○ クロオオアリ |



(アオスジアゲハ)



(ヤマトシジミ)

星 の 観 察

ね ら い	霧島の夜空に浮かぶ四季折々の美しい星空や惑星、星雲等を観察する。 (1) 星空の美しさや宇宙の神秘、雄大さにふれる。 (2) 天体への興味・関心を高め、科学する心を養う。	
時間・費用	・ 2時間 ・ 無料	
対象・人数	・ 小学生以上 ・ 100人程度	
場 所	つどいの広場	
準備・道具	【参加者が準備する物】 ・ 特になし 【霧島自然ふれあいセンターで準備する物】 ※ 団体の希望に応じて貸し出す。 ・ 天体望遠鏡 ・ スコープ ・ 双眼鏡(約30個) ・ 星座早見盤(約80枚)	
留 意 事 項	(1) 実施日の星座の明るさを事前に調べておく。(月齢を調べる。) (2) 道具等の使用方法については、事前にふれあいセンターの職員に問い合わせる。 (3) 道具等の返却は確実にを行う。	
実 施 方 法	【内 容】 1 整列, あいさつ 2 星や星座の説明 3 天体望遠鏡, 双眼鏡による観察 (1) 機器等の操作方法を確認する。 (2) 機器等を用いて観察する。 (3) 元の位置に集合する。 4 まとめ 観察した星の種類, 気付いたこと, 発見したことなどを発表する。 5 貸し出し用具の返却 6 整列, あいさつ	【留 意 点】 ○ 夜間の活動であるので、団体引率者の指示を必ず守らせる。人数確認を必ず行う。 ○ 操作方法を確認する。 ○ 交代で観察する。 ※ 事前(明るいうち)に天体望遠鏡やスコープをセットしておく。 ○ 人数確認を必ず行う。

※ 荒天の場合は、ガイダンス室・多目的ホール・プレイホールでDVD視聴ができます。

ふれあいセンターにある機器等について

1 天体望遠鏡



新型（1台）



旧型（2台）

※ 事前に操作方法の確認や
レンズ等の調節が必要。

2 スコープ



3 双眼鏡



※ 事前に操作方法の確認や
レンズ等の調節が必要。

4 星座早見盤



※ 星座早見表と月の早見表の両面で
使用できるタイプ

5 荒天時プログラム用DVD



A



B



C



D



E

A「四季の星座」

四季毎に星座を紹介（約20分）。本編66分。

B「宇宙の旅」

望遠鏡と天文学、望遠鏡の観測、太陽系の惑星探査。本編75分。

C「未知への大紀行第5集」

150億年の遺産～生命に刻まれた星の生と死～。本編49分。

D「未知への大紀行第8集」

宇宙に終わりはあるのか。本編49分。

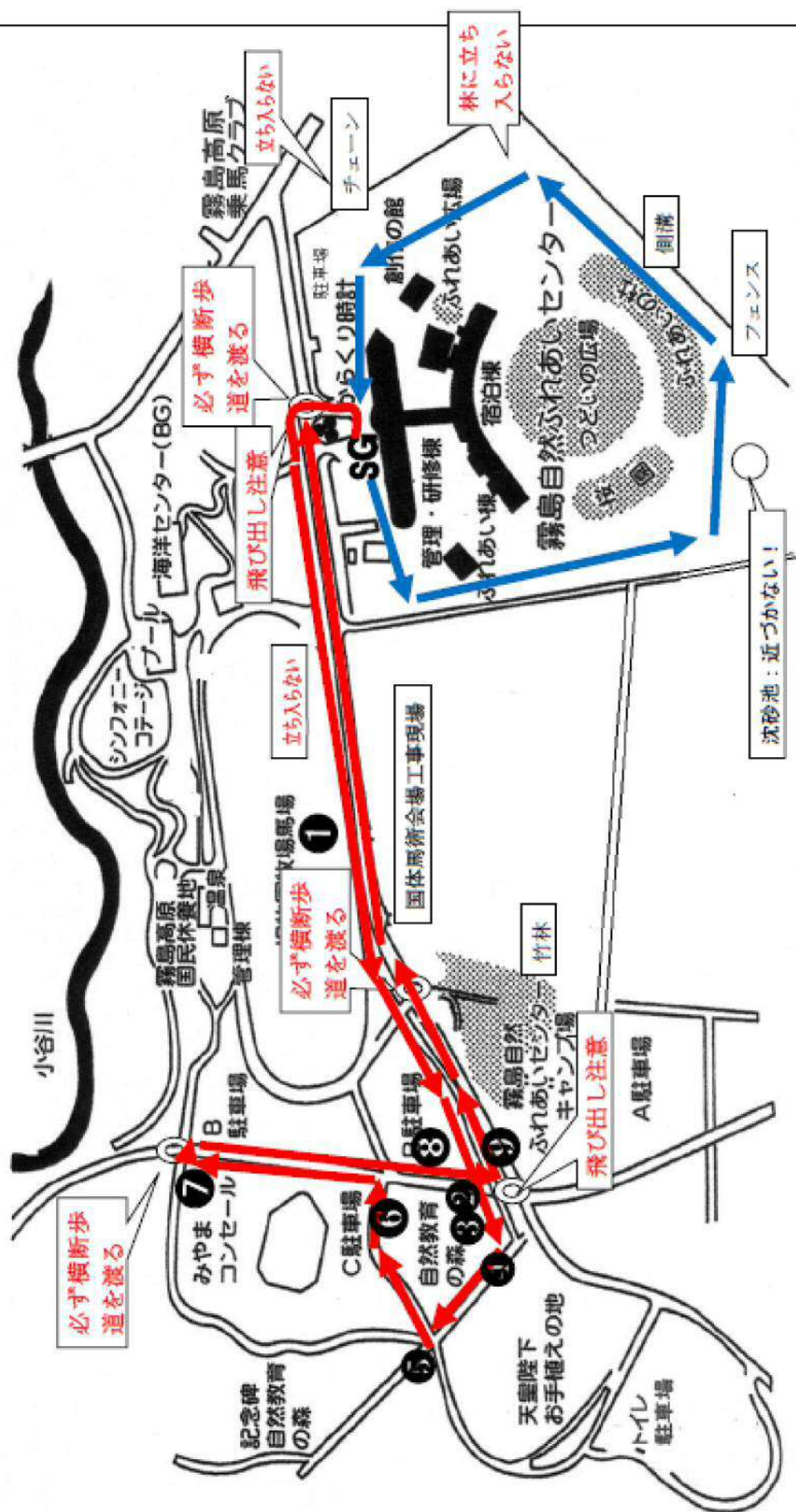
E「コンプリートコスモス第3集」

星はどのように動いているのか。本編150分。

ナイトウォーク

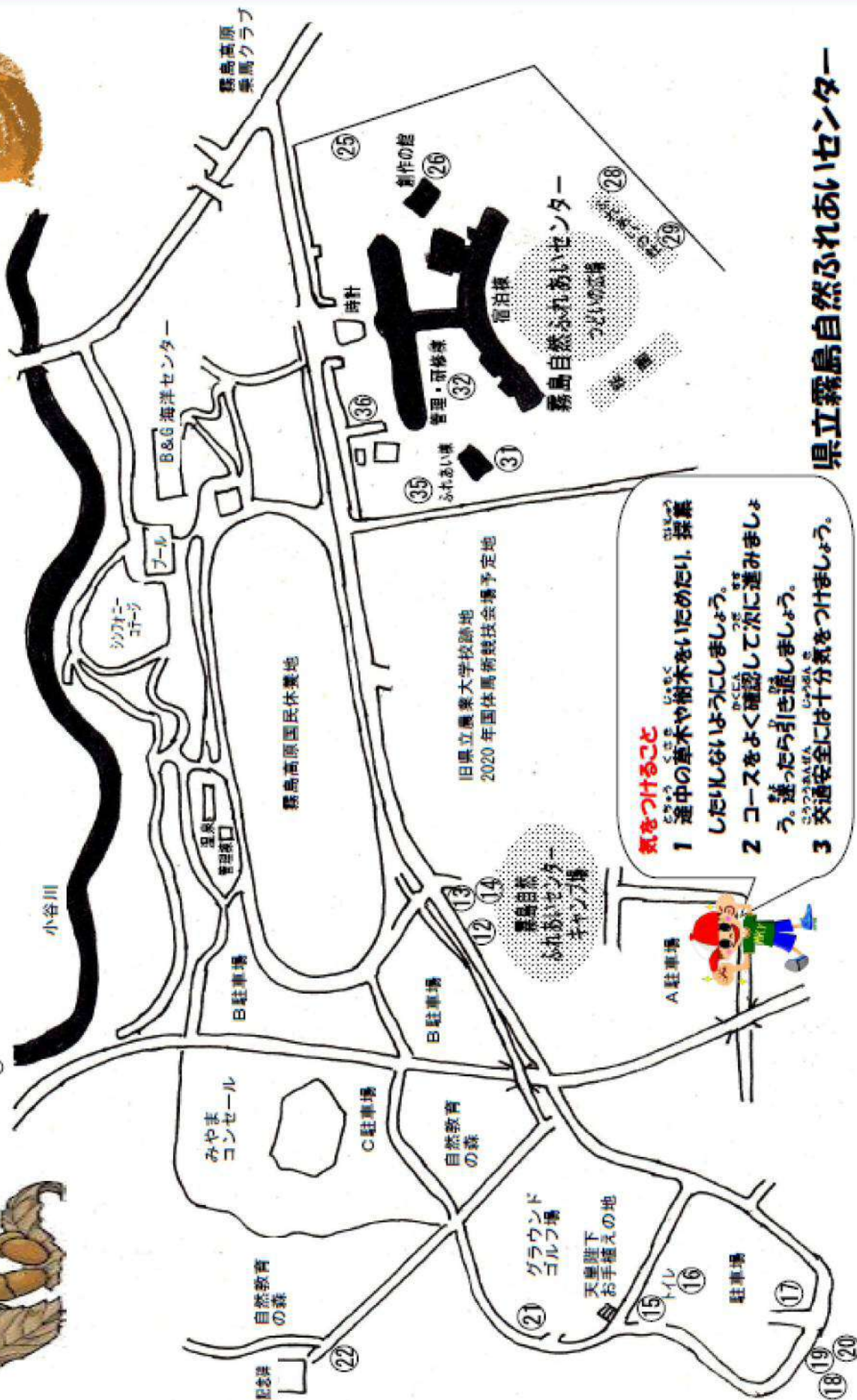
ね ら い	1 暗闇を歩くことによって五感を高め、好奇心や冒険心を養い、友達との協調性や連帯感を培う。 2 昼間とは異なる、夜の自然界の営みについて気付かせる。			
時間・費用	・ 1時間30分 ・ 無料			
対象・人数	・ 小学生以上 ・ 100人程度			
場 所	つどいの広場			
準備・道具	【参加者が準備する物】 ・ 懐中電灯(班に1個) ※ 必要に応じて虫よけスプレー、かゆみ止め等を準備する。 【ふれあいセンターで準備する物】 ・ 無線機 ※ 団体の希望に応じて貸し出すことができます。 ・ コース図			
留 意 事 項	1 事前踏査を十分に行い、参加者に適したコースを選定する。 2 夜間の活動なので、安全対策には万全を期す（引率者による立哨指導等を行う）。 3 参加者の実態や希望を考慮して活動内容を考える。 4 国民休養地には立ち入らない。			
実 施 方 法	<table><tr><td>【内 容】 1 整列、あいさつ 2 ナイトウォークについての説明 3 センター出発(班ごとに)</td><td>【留 意 点】 ○ 団体引率者の指示を守らせる。 ○ 走ることは禁止する。 班でまとまって行動する。 ○ 2～3分おきに出発する。</td></tr></table> コースの工夫(例) ※ コースの手掛かりに蛍光テープをつけておく。 ※ つどいの広場で、星空観察の活動を行うこともできる。 ※ コース途中に「光るもの」「音の出るもの」「生きもの」「人工のもの」などを置き、ネイチャーゲームとして実施することもできる。 4 センター帰着 5 まとめ 気付いたこと、発見したことなどを発表する。 6 整列、あいさつ		【内 容】 1 整列、あいさつ 2 ナイトウォークについての説明 3 センター出発(班ごとに)	【留 意 点】 ○ 団体引率者の指示を守らせる。 ○ 走ることは禁止する。 班でまとまって行動する。 ○ 2～3分おきに出発する。
【内 容】 1 整列、あいさつ 2 ナイトウォークについての説明 3 センター出発(班ごとに)	【留 意 点】 ○ 団体引率者の指示を守らせる。 ○ 走ることは禁止する。 班でまとまって行動する。 ○ 2～3分おきに出発する。			

ナイトウォークコースマップ



グリーンアドベンチャー

ね ら い	センター内及び付近の樹木の名前や特徴を調べ、樹木やまわりの自然に親しむ機会にするとともに、互いに協力し、助け合うことで、友情を深め、思いやりの心や協力する心を養う。	
時間・費用	1時間30分(コース変更・短縮等によって時間設定できます。) - 無料	
対象・人数	- 小学生以上(4年生以下は、責任ある引率者が各グループについてください。) 100人程度	
場 所	霧島自然ふれあいセンター周辺のグリーンアドベンチャーコース	
準備・道具	【参加者が準備する物】 - 筆記用具 【ふれあいセンターで準備する物】 - コース図 ・ 解答用紙 ・ ゼッケン ・ 紙バサミ ・ 本 ・ 虫眼鏡	
コ ー ス	◎霧島自然ふれあいセンター出発 →⑫～⑭(キャンプ場入り口) ☆狭い入口から一気に開け、眺めが広がる。 →⑮～⑳(みやまコンセール) ☆林の中は、ひんやりとした空気。森林浴も楽しめる。 →㉔～㉚(センター本館敷地内) ☆ふれあいの杜や桜の園で多くの樹木を発見できる。	
留 意 事 項	- 活動時間や参加対象によってコースの変更も可能、あらかじめコースを検討しておく。 - 草木や樹木を傷つけたり、採集したりしないようにする。 - 迷ったら引き返すなどして、コースをよく確認して次へ進むようにする。 - 植物図鑑はセンターにもあるが、できるだけ団体に準備する。	
実 施 方 法	【内 容】 - グループ(3～5人)ごとに分かれる。 - 順路や調べ方について話し合う。 - グループごとにスタートする - 樹木ごとによく観察し、図鑑等を参考にして、名前をチェックする。 - 樹木観察と解答が全部終了したら、スタート地点へ戻る。 - グループごとに答合わせをする。	【留 意 点】 ○ 事前にグループを編成しておく。 ○ 順路は工夫して計画してする。 ○ グループ内での役割分担をする。 ○ ゆったりとした気持ちでまわる。 ○ 1本1本を入念に観察し、チェックする。



県立霧島自然ふれあいセンター

グリーンアドベンチャー問題用紙

県立霧島自然ふれあいセンター ☎ 78-2815

グループ名				
	名前			

スタート時刻	時	分
ゴール時刻	時	分

【グリーンアドベンチャーの実施方法】

- ① グループをつくる。 ※ ○で囲んだ数字は正解の樹木が図鑑にのっています。
- ② 地図を見ながら好きな順に回る。 ※ 途中、虫めがねで観察したり、いろいろな草花を見たりしながらまわしましょう。
- ③ 各番号の樹木名を1つ選ぶ。図鑑で調べてもよい。
- ④ 全部終わったら、みんなで解答し、気づいたことを話し合う。 ※ 得点は、各5点。ただし★マークは10点。

得点

155 点

— 14 —

番号	樹 木 名	番号	樹 木 名	番号	樹 木 名
		⑮	ナツツバキ モミ ヒメシャラ	⑳	サンショウ イロハカエデ ツバキ
		⑯	サザンカ クヌギ クリ	㉑	クヌギ シイノキ ミズナラ
		17	マサキ カシワ ユズリハ	28	マテバシイ キンモクセイ ヒイラギ
			★この木の葉をスケッチしよう。(10点)	㉒	ソメイヨシノ サルスベリ ウバメガシ
					★この木の下で俳句（はいく）をつくろう。(10点)
		⑰	コブシ イヌマキ ウメ		
		19	ヒノキ ガマズミ カシワ	㉓	キンモクセイ アラカシ ヒメシャラ
		⑳	ツバキ ヤマモモ ツゲ	㉔	ヤマサクラ ケヤキ マンサク
		㉑	フジ チャノキ イロハカエデ	㉕	ウメ ネコヤナギ ナツツバキ
			★この棚の下にいる小さな生き物を虫めがねで観察し、わかったことを2つを書こう。(5点×2)	㉖	ヤブツバキ ミズキ サルスベリ
			() ()		★この木をさわった感じは () みたい。(10点)
⑫	モミ クロマツ アカマツ	22	スギ イヌマキ ヒバ	総合問題	季節を感じることでできたものを1つ書こう。
⑬	ヒノキ モミ コナラ		★この森にあるもので () 色のものを2つ書こう。(5点×2)		
⑭	スギ ヒサカキ クロキ		() ()		

グリーンアドベンチャー解答用紙

県立霧島自然ふれあいセンター ☎ 78-2815

グループ名			
	名前		

スタート時刻	時	分
ゴール時刻	時	分

【グリーンアドベンチャーの実施方法】

- ① グループをつくる。 ※ ○で囲んだ数字は正解の樹木が図鑑にのっています。
- ② 地図を見ながら好きな順に回る。 ※ 途中、木の音を聴診器（ちょうしんき）で聴いたり、虫めがねで観察したり、いろいろな草花を見ながらまわりましょう。
- ③ 各番号の樹木名を1つ選ぶ。図鑑で調べてもよい。
- ④ 全部終わったら、みんなで解答し、気づいたことを話し合う。 ※ 得点は、各5点。ただし★マークは10点。

得点

155

点

番号	樹 木 名	番号	樹 木 名	番号	樹 木 名	
		⑮	ナツツバキ <u>モミ</u> ヒメシャラ	⑳	サンショウ <u>イロハカエデ</u> ツバキ	
		⑯	<u>サザンカ</u> クヌギ クリ	㉑	<u>クヌギ</u> シイノキ ミズナラ	
		17	マサキ カシワ <u>ユズリハ</u>	28	<u>マデバシイ</u> キンモクセイ ヒイラギ	
			★この木の葉をスケッチしよう。	㉒	<u>ソメイヨシノ</u> サルスベリ ウバメガシ	
					★この木の下で俳句（はいく）をつくろう。（10点）	
		⑰	<u>コブシ</u> イヌマキ ウメ	31	<u>キンモクセイ</u> アラカシ ヒメシャラ	
		19	ヒノキ <u>ガマズミ</u> カシワ		32	ヤマサクラ <u>ケヤキ</u> マンサク
		20	<u>ツバキ</u> ヤマモモ ツゲ		35	<u>ウメ</u> ネコヤナギ ナツツバキ
		21	<u>フジ</u> チャノキ イロハカエデ	36	ヤブツバキ ミズキ <u>サルスベリ</u>	
			★この棚の下にいる小さな生き物を虫めがねで観察し、わかったことを2つを書こう。（5点×2） () ()		★この木をさわった感じは () みたい。（10点）	
22	スギ イヌマキ <u>ヒバ</u>	総合問題	季節を感じることでできたものを1つ書こう。			
	★この森にあるもので () 色のものを2つ書こう。（5点×2） () ()					
⑫	モミ クロマツ <u>アカマツ</u>					
⑬	ヒノキ モミ <u>コナラ</u>					
⑭	<u>スギ</u> ヒサカキ クロキ					

霧島連山の登山活動

～息つぎて 丘を上れば 静かに静かに 花の言うらし (牧 暁村)～

1 ねらい

- ・ 霧島錦江湾国立公園の中にある雄大な霧島連山に登り、自然の美しさや厳しさに五感でふれるとともに、自然保護の大切さに気付かせる。
- ・ 自己の気力や体力に挑戦し、困難にくじけない不屈の精神を養い、成就感や達成感を味わう。

2 用具等

- ・ 貸し出し可能なもの
コース図(地図)、背負子(要相談)、ザイル(要相談)、病院リスト
- ・ 団体で準備するもの
登山届、救護車、弁当、水筒、笛、救急用具、行動食(小休止時に配るアメ程度)

3 服装等

- ・ 登山のできる服装(長袖、長ズボン、防寒具)、靴、手袋、タオル、雨具(カッパ)、帽子、リュック、ビニル袋(着替えを包んでおく)、常備薬、ちり紙、保険証(写し)

4 役割分担

- ・ 全体指導者
全体の統括・指揮、霧島自然ふれあいセンター職員との連絡
- ・ 成人指導者
グループ指導(休憩、出発時の人員点呼)、途中の安全指導、救護

5 隊形 ※ 体力の弱い人を前にして行動する。

- ・ 全体指導者(トップ) → グループ → 成人指導者(ミドル) → グループ → 成人指導者(アンカー)

6 登山コース例

- ・ 大浪池(往復約3km 約1.5時間) ・ 池めぐり(1周約5km 約3時間)
- ・ 白鳥山(往復約4km 約1.5時間) ・ 甑岳(往復約12km 約5時間)
- ・ 韓国岳(往復約5km 約4時間) ・ 大浪池～韓国岳～えびの高原(約6.5km 約4時間)
- ・ 大浪池一周(往復約6km 約3時間) ・ 栗野岳(周回約10km 約5時間)
- ・ 高千穂峰(往復約6km 約4時間) ※ 対象年齢等の詳細は、利用の手引きP13に記載あり。

7 展 開

- (1) 全員集合、人員確認
- (2) 借用物の確認
- (3) グループ編成、行動隊形の確認
- (4) 事前指導(服装、持ち物)
- (5) バス移動
- (6) 事前指導(コース概要説明、自然観察のポイント、安全指導、準備運動、人員確認)
- (7) 登山開始(15分程度で最初の小休止～行動隊形チェック、人員確認、安全指導)
- (8) 目的地点到着(大休止、昼食・観察等)
- (9) 下山開始(小休止～行動隊形チェック、人員確認、安全指導)
- (10) 下山終了(人員確認、整理運動)
- (11) バス移動
- (12) 事後指導(講評、活動後の行動・日程確認)
- (13) 借用物の返納、霧島自然ふれあいセンター職員への連絡

※ 火山の噴火警戒レベルによっては、入山規制が行われることもあります。火山に関する最新情報を確認してください。
(気象庁/鹿児島県/宮崎県HP等参照)

8 留意事項

- (1) 必ず予定コースの事前踏査を行う。
- (2) 行動隊形は5～7人程度の班編成とし、小休止ごとにトップを交替する。
- (3) 緊急事態発生時の連絡体制を確認する(雨天時の7/24決定、登山開始時・下山時のセンターへの連絡)。
- (4) 登山コース上では、携帯電話の通じない場所があるので、確認する。
- (5) 登山用携帯トイレを準備する。

霧島連山の主なジオサイト

ジオサイトとは、ジオパークの中の数ある魅力的なスポットの中で、特に見どころのサイトのことで、ジオサイトでは美しい景色や地形だけでなく、それらの背景にある自然の仕組みを読み解くことができます。

～霧島ジオパーク推進協議会 HP より抜粋～

【火山】

火山は、地殻の深部にあったマグマが地表または水中に噴出することによってできる特徴的な地形をいいます。山だけでなく、カルデラのような凹地形も火山と呼びます。火山の地下にはマグマがあり、そこからマグマが上昇して地表に出る現象が噴火である。

韓国岳爆裂火口



霧島連山の最高峰(1700m)である。頂上には直径 900m、深さ 300m の火口がある。秋の紅葉時期は、ベニドウダンが美しい。

韓国岳が形成された後に起こった水蒸気爆発によって、火口壁の西側部分が吹き飛ばされ、半円形の爆裂火口が形成された。そのため、韓国岳にはピークが二つあるように見える。

今は、大浪池からの登山口、えびの高原からの登山口がある。獅子戸岳経由の登山道は、新燃岳の噴火警戒レベル引き上げにより閉ざされている。(2019 年 12 月現在)

甑岳



米を蒸す道具（甑）を伏せた形に似ているところから「甑岳」と称される。山頂の火口には泥炭層があり、池塘（ちとう）と呼ばれる池がある。

硫黄山



標高 1317m の活火山。霧島連山では、最も新しい火山である。頂上に浅い火口が残っている。

昭和 37 年まで硫黄の採掘が行われていた。

2016 年 1 月 2 日から火山性微動と火山性ガスが徐々に増加していることが確認されたため、火口周辺 1 km に立ち入り規制が敷かれている。2018 年 4 月 19 日に噴火し、高いところでは噴煙が 300m の高さまで上がった。

中岳



高千穂峰



御鉢火山



新燃岳



【火口湖】

火山の噴火口に湛水してできた湖。湖盆形態は一般に円形で、直径は 1.5km をこえるものはまれである。深度もカルデラ湖と比較すると浅い。

大浪池



白紫池



六観音御池



韓国岳登山

趣 旨 古くから神話や山岳信仰の場として知られ、約7千年前の水蒸気爆発で作られた爆裂火口が特徴的な韓国岳(1,700m)登山をとおり、自然のすばらしさや美しさ、厳しさを感じるとともに、参加者同士の心のふれあいを深め、自然に対する畏敬の念を育てる機会とする。

日程例 09:00 霧島自然ふれあいセンター発 09:30 えびの高原駐車場着(トイレ) 09:40 えびの高原駐車場発 10:00 韓国岳登山口 11:10 韓国岳山頂着 11:20 昼食 12:00 韓国岳山頂発 13:00 韓国岳登山口 13:30 えびの高原駐車場着(えびのエコミュージアムセンター及び周辺の見学等) 14:30 えびの高原発 15:00 霧島自然ふれあいセンター着	※ 荒天時は、えびのエコミュージアムセンターやビジターセンター等の近隣施設の見学も可能です。 ※ 2019年12月20日現在、エコミュージアムセンター駐車場横の登山口より登山
--	---

連 絡 荒天時の態度決定、登山開始時及び終了時・緊急事態発生時に連絡

危険箇所 3合目付近から6合目付近までは、ルート上の落石に注意。8合目付近から設置してあるロープや柵を越えない。頂上付近の岩場からの転落注意。

無線交信可能地点
登山口付近と5号目以上は交信可能。

留意事項

- (1) 引率指導者の指示を守る。
- (2) 常に班で行動し、単独行動をしない。
- (3) 体力に応じたペースで歩行し、適宜休憩をとる。
- (4) 危険区域及び火口壁に近づかない。
- (5) 落石に注意する。
- (6) 緊急事態が発生したら、直ちに近くの引率指導者に連絡する。
- (7) 自然を大切にする。
- (8) ゴミはすべて持ち帰る。

季節による見所等

＜眺望、観察ポイント＞

- ・ 5合目地点からのえびの高原・甑岳・えびの市方向の眺望。5合目以上に群生するミヤコザサやミヤマキリシマ。
- ・ 頂上からの大浪池、獅子戸岳、新燃岳、高千穂峰、錦江湾に浮かぶ桜島、開聞岳、高隈山系、紫尾山系、宮崎県側の九州山地等の眺望。

春：新緑、花(ヤマヤナギ、ハルリンドウ、キリシマミズキ、ヒカゲツツジ、シロモジ、カナグキノキ、キリシマミツバツツジ、ミヤマキリシマ、ニガイチゴ等) 野鳥(エナガ、ウグイス等)

夏：花(シロドウダン、ベニドウダン、ニシキウツギ、ヤマボウシ、ネジキ、コバノグロツル、ノリウツギ等)、野鳥(ホトトギス・カッコウ等)

秋：紅葉、えびの高原のススキ 花(キリシマノガリヤス、フクオウソウ、ツクシゼリ等)

冬：霧氷・樹氷、雪景色

歴史等 霧島連山の最高峰(1,700m)の韓国岳は、約3万年前の火山活動により隆起し、約1万7千年前の噴火で現在の山容が形成された。約7千年前の水蒸気爆発により北西部の火口縁が大きく欠けました。その跡は、爆裂火口と呼ばれています。

韓国岳麓の硫黄山は、霧島連山で最も新しい火山で、昭和37年まで硫黄の採掘が行われていました。最盛期には、毎月150トンもの硫黄が生産され、硫酸やマッチの製造に利用されていました。

韓国岳コース



エコミュージアムセンター



韓国岳登山口



つつじヶ丘散策路付近



5合目



山頂

えびの高原池めぐりコース（白鳥山を含む）

趣 旨 三つの火口湖（不動池、六観音御池、白紫池）と周辺の自然の観察を通して、自然と人間とのかかわりを大切にする心情を培い、自然に対する畏敬の念を育てる機会とする。

日程例

09:00 霧島自然ふれあいセンター発
 09:30 えびの高原駐車場着
 09:40 えびの高原駐車場発
 10:20 二湖パノラマ展望台
 10:45 白鳥山山頂
 11:10 白鳥山北展望台
 11:50 六観音御池展望台 （昼食）
 12:40 不動池
 13:10 六観音御池
 13:35 白紫池
 14:05 えびの高原駐車場着
 14:15 えびの高原駐車場発
 14:45 霧島自然ふれあいセンター着

※ 荒天時は、えびのエコミュージアムセンターやビジターセンター等の近隣施設の見学も可能です。

※ 2019年12月20日現在、県道1号線通行止めのため、不動池からえびのエコミュージアムセンターは立入禁止です。

連 絡 荒天時の態度決定、登山開始時及び終了時、緊急事態発生時に連絡

危険箇所 白鳥山山頂付近の落石。北展望台から白鳥山北登山口までの下山道。

無線交信可能地点

白鳥山山頂上だけで、ルート上にはない。

- 留意事項**
- (1) 引率指導者の指示を守る。
 - (2) 常に班で行動し、単独行動をしない。
 - (3) 体力に応じたペースで歩行し、適宜休憩をとる。
 - (4) 危険区域及び火口壁に近づかない。
 - (5) 落石には、特に注意する。
 - (6) 緊急事態が発生したら、直ちに近くの引率指導者に連絡する。
 - (7) 自然を大切にする。
 - (8) ゴミはすべて持ち帰る。

季節による見所等

<眺望、観察ポイント>

- ・ 六観音御池付近の巨大杉と展望所からの眺望
- ・ えびの高原駐車場からえびの高原、白紫池までの中間地点のアカマツ林、ミヤコザサ
- ・ シカの生息を示す痕跡、アカマツ林の背の低いミヤコザサ、剪定したようなイヌツゲ、枝の折れたノリウツギ、リョウブ、ヤマウルシの木の皮のはがれた部分

春：白紫池に映える新緑、動物の食事跡やフン、花（ナナカマド・ヤブツバキ・シロモジ・ヤマヤナキ・タチツボスミレ・アケビ・ムベ・ハルリンドウ・ヤマザクラ・キリシマミズキ・カナクギノキ等）、野鳥（エナガ・ゴジュウカラ・ヤマガラ・ウグイス・アオゲラ等）

夏：動物の食事跡やフン、木陰での清涼感、樹木や土の匂い、花（ナツツバキ・リョウブ・コバノクロツル・ノリウツギ等）、野鳥（ホトトギス・カツコウ等）

秋：紅葉（ナナカマド・コミネカエデ・ウリハダカエデ・オオモミジ・コハウチワカエデ等）、シカの鳴き声、六観音御池に映える紅葉、動物の食事跡やフン

冬：雪に残された動物の足跡、動物の食事跡やフン、白紫池の氷結、野鳥（キンクロハジロ・マガモ・コガモ・カルガモ等）

歴史等

白紫池の北西に位置する白鳥山は、約10万年前の火山活動でできた山ですが、その火口は白紫池の火山噴出物により埋もれてしまったそうです。その他の2つの池も同じく火口の跡で、不動池の近くには不動池の火口から吹き出したマグマの跡である溶岩堤防も見られます。

白鳥山の由来は、ヤマトタケルが白鳥に姿を変え、この地に住んだという伝説から。また、六観音御池は、平安時代に性空上人が、湖の畔に六体の観音像を安置したことによります。

えびの高原池めぐりコース（白鳥山を含む）



白鳥山山頂



白鳥山北展望台



六観音御池展望台



二湖パノラマ展望台



えびの展望台



えびのエコミュージアムセンター

大浪池登山

趣 旨 霧島連山10湖23座の内の一つ大浪池(1,412m)周辺の自然の観察を通して、自然と人間とのかかわりを大切にする心情を培い、自然に対する畏敬の念を育てる機会とする。

日程例

09:00 霧島自然ふれあいセンター発 ※ 荒天時は、えびのエコミュージアムセンターや
 09:25 大浪池登山口着(トイレ) ビジターセンター等の近隣施設の見学も可能です。
 09:35 大浪池登山口発
 10:20 大浪池展望所着・休憩
 10:35 大浪池展望所発(東回り) ⇨ 展望所から折り返し、登山口へ帰るコースもあり
 11:00 大浪池山頂 ます。(往復約1.5時間)
 11:25 大浪池韓国岳鞍部着・昼食
 12:00 大浪池韓国岳鞍部発
 12:45 大浪池展望所着・休憩
 12:55 大浪池展望所発
 13:30 大浪池登山口着
 14:15 霧島自然ふれあいセンター着

連 絡 荒天時の態度決定、登山開始時及び終了時、緊急事態発生時に連絡

危険箇所 周回ルート上の火口壁、大浪池山頂付近及び鞍部付近に張ってあるロープを越えない。

無線交信可能地点 ※ 鞍部からは、えびの高原付近への交信可能
 登山口から大浪池展望所、大浪池展望所から鞍部入口まで、西側火口上部展望所

留意事項 (1) 引率指導者の指示を守る。
 (2) 常に班で行動し、単独行動をしない。
 (3) 体力に応じたペースで歩行し、適宜休憩をとる。
 (4) 危険区域及び火口壁に近づかない。
 (5) 落石を起こさない。
 (6) 緊急事態が発生したら、直ちに近くの引率指導者に連絡する。
 (7) 自然を大切にする。
 (8) ゴミはすべて持ち帰る。

季節による見所等

<眺望、観察ポイント>

- ・ 展望所付近からの大浪池と韓国岳の眺望。桜島・錦江湾方面の眺望、大浪池山頂からの新燃岳及び高千穂峰方向への眺望。鞍部から大浪池展望所までの大浪池や韓国岳及びえびの高原、栗野岳方向の眺望。
- 春：登山口の周辺や鞍部付近の野鳥(エナガ・ゴジュウカラ・ヤマガラ・ウグイス・アオゲラ等)、周回ルート周辺の花(マンサク・ヤブツバキ・フクジュソウ・アオモジ・ハルリンドウ・キリシマミズキ・ミツバツツジ・ミヤマキリシマ等)
- 夏：登山口の周辺・鞍部付近の野鳥(ヤマガラ・ホトトギス・カッコウ・ブッポウソウ等)、花(シロドウダン・スイカズラ・ナツツバキ・ネジキ・ヒメシャラ・ノリウツギ等)
- 秋：火口周辺の紅葉(ヤマウルシ・ツタウルシ・コハウチワカエデ・ナナカマド・ミズナラ)、シカの鳴き声、動物の食事跡やフン
- 冬：雪に残された動物の足跡、動物の食事跡やフン、野鳥(マガモ・カルガモ・キンクロハジロ等)

歴史等 約5万年前の噴火で生まれました。水面は1,239mの高さにあり、全国で最も標高の高い火口湖です。この湖の名前の由来として、その昔、「おなみ」という少女が湖面に飛び込み、龍に変化したという伝説がありますが、風が強いと湖面に大波が立つので、大浪池と呼ばれたという説もあります。蘭牟田池の外輪山「竜石伝説」との関わりもあります。

大浪池登山コース



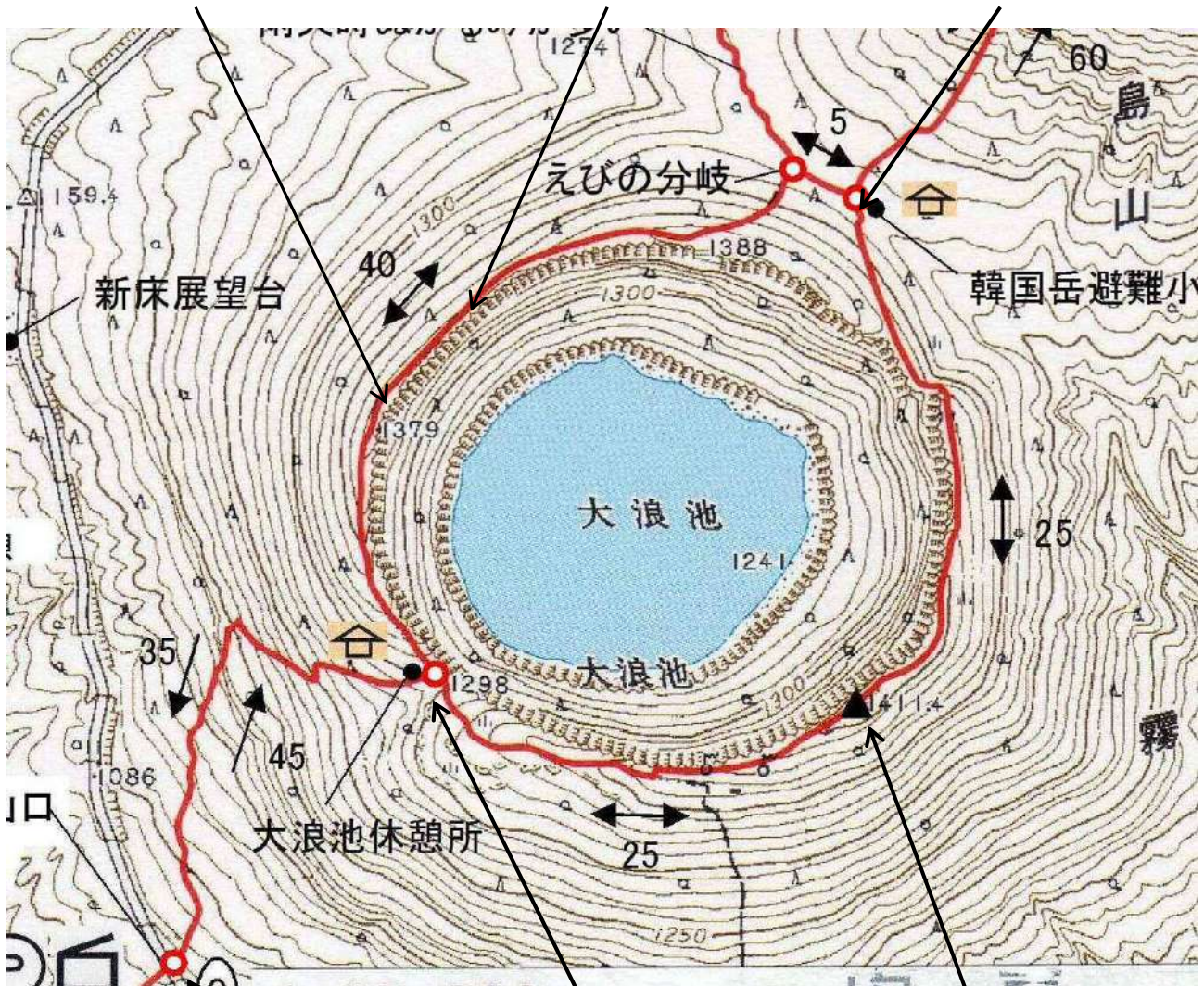
栗野岳方面を望む



細い歩道



大浪池鞍部



大浪池登山口



大浪池展望所



大浪池山頂付近から新燃岳を望む

高千穂峰登山

趣 旨 霧島連山の霊峰（1,574m）高千穂峰に登り、自然のすばらしさや美しさ、厳しさに直接ふれることにより、自然に対する畏敬の念を育てる機会とする。

日程例

09:00 霧島自然ふれあいセンター発
 09:35 高千穂河原駐車場着（トイレ）※ 荒天時は、えびのエコミュージアムセンターや
 09:45 高千穂河原出発 ビジターセンター等の近隣施設の見学も可能です。
 10:45 御鉢着
 10:50 御鉢発
 11:40 高千穂峰山頂着・昼食
 12:30 高千穂峰山頂発
 13:10 御鉢着
 14:00 高千穂河原着・ビジターセンター見学
 14:25 高千穂河原発
 15:00 霧島自然ふれあいセンター着

連 絡 荒天時の態度決定、登山開始時及び終了時、緊急事態発生時に連絡

危険箇所

- ・ 御鉢斜面のガレ場落石転落注意
- ・ 馬の背越え左右転落注意
- ・ 下山時の転倒注意

無線交信可能地点

高千穂河原駐車場付近及び御鉢、馬の背、高千穂峰中腹以上の地点

留意事項

- (1) 引率指導者の指示を守る。
- (2) 常に班で行動し、単独行動をしない。
- (3) 体力に応じたペースで歩行し、適宜休憩をとる。
- (4) 危険区域及び火口壁に近づかない。
- (5) 落石を起こさない。
- (6) 緊急事態が発生したら、直ちに近くの引率指導者に連絡する。
- (7) 自然を大切にする。
- (8) ゴミはすべて持ち帰る。

季節による見所等

<眺望、観察ポイント>

- ・ 御鉢や馬の背からの中岳、新燃岳、大浪池、韓国岳及び高千穂河原方向
- ・ 天の逆鉾、高千穂峰頂上からの韓国岳、御池、志布志湾、錦江湾方向

春：新緑、花（コショウノキ、シロモジ、キブシ、ミヤマシキミ、ヤマザクラ、カナクギノキ、ミヤマキリシマ等） 野鳥（エナガ、コゲラ、ウグイス、シジュウカラ等）
 夏：花（コガクウツギ、キリシマグミ、ヤマボウシ、ムラサキシキブ、ノリウツギ等）、野鳥（カケス、ホトトギス・カッコウ等）
 秋：高千穂河原周辺の紅葉（ヤマウルシ、ツタウルシ、ウリハダカエデ等）、花（ルツボ、ヤブレガサ、ツクシアザミ、ハリギリ、ホソバノヤマハハコ等）、鹿の鳴き声
 冬：霧氷・樹氷、雪景色、雪に残された動物の足跡

歴史等 約7千年前の火山活動により生まれた円錐形の美しい火山です。天孫降臨の神話が残る山でもあり、山頂には、天の逆鉾があります。幕末に坂本龍馬が引き抜いたのはあまりにも有名な逸話です。

また、馬の背からは御鉢と呼ばれる巨大な火口が見られ、火口縁には幾層にも積み重なった造山堆積の様子をはっきりと見ることができます。

高千穂コース



ビジターセンター



登山道ガレ場（登山中）



登山道ガレ場（下山中）



御鉢火口縁 馬の背



霧島神宮元宮址



山頂・天の逆鉾

栗野岳登山

趣 旨 栗野岳(1,094m)登山を通して、自然の素晴らしさや美しさ、厳しさに直接ふれることにより、自然と人間とのかかわりを大切にする心情を培い、困難に打ち勝つ強さと、自然への畏敬の念を育てる機会とする。

日程例	1 栗野岳登山コース	2 大霧地熱発電所 栗野岳見晴台コース	3 霧島アートの森 栗野岳見晴台コース
	9:00 センター発	9:00 センター発	9:00 センター発
	9:30 枕木階段	9:30 大霧地熱発電所	9:30 枕木階段
	9:45 栗野岳登山口	10:45 (バス移動)	10:50 モミジ原生林
	10:45 見晴台	11:00 枕木階段	11:00 見晴台
	11:20 山頂(昼食)	12:20 モミジ原生林	12:30 枕木階段(昼食)
	12:20 モミジ原生林	12:30 見晴台(昼食)	13:15 霧島アートの森着
	13:40 枕木階段	14:30 枕木階段	14:40 霧島アートの森発

※ 枕木階段からふれあいセンターまでバスで約 40 分

連 絡 ・ 荒天時の態度決定、登山開始時及び終了時、緊急事態発生時に連絡

危険箇所 見晴台から山頂にかけて急な岩場がある。足場を確認しながら進む。(ロープに頼らない)

無線交信可能地点 見晴台及び山頂

- 留意事項**
- (1) 引率指導者の指示を守る。
 - (2) 常に班で行動し、単独行動をしない。
 - (3) 体力に応じたペースで歩行し、適宜休憩をとる。
 - (4) 危険区域及び火口壁に近づかない。
 - (5) 落石を起こさない。
 - (6) 緊急事態が発生したら、直ちに近くの引率指導者に連絡する。
 - (7) 自然を大切にする。
 - (8) ゴミはすべて持ち帰る。

季節による見所等

＜眺望、観察ポイント＞

- ・ 栗野岳見晴台からの眺望
韓国岳を中心とした霧島連山、加久藤カルデラ内のえびの市街地、伊佐平野、錦江湾に浮かぶ桜島や高隈山系の山々。
- ・ 日本一の枕木階段
昭和 63 年に廃線となった JR 山野線の枕木を利用して造られた「日本一の枕木階段」と展望台からの眺望。
- ・ モミジ原生林
ウリハダカエデ・シロモジ・ミズナラ等の紅葉。
- ・ 棕鳩十文学碑
「栗野岳の主」の舞台。文学碑は、枕木階段に隣接したレクリエーション村にある。
- ・ 霧島アートの森
栗野岳麓の標高 700m の高原にある日本有数の現代彫刻美術館。国内外で活躍している現代作家たちのオリジナル作品が多数展示されている。
- ・ 大霧発電所
霧島連山と栗野岳に囲まれた丘陵地に位置する地熱発電所。

歴史等 約 30 万年前に活動が始まったとされる加久藤カルデラの外輪に位置し、約 20 万年前の火山活動でできた霧島連山でも最も古い山の一つです。長年の浸食でなだらかな山容になっており、明確な火口跡は見られません。江戸時代には、ミョウバンの鉱山がありました。

栗野岳登山コース



甕岳登山

趣 旨 甕岳（1,301m）登山を通して、自然と人間の関わりを大切にする心情を培い、参加者同士の心のふれあいや絆を深めるとともに、自然に対する畏敬の念を育てる機会とする。

日程例

9:00 自然ふれあいセンター発	13:30 六観音御池
9:30 えびの高原駐車場着（トイレ）	13:55 白紫池
9:45 えびの高原駐車場発	14:25 えびの高原駐車場着
10:05 甕岳分岐	14:35 えびの高原駐車場着
10:40 六観音御池（休憩）	15:00 霧島自然ふれあいセンター着
11:00 甕岳・県道分岐	
12:00 甕岳頂上・池塘（昼食）	※ 荒天時は、えびのエコミュージアムセンターやビジターセンター等の見学もできます。
12:30 甕岳発	

※ 2019年12月20日現在、県道1号線通行止めのため、不動池～えびのエコミュージアムセンターは立入禁止です。

連 絡 荒天時の態度決定、登山開始時及び終了時、緊急事態発生時に連絡

危険箇所

- ・ 県道分岐までの浮き石。
- ・ 5合目からの狭く、傾斜が急な登山道と浮き石（下山時の転倒に注意）。

無線交信可能地点
山頂から不動池駐車場

留意事項

- (1) 引率指導者の指示を守る。
- (2) 常に班で行動し、単独行動をとらない。
- (3) 体力に応じた歩行ペースと休憩をとる。
- (4) 危険区域及び火口壁に近づかない。
- (5) 落石を起こさない。
- (6) 緊急事態が発生したら、直ちに近くの引率指導者に連絡する。
- (7) 自然を大切にする。
- (8) ゴミはすべて持ち帰る。

季節による見所等

＜眺望、観察ポイント＞

- ・ 山頂から六観音御池、韓国岳、えびの高原、硫黄山、不動池の眺望。
 - ・ 浅く窪んだ火口のススキの草原と低層湿原。
- 春：新緑、動物の食事跡やフン。花（ハルリンドウ、シロモジ、ミヤマキリシマ等）、野鳥（エナガ、コゲラ、ウグイス、シジュウカラ等）、昆虫（ヤゴ・ゲンゴロウ等）
- 夏：花（コガクウツギ、ムラサキシキブ、ノリウツギ等）、野鳥（カケス、ホトトギス・カッコウ等）、昆虫（オオルリボシヤンマ）
- 秋：ススキと紅葉（ヤマウルシ、ツタウルシ、ウリハダカエデ等）、花（キリシマリンドウ、キリシマアザミ、センモウゴケ、ヤマラッキョウ等）、鹿の鳴き声
- 冬：霧氷・樹氷、雪景色、雪に残された動物の足跡

歴史等 約3万年前頃に生まれた成層火山です。なだらかな台形状の姿は、大量の溶岩を吹き出した名残です。甕岳の名の由来は、弥生時代から古代にかけて米の蒸し器として使用された土器（甕）を伏せた形に似ていることによります。霧島錦江湾国立公園の特別保護区になっており、火口原の中心部は霧島山系最大の湿原（池塘：高層湿原の池）で、独自の環境からモウセンゴケ等の湿原植物や多くの生物が見られます。

甑岳コース図



注意：下山時の急な下り



山頂・火口部入口



火口部・池塘



えびのエコミュージアムセンター



甑岳分岐



甑岳・県道分岐



大浪池～韓国岳～えびの高原登山

趣 旨 大浪池登山口から韓国岳山頂を経由してえびの高原に至るコースを踏破することで、自然の素晴らしさや美しさ、厳しさに直接ふれることで、自然と人間の関わりを大切にする心情を培い、参加者同士の心のふれあいや絆を深めるとともに、自然に対する畏敬の念を育む機会とする。

日程例

09：00 霧島自然ふれあいセンター発
 09：30 大浪池登山口着（トイレ） ※ 荒天時は、えびのエコミュージアムセンターや近隣施設の見学も可能です。
 09：40 大浪池登山口発
 10：25 大浪池展望所着
 10：35 展望所発
 11：25 大浪池，韓国岳鞍部～避難小屋着
 12：25 韓国岳山頂着，昼食
 12：55 山頂発
 13：50 韓国岳登山口着
 14：10 えびのエコミュージアムセンター見学
 14：40 えびのエコミュージアムセンター発
 15：10 霧島自然ふれあいセンター着

連 絡 荒天時の態度決定，登山開始時及び終了時，緊急事態発生時に連絡

危険箇所

- ・ 大浪池一周ルート上の火口壁，大浪池付近及び鞍部に張ってあるロープを絶対に超えない。
- ・ 4合目付近のガレ場（ロープをつたって登る）
- ・ 鞍部の避難小屋から東側に侵入しない。鞍部から韓国岳登山ルート上はコースを外れない。
- ・ 頂上から下山開始地点では，左に降りないように注意（大浪池ルートに行く恐れあり）

※ 2009年10月に当時小学5年生男児が遭難し，死亡した事案がある。（韓国岳8合目付近）

無線交信可能地点

大浪池山頂付近，韓国岳5合目以上

留意事項

- (1) 引率指導者の指示を守る。
- (2) 常に班で行動し，単独行動をしない。
- (3) 体力に応じたペースで歩行し，適宜休憩をとる。
- (4) 危険区域及び火口壁に近づかない。
- (5) 落石を起こさない。
- (6) 緊急事態が発生したら，直ちに近くの引率指導者に連絡する。
- (7) 自然を大切にする。
- (8) ゴミはすべて持ち帰る。

季節による見所等

<眺望，観察ポイント>

- ・ 大浪池展望所付近からの池と韓国岳の眺望，桜島方面の眺望を楽しむことができる。
 - ・ 頂上からの大浪池，獅子戸岳，新燃岳，高千穂峰，錦江湾に浮かぶ桜島，開聞岳，高隈山，紫尾山，宮崎県側の九州山地等の眺望を楽しむことができる。
- ⇨ その他，「韓国岳登山」，「大浪池登山」を参照。

歴史等 「韓国岳登山」，「大浪池登山」を参照。

大浪池～韓国岳登山～えびの高原



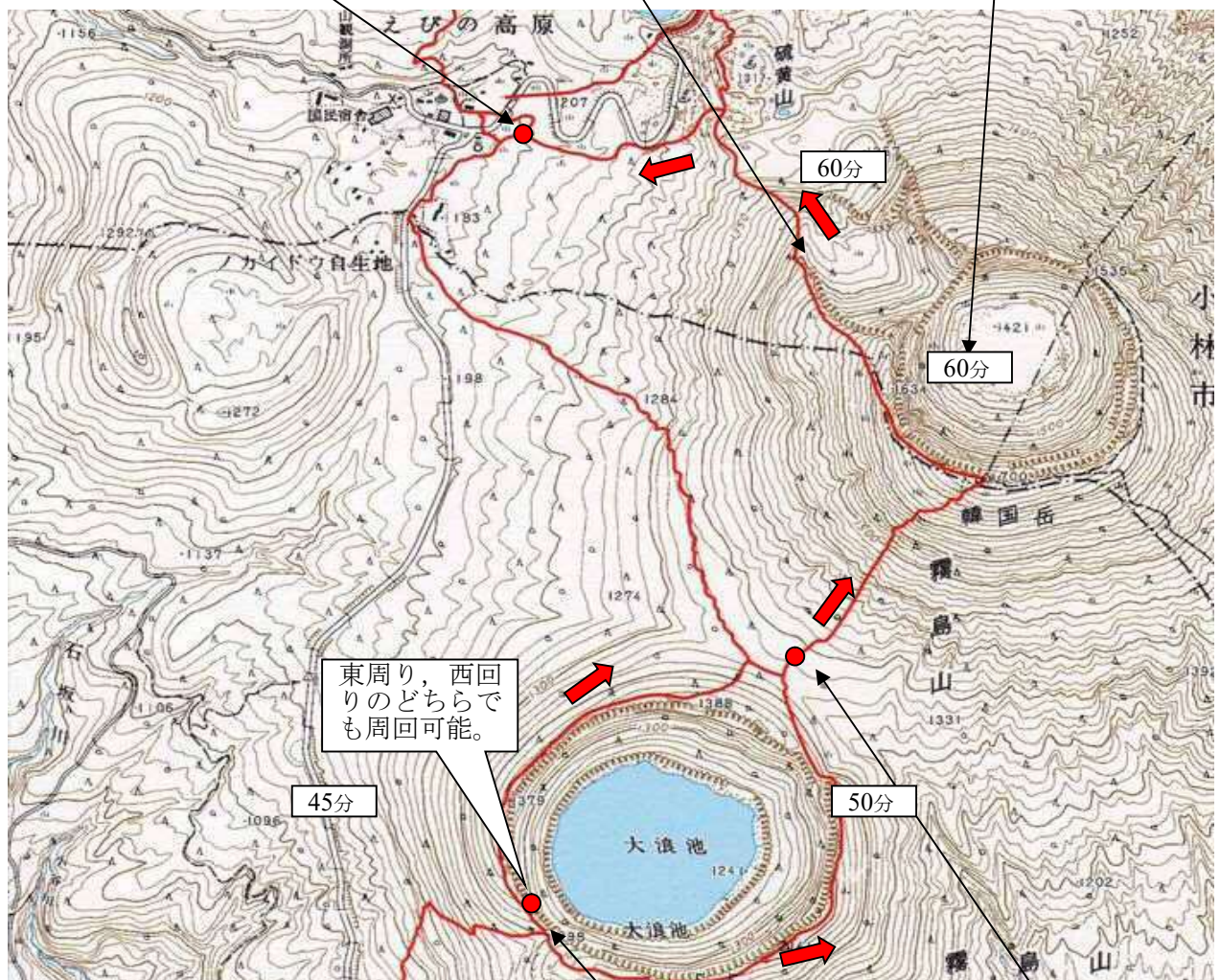
韓国岳登山入口



5合目付近



韓国岳山頂付近



大浪池登山口



展望所付近



避難小屋

中岳中腹探勝路登山

趣 旨 中岳中腹へ向かう探勝路（最高地点1,112m）を散策しながら、霧島山の植生や中岳、高千穂峰の眺望を楽しみながら、自然の素晴らしさや美しさ、厳しさに直接ふれ、自然と人間の関わりを大切にする心情を培うとともに、参加者同士の心のふれあいや絆を深め、自然に対する畏敬の念を育む機会とする。

日程例

09:00	霧島自然ふれあいセンター発	
09:35	ビジターセンター駐車場着	※ 荒天時は、えびのエコミュージアムセンターや
09:50	出発（トイレ）	ビジターセンター等の見学ができます。
10:10	つつじコース入口	
	眺望場所（高千穂峰、中岳）	
10:30	新燃岳噴石跡	
10:40	探勝路最高地点（折り返し点）	
11:00	つつじコースまたは紅葉コース	
11:10	ビジターセンター着	
	ビジターセンター見学	
12:00	昼食等	
13:00	ビジターセンター発	
13:30	霧島自然ふれあいセンター着	

連 絡 荒天時の態度決定、登山開始時及び終了時、緊急事態発生時に連絡

危険箇所 ・ 登山口からつつじコースへ至る石畳や石段（雨天時は特に滑りやすい）。
・ コース上にある小橋は狭く、防護柵もない。

無線交信可能地点

最高点折返し付近

留意事項

- (1) 引率指導者の指示を守る。
- (2) 常に班で行動し、単独行動をしない。
- (3) 体力に応じたペースで歩行し、適宜休憩をとる。
- (4) 危険区域に近づかない。
- (5) 落石を起こさないようにする。
- (6) 緊急事態が発生したら、直ちに近くの引率指導者に連絡する。
- (7) 自然を大切にする。
- (8) ゴミはすべて持ち帰る。
- (9) 新燃岳の噴火警戒レベル等、最新の情報を入手し、慎重に計画を練る。

季節による見所等

＜眺望、観察ポイント＞

- ・ 探勝路最高地点からは、中岳、高千穂峰、錦江湾や桜島等の眺望ができる。
- ・ ミヤマキリシマの群生地。特に春から初夏にかけて咲く花々。
- ・ 春から初夏の新緑を、秋の紅葉。サワフタギやコバノガマズミ等の樹木。
- ・ 最高地点の折り返しコースは2つのルート（つつじコース、もみじコース）があり、季節に応じたトレッキングコースを選択できる。

歴史等 約1万年前の火山活動で生まれた火山（標高1,350m）です。高原状のなだらかな山頂部には、2つの主火口があり溶岩ドームも残るほか、小さな火口が5個以上も確認されています。

登山道周辺には、2011年の新燃岳噴火による火山噴出物の礫が厚く堆積しており、火山弾が直撃した跡も残っています。また、この噴火により中岳周辺の植生は大打撃を受けましたが、現在、ミヤマキリシマ等も再生しつつあります。

中岳中腹探勝路



つつじコース、もみじコース
分岐点



火山弾跡



眺望ポイント



登山道



登山口付近



つつじコース入口付近

霧島滝めぐりウォーク

趣 旨 原生林を巡る遊歩道や周辺の名所をめぐりながら、自然の豊かさにふれるとともに、自然観察を通して、自然と人間との関わりを大切にする心情を培い、参加者同士の心のふれあいや絆を深める。

日程例

09：30 霧島自然ふれあいセンター発
 10：05 花房滝着 (10：10 花房滝発)
 11：00 丸尾自然探勝路、布引滝着 (11：10 布引滝発)
 ※ 丸尾自然探勝路途中で必要に応じ休憩をとる。
 11：20 千畳敷（自然探勝路内での昼食も可能）
 11：40 丸尾滝着 (11：50 丸尾滝発)
 12：20 霧島自然ふれあいセンター着

連 絡 荒天時の態度決定、登山開始時及び終了時、緊急事態発生時に連絡

危険箇所 ・ 山道の木の根やコケ等で、県道では、丸尾滝への狭い歩道が滑りやすいので注意する。
 ・ 温泉の水蒸気が噴気している付近には近づかない。

無線交信可能地点

ルート上は無線交信できる。

留意事項 (1) 引率指導者の指示を守る。
 (2) 常に班で行動し、単独行動しない。
 (3) 体力に応じた歩行ペースと適時休憩をとる。
 (4) 緊急事態が発生したら、直ちに近くの引率指導者に連絡する。
 (5) 自然を大切にする。
 (6) ゴミはすべて持ち帰る。

季節による見所等

- ・ 花房滝：小谷川上流の高千穂地区にある高さ 19.2m、幅 16.8mの滝
- ・ 丸尾滝：高さ 23m、幅 16mの滝。柱状節理が見られる。
- ・ 布引滝：丸尾滝上流にある滝。滝からの流れは、長さ 200m、幅 15mの岩盤の川床が広がる千畳敷を経て丸尾滝へとつながる。
- ・ 最古の岩風呂：霧島最古といわれる岩風呂
- ・ 野生動物（シカ、タヌキ等）の姿や痕跡。ヤマガラやコゲラ等の野鳥のさえずりも聞こえる。
 （参考：霧島市公式ホームページ）

霧島滝めぐりウォークコース図

【コース】

ふれあいセンター発 → (霧島高原乗馬クラブ) → (旅行人山荘)

布引滝 ← 霧島最古の岩風呂 ← 花房滝
 千畳敷 → 丸尾滝 → ふれあいセンター着



散策路沿いの俳句



左への分岐地点



花房滝



霧島最古の岩風呂



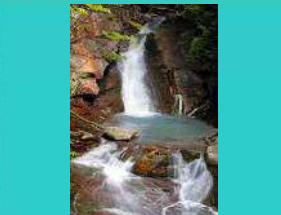
スタート・ゴール



丸尾滝



千畳敷



布引滝

丸尾自然探勝路散策

趣 旨 霧島の豊かな自然の中を散策し、雄大な自然との出会いに感動しながら、自然に対する興味を深める。

日 程

09：30 霧島自然ふれあいセンター発
10：30 丸尾自然探勝路入口着
11：30 丸尾自然探勝路出口着
11：40 千畳敷着 千畳敷見学（15分）
11：55 千畳敷発
12：15 丸尾滝着 丸尾滝見学（15分）
12：30 丸尾滝発
13：00 霧島自然ふれあいセンター着

連 絡 荒天時の態度決定、登山開始時及び終了時、緊急事態発生時に連絡

危険箇所 ・ 山道の木の根やコケ等で、県道では、丸尾滝への狭い歩道が滑りやすいので注意する。
・ 温泉の水蒸気が噴気している付近には近づかない。

無線交信可能地点

ルート上は無線交信できる。

留意事項 (1) 引率指導者の指示を守る。
(2) 常に班で行動し、単独行動をしない。
(3) 体力に応じた歩行ペースと休憩をとる。
(4) 緊急事態が発生したら、直ちに近くの引率指導者に連絡する。
(5) 自然を大切にする。
(6) ゴミはすべて持ち帰る。

季節による見所等

・ 丸尾滝、千畳敷、布引滝、最古の岩風呂等については「霧島滝めぐりウォーク」を参照。

丸尾自然探勝路コース図



柳ヶ平散策

ね ら い	霧島の豊かな自然の中を散策し、雄大な自然との出会いに感動しながら、自然に対する興味を深める。	
時間・費用	・ 2～3時間	・ 無料
対象・人数	・ 幼児以上	・ 100人程度
場 所	柳ヶ平（霧島市牧園町高千穂）	
準備・道具	【参加者が準備する物】 ・ 筆記用具、メモ帳 ・ 植物図鑑 【ふれあいセンターで準備する物】 ・ 双眼鏡 ・ 植物図鑑	
コース等	ふれあいセンター→柳ヶ平散策路（命の洗濯場）→ふれあいセンター	
留意事項	(1) 事前踏査を十分に行い、安全面に十分留意しましょう。 (2) 貸出用具を確実に返却しましょう。 (3) むやみに採集しないよう、自然保護に気を付けましょう。	
実施方法	【内 容】 ※ 貸し出し用具の借用 1 整列、あいさつ 2 散策の心構え、コースの説明 3 植物・樹木・生き物観察 (1) 植物や樹木を図鑑で調べる。 (2) 生き物の種類を調べる。 4 命の洗濯場からの眺望 (1) 東方に霧島山、南方に錦江湾と桜島等、地理を調べる。 5 まとめ 気付いたこと、発見したことなどを発表する。 ※ 貸し出し用具の返却	【留 意 点】 ○ 野外活動は無理なく楽しく行う。 ○ 道路を歩くときには、交通ルールを守る。 ○ 図鑑を参照する。 ○ むやみに採らない、捕らない。

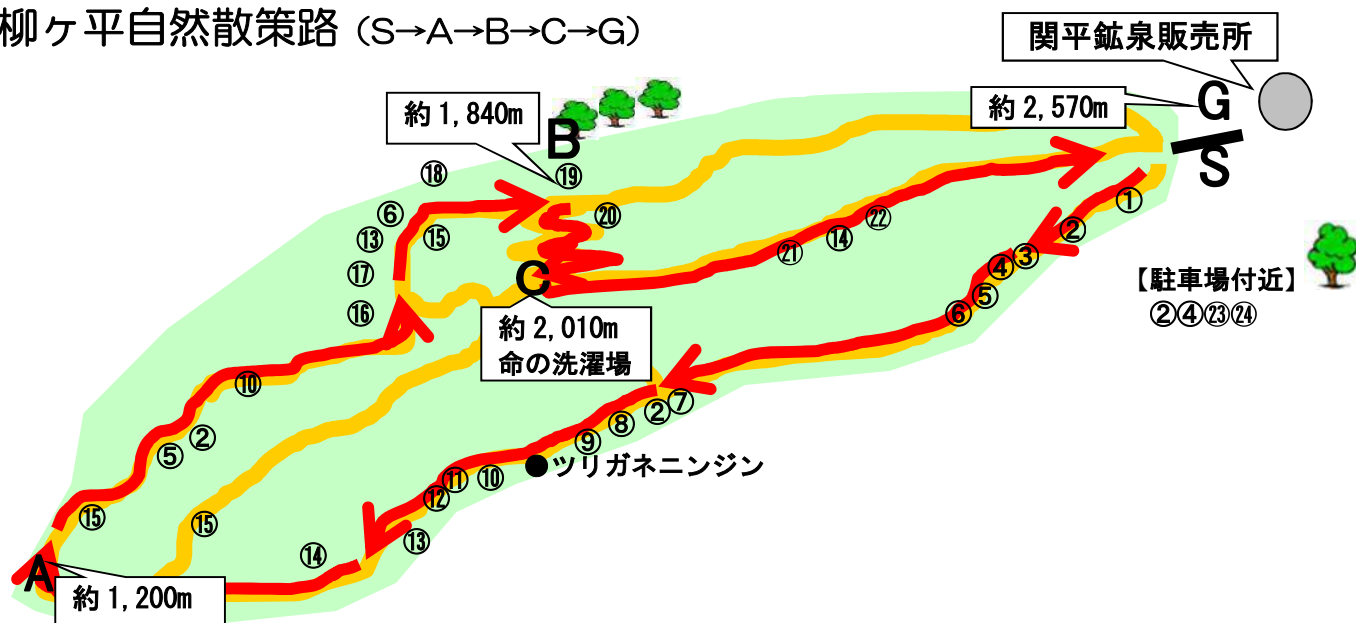
MAP



季節による見所等＜眺望、観察ポイント＞

- ・ 平成19年3月、鹿児島県で初めて「森林セラピー基地」に認定された霧島の森の一つである。（他に「丸尾自然探勝路」と「手洗散策路」がある。）
- ・ 丘陵地の頂上から東方に霧島山、南方に錦江湾と桜島が一望できる360°大パノラマが広がり、「命の洗濯場」とも呼ばれている。

柳ヶ平自然散策路 (S→A→B→C→G)



植物の簡単豆知識

番号	植物名 (花期)	説 明
①	アカメガシワ (夏)	新葉の芽出し部分が赤いので「アカメ」。
②	ムベ (春)	葉は3〜7枚の小葉からなり、厚くて光沢がある。先がとがっている。5月頃、白い花をつける。薄紫色っぽいものもある。アケビと違って、熟して裂開しない。
③	チジミザサ (秋)	歯の形がササに似ていて、やや縮んだようなしわがある。
④	エビツル (夏)	秋には、ぶどうに似た房状の実を付ける。
⑤	ガマズミ (夏)	「神つ実」。ズミと付くことから、染料として用いられた？霜が降る頃には、実が甘くなり、食べられる。
⑥	イヌザンショウ (夏)	サンショウより香りが悪い。とげは互生。
⑦	イロハモミジ (春)	イロハカエデとも呼ばれ、秋には紅葉する。
⑧	ハゼ (春)	秋の季語。果実は、「薩摩の実」と呼ばれる。薩摩藩は、パリ万博にハゼで作った木蠟を出品している。
⑨	マルバハギ (秋)	花柄が短く、葉の間に咲いているように見える。
⑩	ウルシ (夏)	樹皮から漆を採る。果実は乾かして絞って木蠟をとる。
⑪	ヘクソカズラ (夏)	「ヤイトバナ」「サオトメバナ」とも言う。リースの材料としても重宝。生の実は臭いが、乾燥すると臭いは消える。
⑫	イタドリ (夏)	茎は中空。竹に似る。種には3枚の葉。
⑬	ネムノキ (夏)	夜になると葉が閉じる(就眠運動)ことからネムノキ。「合歓木」は、夫婦円満の象徴。花言葉は「歓喜」。夏の季語
⑭	エノコログサ (秋)	「犬っころ草 (いぬっころぐさ)」が転じてエノコログサ。脱穀して食べることができる。(粟の原型) ネコジャラシ。
⑮	クリ (春)	春先になると白い花が咲き始め、その頃悪臭がする。秋には実ができる。
⑯	アオツツラフジ (夏)	有毒。ツツラを編むのに使われる。
⑰	クサギ (夏)	葉に臭みがある。星形に開く。
⑱	ベニバナボロギク (秋)	伐採後に出現(先駆植物)。家畜や家禽のえさになる。国外では、野菜として利用しているところもある。
⑲	ヤマジノホトギス (秋)	おしべには紫色の斑紋はない。花は葉腋に1〜数個咲くが、小さな個体や一度刈り取られた個体では、頂部にしか花が咲かないことが多い。
⑳	カラスザンショウ (夏)	サンショウより大きな葉。紅紫色の実。枝はすりこぎに使う。
㉑	オオエノコログサ (秋)	アワとエノコログサの交雑種である。
㉒	ナンバンギセル (夏)	ススキの根に寄生する。葉は退化しているため、光合成はできない。
㉓	ヤマイモ (夏)	雌雄異株、雄花は上向き、雌花は下向きになっている。秋には、ムカゴができ、食べられる。
㉔	カラスウリ (夏)	秋には朱色の果実ができ、夜間だけ花が開くことが知られている。

龍馬チャレンジハイク

趣 旨 偉業を残した先人の足跡を訪ね、霧島の豊かな自然を探訪する中で、心身のリフレッシュを図る。

日 程

(1) スーパーチャレンジコース (6 時間)

- 10:00 塩浸温泉龍馬公園出発
- 10:05 龍馬の散歩道
- 12:00 和気神社着(昼食)
- 12:30 和気神社発
- 14:00 中津川郵便局
- 15:00 母ヶ野分岐
- 16:00 霧島自然ふれあいセンター着

(2) チャレンジコース (4 時間)

和気神社 → 中津川地区 → 中津川郵便局 → 母ヶ野 → ふれあいセンター

(3) 龍馬の散歩道コース (2 時間)

塩浸温泉龍馬公園 → 龍馬の散歩道 → 和気神社

※ オプション：和気神社～犬飼の滝遊歩道～和気神社 (1 時間)



坂本龍馬は、慶応2(1866)年3月、西郷隆盛らのすすめで、妻のお龍(りょう)とともに、塩浸温泉(霧島市牧園町)で傷をいやしながら長い間滞在しました。

連 絡 荒天時の態度決定、ハイク開始時及び終了時、緊急事態発生時に連絡

危険箇所

- ・ 山道では、木の根やコケ等に注意する。
- ・ 和気神社からふれあいセンターを歩く場合は、事前に道路使用の許可が必要。手続きについては横川警察署(0995-72-0110、交通安全指導課)へ連絡する。

無線交信可能地点

ルート上は無線交信できる。

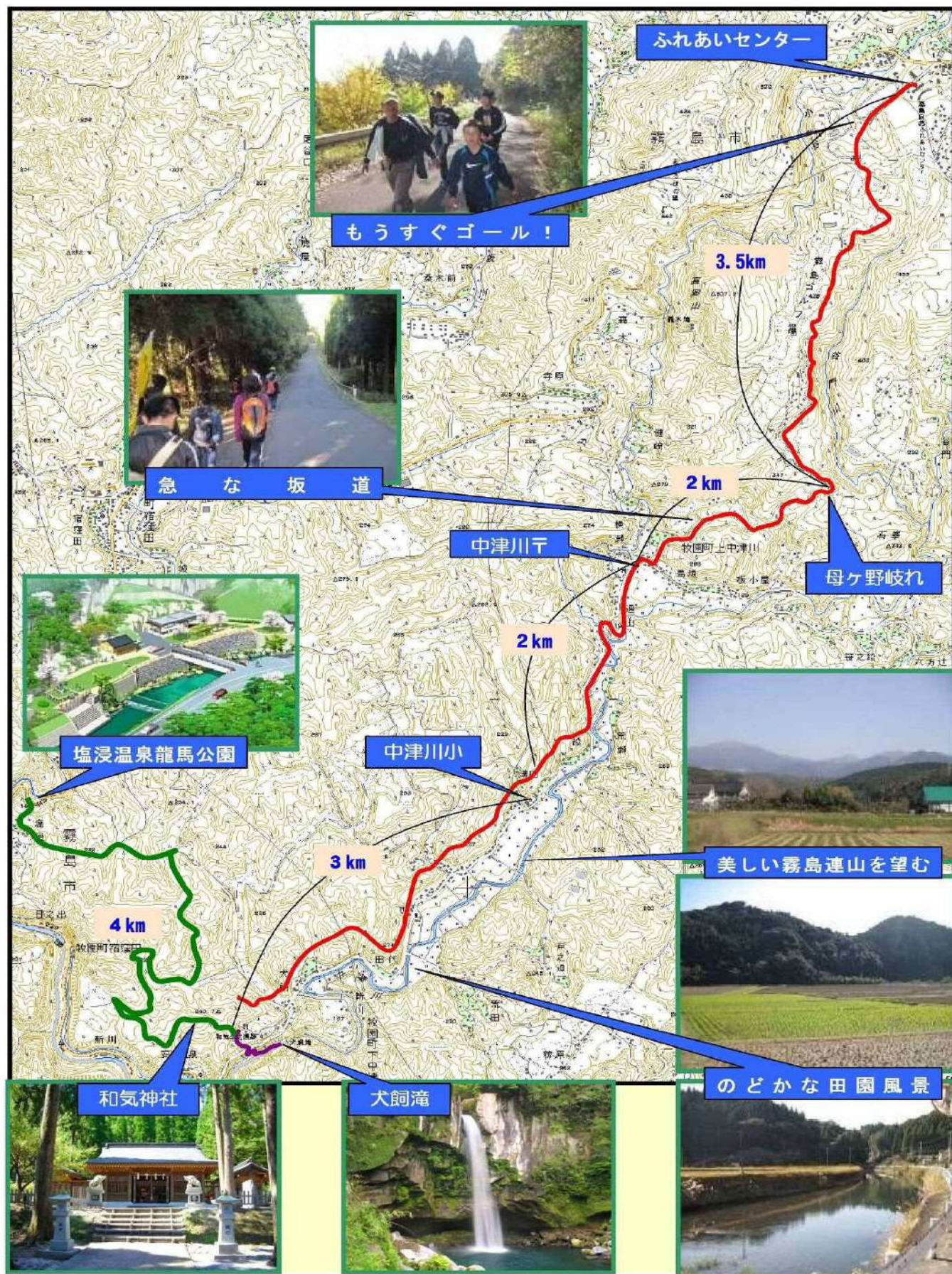
留意事項

- (1) 引率指導者の指示を守る。
- (2) 常に班で行動し、単独行動をしない。
- (3) 体力に応じた歩行ペースと休憩をとる。
- (4) 緊急事態が発生したら、直ちに近くの引率指導者に連絡する。
- (5) 自然を大切にする。
- (6) ゴミはすべて持ち帰る。

季節による見所等

- ・ 龍馬の散歩道(約4km)
坂本龍馬夫妻が合計17泊したとされる塩浸温泉と和気神社の間の山間部を歩くルート。最近「龍馬の散歩道」として新しく整備された。林道を歩くことになるが、急な坂道や危険な箇所は少なく、方向を示す看板等も整備されつつあり、安全に歩けるように配慮されている。
- ・ 和気神社～中津川郵便局(5km)
和気清麻呂(わけのきよまろ)公を祀ってある和気神社から中津川地区を通って中津川郵便局まで歩く全5kmのルート。実際に坂本龍馬と妻お龍が歩いたとされる道で、のどかな田園地帯や河川敷を通りながらゆっくりとした時間を堪能できる。途中、霧島連山を一望できる場所もあり、豊かな自然を楽しめる。
- ・ 中津川郵便局～母ヶ野分かれ～ふれあいセンター(5.5km)
急な上り道が母ヶ野分かれまで約3kmほど続く。坂本龍馬夫妻は、ここから右に進んだと言われている。ふれあいセンターへは、左に進む。
- ・ 犬飼の滝遊歩道(往復2km)
和気神社から真下に降りる遊歩道。高さ36m、幅21.8mの見事な犬飼の滝の瀑布を見学することができる。

龍馬チャレンジハイクコース図



ウォークラリー

ね ら い	分岐点や交差点だけを記載したこま図を頼りに歩く活動を通して、体力の向上を図るとともに、互いに励まし、協力する精神や注意力、判断力等を養う。									
時間・費用	・ 2時間 ・ 無料									
対象・人数	・ 小学生以上 ・ 100人程度									
場 所	霧島自然ふれあいセンター周辺（ウォークラリーコース）									
準備・道具	【参加者が準備する物】 ・ 運動のできる服装 【ふれあいセンターで準備する物】 ・ こま図 ・ 記録用紙(筆記用具, 紙バサミ) ・ 巡視コース図									
コース	<table border="0"> <tr> <td>1 からくにコースA</td><td rowspan="2">}</td><td rowspan="2">同一コースで時計回りか反時計回り</td></tr> <tr> <td>2 からくにコースB</td></tr> <tr> <td>3 たかちほコースA</td><td rowspan="2">}</td><td rowspan="2">同一コースで時計回りか反時計回り</td></tr> <tr> <td>4 たかちほコースB</td></tr> </table>		1 からくにコースA	}	同一コースで時計回りか反時計回り	2 からくにコースB	3 たかちほコースA	}	同一コースで時計回りか反時計回り	4 たかちほコースB
1 からくにコースA	}	同一コースで時計回りか反時計回り								
2 からくにコースB										
3 たかちほコースA	}	同一コースで時計回りか反時計回り								
4 たかちほコースB										
留 意 事 項	1 センター職員は事前の指導を行うが、原則として同行しない。 2 グループ編成は4～6人とし、男女混合が望ましい。 3 グループから離れた行動をとらないように注意する。 4 活動中は、天候の急変や事故防止に備え、対応措置を考えておく。 5 近隣施設に立ち入らない。									
実 施 方 法	【内 容】 1 集合する。 2 説明と注意を聞く。 (1) 競技の方法 ・ 歩く速さで進む。 ・ チェックポイントで課題を解決する。 (2) こま図の使い方 ・ ポイント間はまっすぐに進む。 ・ こまは方位に関係ない。 (3) 競技上の注意 ・ チームはそろって行動する。 ・ 自然愛護、安全に気を付ける。 3 スタート コースをはずれたら前の地点にもどる。 4 ゴール 用具の後始末をする。 5 活動のまとめ 成績発表とふり返りをする。	【留 意 点】 ○ トイレをすませチームごとに整列する。 ○ 参加者の確認と健康観察をする。 ○ 参加できない者への活動を配慮する。 (用具の集配やスタート・ゴールのチェック等) ○ 所要時間の得点とチェックポイントの課題の得点の合計で競う。 ○ 人数によっては2コースに分ける。 ○ 2～5分間隔でスタートする。 ○ 全員の帰着を確認する。 ○ 答合わせをする。 ○ ふりかえりの視点(例) 仲間との協力、自然への気付き、交通安全や注意力、判断力など								

ウォークラリー からくにAコース指示図

現在位置・・・●

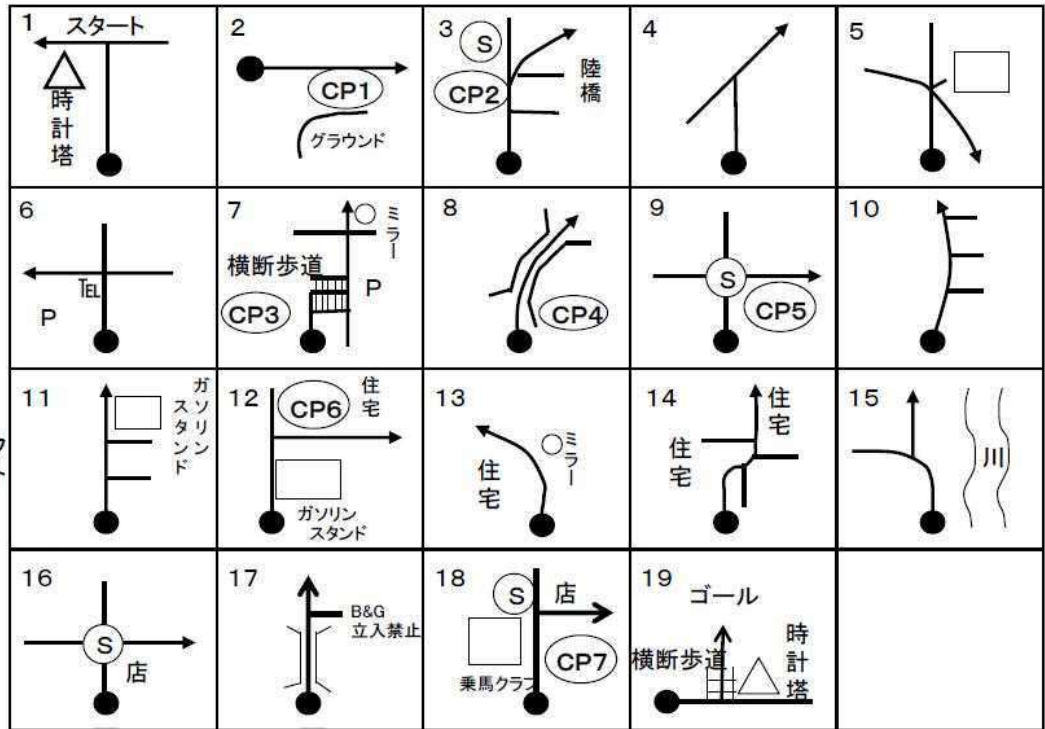
進行方向・・・→

信号機・・・(S)

駐車場・・・P

(CP)・・・チェック
ポイント

※B&Gや乗馬クラブへの
立ち入りはしません。
※横断歩道を渡りましよう
※歩道を広げないように歩
きましよう。



走らないで あわてないで
汗と 仲間と 自然を友達に・・・・・・

からくにAコース・チェックカード解答

チェックポイント	問 題	解答(答え)
CP1	ここにあるたくさんの並木は何という樹木でしょうか？	さくら
CP2	ふれあいセンターまで何キロでしょう？	0.6Km
CP3	世界と未来にひらく緑の中の音楽堂として知られる「みやまコンセーラ」の正式な名前は何でしょう。	霧島国際音楽ホール
CP4	今、通ってきた橋の名前はなんでしょう。	こたにおおはし
CP5	鹿児島県の花はなんでしょう？ ※ 危ないので横断歩道を渡ってはいけません。	みやまきりしま
CP6	目の前の道路上に設置されている看板に、ある動物の絵が描かれています。その動物の名前を教えてください。 ※ 道路上は危ないので、必ず歩道から確認してください。	うま
CP7	乗馬クラブ前のバス停の名前を教えてください。	牧場前

チーム名						
メンバー氏名						
スタート時刻	時 分		ゴール時刻	時 分		
所要時間	分		標準時間	分		ロスタイム
						分
課題得点	点	時間得点	点	合計得点	点	順位 位

霧ふれ発見ビンゴゲーム

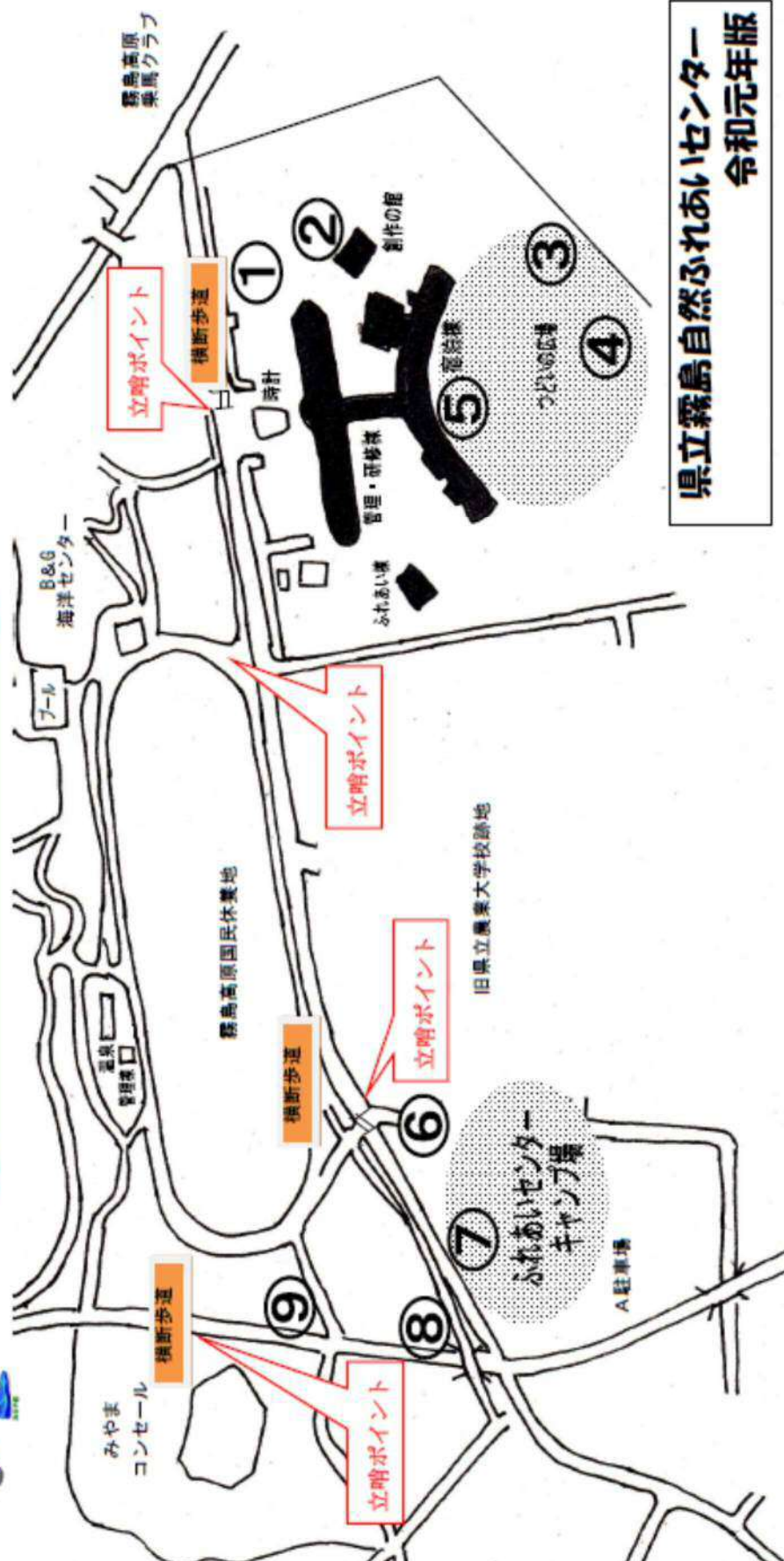
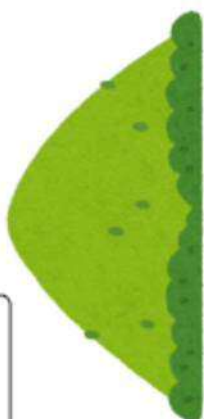
ね ら い	霧島自然ふれあいセンター周辺を活動の場とすることによって、霧島の自然にふれさせる機会とする。 仲間と協力する大切さを実感させる。	
時間・費用	無料 2時間	
対象・人数	幼児～小学校高学年 約100人程度まで（1グループ6～8人程度）	
場 所	霧島自然ふれあいセンター周辺	
準備・適具	【参加者が準備する物】 運動に適した服装、運動靴、帽子、タオル、雨具等 【ふれあいセンターで準備する物】 ビンゴカード、地図、ファイル、ビブス、筆記用具、解答（引率者用）	
コース等	（主なコース例） ※ 一般向けコースときりふれコース（幼児）2種類 センター玄関 → つどいの広場 → キャンプ場 → みやまコンセール → センター玄関	
留 意 事 項	1 センター外に出るので、交通事故等に留意させる。 2 熱中症対策を徹底させる。 3 仲間と協力する集団活動であることを指導する。 4 自然散策を目的としたゲームあることを意識付ける。	
実施方法	【内 容】 1 指導 2 各班長に、ビンゴカード、地図、解答用紙等を渡す。 3 各班で作戦を立てさせる。 4 計時係や巡回をする引率者の確認をする。 5 スタート、ゴール 6 採点、ふり回り 7 後片付け等 【実施方法】 1 ビンゴカードの写真9枚（幼児向け9枚）の場所を地図を見ながら探し当てる。 2 写真と一致する場所を探し当てたら、カードにその地図の記号を記入する。	【留 意 点】 ○ コース上の危険箇所の確認・指導 ○ 縦、横、ななめのそろった数で採点する。 ・ 縦か横が揃えば10点 ・ ななめが揃えば20点

霧ふれ発見ビンゴゲーム地図

みきや君



地図①～⑨で撮った写真はどれでしょう。
裏の写真から選んで記号で答えてね！



県立霧島自然ふれあいセンター
令和元年版

霧ふれ発見ビンゴゲームカード（一般向けコース）

【問題用紙】



霧ふれ発見ビンゴゲームカード

【解答用紙】

地図①～⑨で撮った写真はどれでしょう。写真から選んで記号を答えましょう。

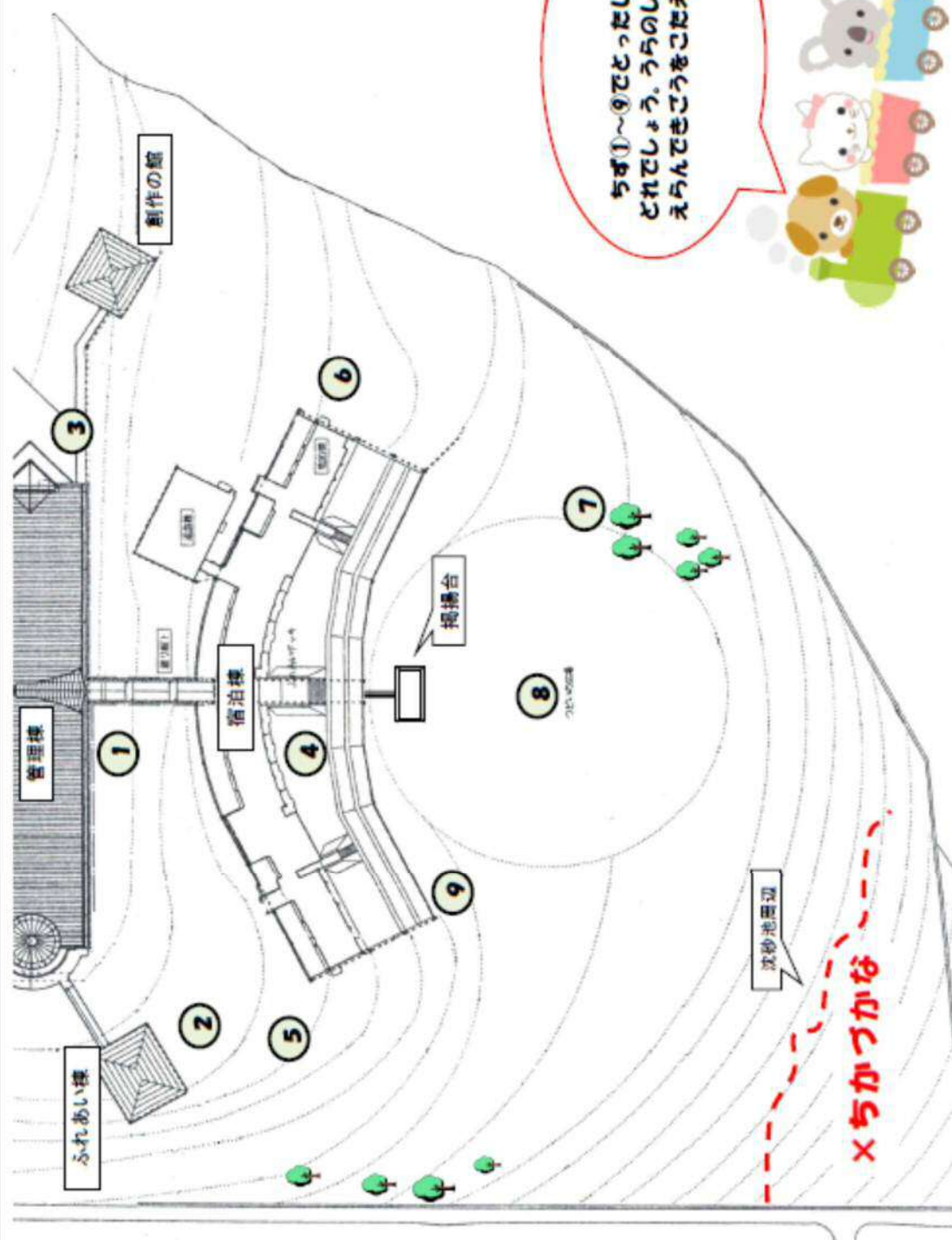


地図① ()	地図④ ()	地図⑦ ()
地図⑤ ()	地図⑧ ()	地図② ()
地図③ ()	地図⑥ ()	地図⑨ ()

点数 () 点

※ 縦・横がそろえば10点。斜めがそろえば20点。
最高点は100点。

まいふれはっけんビンゴゲーム(まいふれコース)地図



きりふれはっけんビンゴゲームカード（きりふれコース）

【もんだいようし】



きりふれはっけんビンゴゲームカード（きりふれコース）

【かいとうようし】

ちず①～⑨でとったしゃしんはどれ
でしょう。しゃしんからえらんで
きごうをこたえてね！



ちず① ()	ちず④ ()	ちず⑦ ()
ちず⑤ ()	ちず⑧ ()	ちず② ()
ちず③ ()	ちず⑥ ()	ちず⑨ ()

てんすう () てん

※ たてかよこがそろえば10てん。 ななめがそろえば20てん。
さいこうてんは100てん。

マウンテンバイク・トライアル

ね ら い	自然の景色を生かしたコースを走破することで、達成感や満足感、爽快感を味わうとともに、危険予知に対する意識を高め、乗車時のマナーやエチケットについて学ぶ。
時間・費用	1 時間・無料
対象・人数	小学校5年生以上 20 人程度 マウンテンバイク（小 14 台，中 3 台，大 4 台）
場 所	クロスカントリーコース
準備・道具	【参加者が準備する物】 ・ 野外活動にふさわしい服装（長袖，長ズボン） ・ 帽子，ハンカチ，タオル，軍手等 ・ 夏場は水分補給用の水筒やペットボトル 【霧島自然ふれあいセンターで準備する物】 ・ マウンテンバイク，ヘルメット，ストップウォッチ，記録カード，自転車安全点検表
コース等	クロスカントリーコース つどいの広場
留意事項	1 マウンテンバイクに乗れない児童生徒は，サイクリング倉庫前の広場で練習をするなど，個別の対応をする。 (1) トレール（コース）からはみ出して走行しない。 (2) スキッド（タイヤのスライド）を行わない。 (3) 雨の日やぬかるみでの走行は控える。 2 所外へは出ない。
実施方法	1 サイクリング倉庫前に集合する。（健康状態の把握） 2 自転車とヘルメットを選び，試乗する。（自転車の安全点検） (1) 変速機（2 種類ある）の使い方とブレーキのかけ方を指導する。 (2) ズボンの裾は，靴下の中に入れる。 3 全員でコースを走り，確認する。（危険予知トレーニング，安全指導） (1) カーブでは，スピードを落とす。 (2) 変速機の切り替えは早めに行う。 (3) 車間距離は，平坦地は 3m，下りは 6m 空ける。 (4) 休息と水分補給を取り入れる。 4 到着順に自転車をふかせたり，手入れをさせたりしてから納車させる。 5 活動中に感じたことや気付いたこと等を発表し，ふりかえりを行う。 ※ 実態に応じて，クロスカントリーコースの一部をショートコースに変えて実施することもできる。

マウンテンバイク 点検表

団体名(

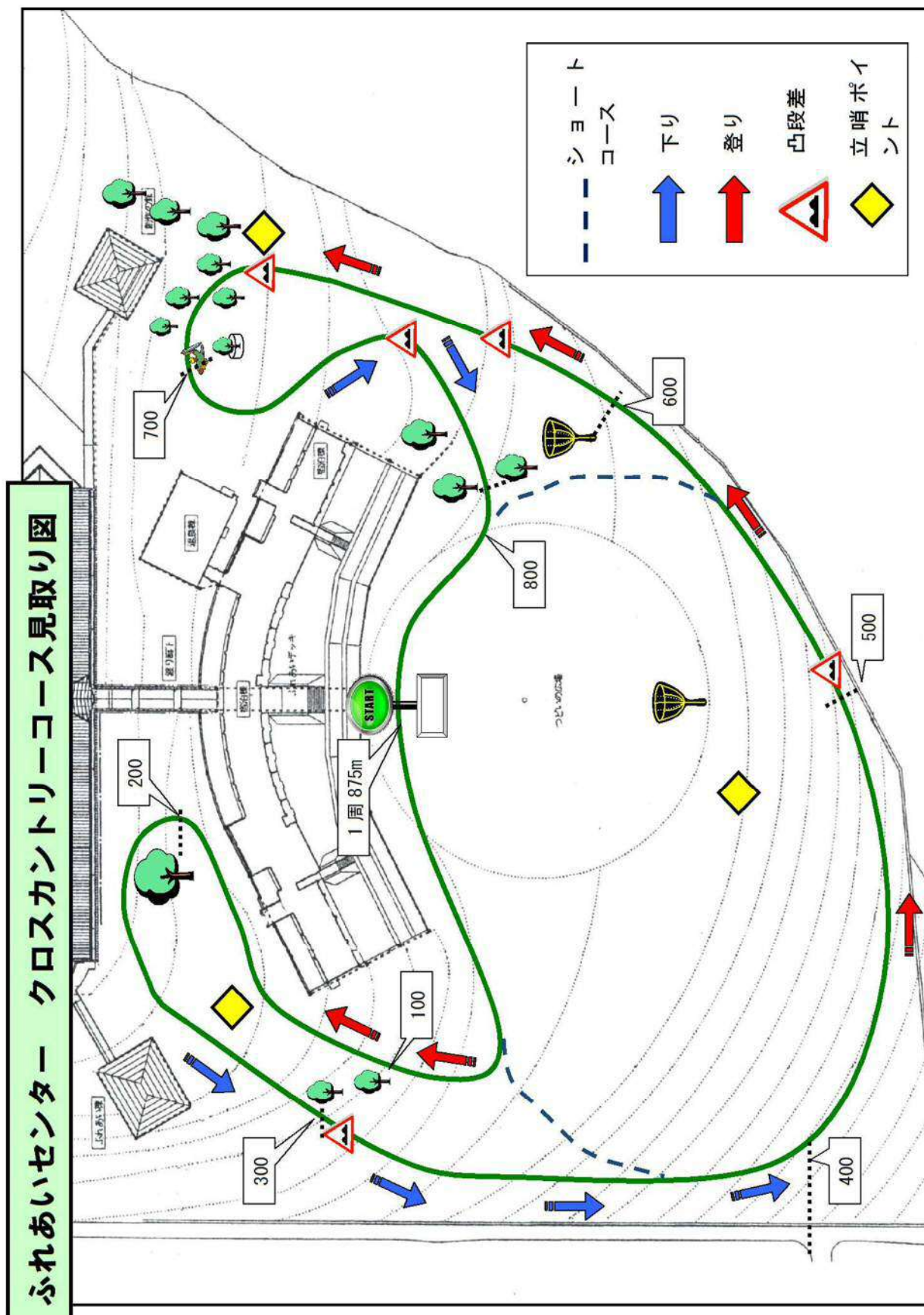
)

良好・・・○ 不良・・・×

NO	名前	ブレーキ(前後)	サドルの高さ	ハンドル	ペダル	タイヤ	チェーン
1		ブレーキは前後とも 良くきく。握りもしっ かりしている。	またがって、両足の つま先が地面にとど く。	しっかり固定してい る。ぐらつき無し。	がたつきが無く、よ く回転する。	空気がしっかり 入っている。すり へっていない。	たるんだり、外れた りしていない。
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							

点検代表者(

)

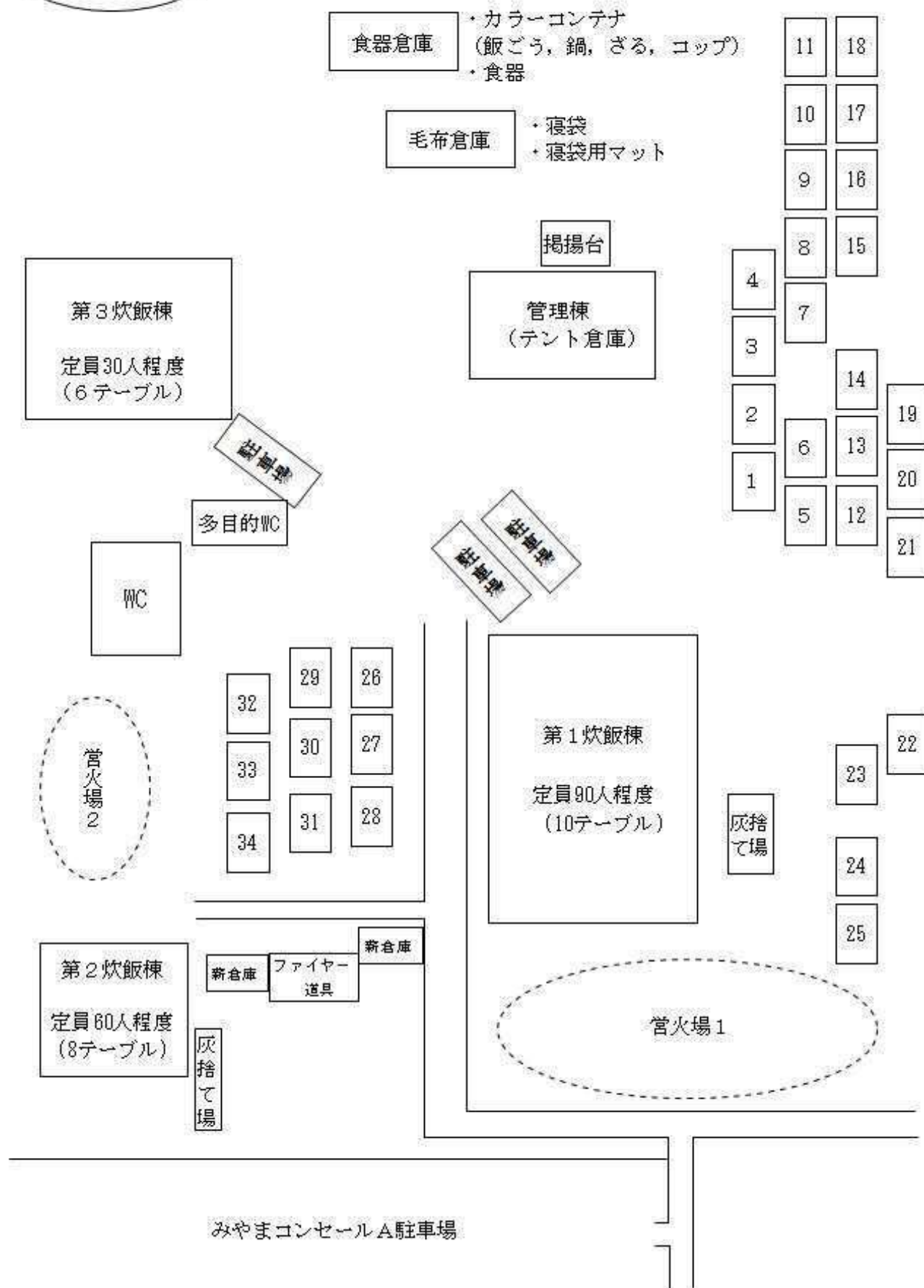


キャンプ活動

ね ら い	テント設営や野外炊飯等の活動を通して、仲間と協力する態度を育てるとともに、自然と深くふれあう機会とする。	
費 用	- 炊飯用薪代 1缶300円 - キャンプファイヤー用薪代 1,500円	
対象・人数	- 小学生以上 - 野外炊飯180人程度／テント泊150人程度	
場 所	霧島自然ふれあいセンターキャンプ場	
準備・用具	- 貸し出す用具：テント一式、寝袋、寝袋用マット、炊飯用具、洗剤、食器洗い用スポンジ、たわし、金だわし、手洗い用石けん、消毒用アルコール、台ふき、ゴミ袋、ポータブルアンプ（CD可）、延長コード - 個人の準備：着替え、洗面用具、軍手（すべり止めのついていないもの）、雨具、懐中電灯、常備薬、虫除けスプレー、健康保険証（写しでも可） - 団体の準備：救急用具、ゴミ袋、トーチ6本（キャンプファイヤーを実施する団体）新聞紙、着火ライター類、うちわ	
留 意 事 項	1 キャンプ場に移動する前に、トイレを本館ですませる。 2 グループ編成は、テント4～5人、炊飯活動は6～8人がよい。 ※ 炊飯棟の、テーブル数を確認しておく。 3 各自の荷物等は全て持って行く。 4 活動中は、天候の急変や事故防止に備え、対応措置を考えておく。	
実 施 方 法	【内 容】 1 キャンプ場オリエンテーション(10分) 2 テント設営 (90分) 3 炊飯活動 (90分) 4 夕食(30分) 5 後片付け (60分) 6 キャンプファイヤー ※ 21時までに片付けまで終える。 7 就寝(22:30) 〈翌日〉 1 起床(6:30) 2 朝のつどい(7:00 団体ごとに) 3 朝食、後始末、清掃 4 寝袋返却・テント撤収 5 移動	【留 意 点】 ○ 危険箇所や施設等の確認をする。 ○ みんなで協力して設営する。(資料) ○ 仕事を分担して夕食を作る。(資料) ○ 班ごとに会食する。 ○ きれいに洗い、所定の場所に返却する。 ○ 班ごとの出し物等を準備して、楽しいつどいにする。(資料) ※ 入浴はありません。 ○ 利用団体ごとに健康観察等を行う。 ○ 簡易洋食(パン・ポテトサラダ・ハム・デザート・ゆで卵・飲み物)か和食炊飯(ご飯・味噌汁、焼き魚、ふりかけ、のり、つけもの)。 和食炊飯活動を実施した時は、かまど等の後始末をする。 ○ 炊飯用具は数を確認して返却する。 ○ 片付けの点検を受ける。 ○ 寝袋を返却し、テントを撤収する。テント、ブルーシートを乾かす。

キャンプ場

※ ①～③④ は、テントサイト番号



テント設営



●準備するもの（6点）

インナー、支柱、フライ、ペグ箱、ほうき、ブルーシート



①ブルーシートをインナーの大きさに合わせるために、端の1列を折り込む



②インナーを広げ、9本の支柱を伸ばす。



③長い2本の支柱をインナーの対角線上の支柱入れに通す。



④棟支柱の中心を、長い2本の支柱のクロス部分に置き、フックを回して止める。



⑤4人で支柱を持ち上げ、支柱の先端をインナーの穴に差し込む。



⑥棟支柱にインナーフックを止め、マジックテープで固定する。



⑦棟支柱に横支柱4本を差し込み、湾曲させる。



⑧横支柱の先端をインナーの穴に差し込み、すべてのフックを回して止める。



⑨棟支柱に出入口の支柱を差し込み、先端をインナーの穴に差し込む。



⑩インナーの出入口ファスナーを開け、ほうきでゴミを出す。



⑪フライをかぶせ，出入口支柱にマジックテープで止める。



⑫インナーとフライをバックルで接続し，ペグで固定する。4隅を先に固定するとよい。



⑬インナー，フライ，支柱の袋は1つにまとめ，テント内に保管する。ペグ箱とほうきは，返却する。

気を付けてください！

- ・ テントサイトの柵木に乗らないようにしましょう。
- ・ テント内では，火気は使用しないでください。
- ・ テント内で虫除けスプレーは使用しないでください。
- ・ テント内にゴミを残さないでください。
- ・ テント撤収時に忘れ物がないか確認してください。
- ・ テントが破損した時は，職員に連絡してください。

● 撤収時のポイント！

1 ペグについた土を落とす。（図1）

2 フライを乾かした後，丸めて袋に入れる。 ※ たたむ必要はない。

3 インナーをたたむ時は，出入口側に立ち，まず2つ折りにした後（図2），3つ折りにして（図3），端から丸め，袋に入れる。

※ インナーがぬれている場合は，しっかり乾かしてからたたむ。

4 ブルーシートを乾かした後，ほうきで砂をしっかりと落とし，折り目にそってたたむ。



（図1）



（図2）



（図3）

荒天プログラム（インナーテント設営等）について

1 荒天時、プレイホールでのインナーテント使用について

寝袋	ステージ	
1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13	14	15
16	17	18
19	20	21
22	23	24
25	26	27
	入口	テント マット

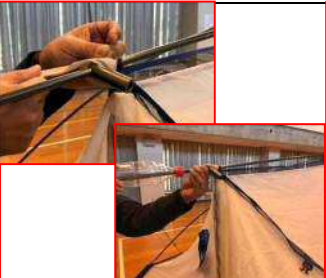
【配置について】

- 1 数字は、インナーテントの設置場所を表します。左列及び右列は児童生徒、中央の列は引率者用を想定していますが、複数団体が利用する場合や男女を分けて設営することも考慮し、配置してください。
- 2 非常時を想定し、プレイホール前方と後方の左右の出入口を塞がないように注意してください。

【設営手順等について】

- 1 時間設定
13:00～13:30 テント設営・撤収、寝袋指導
……センター職員が説明
20:30～21:30 テント設営、荷物搬入……団体引率者が指導
21:30～22:00 就寝準備、就寝……団体引率者が指導
- 2 設営時の注意点
ア 狭い場所での作業です。周囲に注意して作業をしてください。特に、支柱の取扱いには注意してください。
イ 中央列を作業スペースとし、両サイドの列を先に設営します。
ウ 最前列は緑の線に合わせ、舞台との間に通路を設けます。

2 設営の実際

			
①インナーテント1袋、支柱1袋、ペットボトル2本を準備する。	②インナーテントを広げ、支柱を伸ばす。	③長い2本の支柱をインナーテントの対角線上の支柱入れに通す。	④棟支柱の中心を、長い2本の支柱のクロス部分に置き、フックを回して止める。
			
⑤4人で支柱を持ち上げ、支柱の先端をインナーテントの穴に差し込む。	⑥棟支柱をフックで止め、マジックテープで固定し、先端をペットボトルでカバーする。	⑦棟支柱に横支柱を差し込み、湾曲させ、支柱の先端をインナーテントの穴に差し込む。	⑧すべてのフックを回して止める。 ※ フライシートは使用しない。

※ 9本の支柱のうち、玄関の支柱2本(先端がJ字型)は使用しないので、支柱の袋に保管しておいてください。インナーテントと支柱の袋は、テント内に保管してください。

※ 棟支柱の先端が飛び出した状態では危険です。ペットボトルで先端をカバーしてください。出入りの際は、十分気を付けるように指導してください。

3 テント撤収

6:30~7:00 起床・洗面, シーツ, 寝袋, マット返却, テント内荷物搬出
7:00~8:00 朝のつどい, 健康観察, テント撤収……団体引率者が指導

- (1) 起床後すぐに, 寝袋・マットを返却する。…寝袋 舞台袖に90袋, 残りはホール後方に。
…マット ホール後方に10枚ずつの束にして返却。
- (2) 私物等をインナーテントから出す。 ※ インナーテントの袋と支柱の袋も出しておく。
- (3) テントを撤収する。 ※ インナーテント, 支柱を袋に入れ, ホール後方に揃えて返却する。
- (4) シーツをリネン室に返却する。

【インナーテント撤収の手順】

- ◇ 撤収の手順は, 設営の逆です。
- ◇ 撤収を始める前に…
 - ・ シーツ, マット, 寝袋は返却し, 荷物を出しておきます。
 - ・ インナーテントと支柱の袋を準備しておきます。
 - ① サイドの支柱4本のフックを全て外す。
 - ② インナーテントの穴から支柱の先端を抜き, 棟支柱から取り外す。
 - ③ 棟支柱の中心のフック2個を残し, 全てのフックを外す。
 - ④ インナーテントの四隅の穴から支柱を抜き, テントを崩す。
 - ⑤ 棟支柱のフックを外す。
 - ⑥ 四隅の支柱入れから支柱を抜く。
 - ⑦ 支柱を全て分解し, 袋に入れる。
 - ⑧ インナーテントを広げ, 出入り口側を縦に2つ折りにする。
 - ⑨ さらに出入り口側を縦に3つ折りにする。
 - ⑩ 端から丸め, 袋に入れる。
 - ⑪ 元の場所に揃えて返却する。

重要

※ 支柱は, 4種類9本あります。

- ・ テントの対角線2本
- ・ 棟支柱1本
- ・ サイド4本
- ・ 玄関用2本(未使用)

※ 支柱を分解し, インナーテントの横に並べ, 本数を確認してから袋に入れてください。

4 朝食について

8:00~8:10 食材, 食器の受け取り~係児童・生徒~

- ※ 食材とゴミ袋2枚を事務室前で受け取る。
- ※ ふれあい棟からプレート(1人1枚, 人数分), スプーン(班に1本), 台拭き1枚(班に1枚)を持ってくる。
- ※ 係児童・生徒以外は, 食事場所に移動する。

8:10~8:40 朝食

8:40~9:00 後片付け

- ※ 食材の入っていたケースは, 事務室前に返却する。
- ※ 使った食器類は, ふれあい棟で洗ってから返却する。
- ※ 生ゴミとその他のゴミを分別し, レストランの下のゴミステーションに運ぶ。
- ※ 台拭きでテーブルを拭く。
- ※ 使用した場所を清掃し, 机や椅子を整え, 消灯の確認をする。

9:00~9:30 歯磨き, 移動, 研修準備

野外炊飯

1 ねらい

自然の中で、仲間と協力して食事を作る楽しさを知るとともに、限られた条件の中で、炊飯技能を身につける。

2 準備・用具

- ・ 団体で準備するもの：着火ライター等、新聞、軍手（滑り止めのゴムがついていないもの）
うちわ
- ・ センターで準備するもの：炊飯用具、食器類、洗剤、食器用スポンジ、たわし、金たわし
台ふき、薪、消毒用アルコール、手洗い用石けん、ごみ袋

※ 薪代：1缶300円（炊飯活動1班につき1缶必要。薪の追加には別途料金が必要）

※ 食材は、センターのレストランに事前に注文してください。

3 活動可能人数

第1炊飯棟：90人程度（10テーブル） 第2炊飯棟：60人程度（8テーブル）
第3炊飯棟：30人程度（6テーブル）

4 所要時間

- ・ 約3時間（準備から後片付けまで）

5 メニュー

【朝食】洋食：食パン、ポテトサラダ、ハム、果物、ゆで卵、飲み物
和食（炊飯活動）：ごはん、みそ汁、焼き魚、ふりかけ、のり、つけもの

【昼食及び夕食】A：カレーライス B：焼きそば C：豚汁

【特別注文】バーベキュー（料金・内容）については、レストランで相談可。
※ バーベキュー用炭・着火剤・バーナー等は、持参してください。

6 実践方法

内 容	時間(分)	留 意 点
1 ご飯の炊き方とカレーの作り方に ついて説明を聞く。	10	係分担 〈ごはん係〉2～3人 食材を取りに行く。洗米・水の計量。
2 係の分担を確認する。 ※ 事前に決めておく。	5	〈かまど係〉2人 かまどの準備をする。薪・スギの葉を 取りに行く。火加減をみる。
3 係ごとに準備・調理をする。	75	〈カレー係〉2～3人 道具を管理棟前と食器庫から取る。
4 班ごとに食事をする。	30	カレーを作る。
5 後片付けをする。 ・ 飯ごうやカレー鍋等を洗う。 ・ かまどの後始末をする。 ・ 用具を食器庫に片付ける。	60	後片付け ・ 飯ごう・カレー鍋・食器類・道具は 洗剤できれいに洗い、元あった場所に 返却する。 ・ 飯ごうは、ご飯粒がついていないか、 カレー鍋にぬめりがないか、点検する。
6 活動のまとめをする。		

※ 生ごみは各炊飯等のポリバケツに捨てる。

※ かまどの燃えかすは、完全に燃焼させる。灰・燃えかすは、灰置き場に捨て、水をかける。

※ 燃えるごみ・ビニル類・紙パックは、分別してビニル袋に入れ、管理棟前に運ぶ。

野外炊飯で準備するもの

1 食器庫でカラーコンテナを取る。

(1) カラーコンテナを1つ取る。



＊＊カラーコンテナの中に入っているもの＊＊



飯ごう
2個



ざる
2個



ふた付き
鍋 1 個



コップ
1 個

(2) カラーコンテナにカレー皿を「人数分+1 枚」入れる。



- ◆食器庫、管理棟前には必ず引率者が立ち会い、貸し出し、返却の際には、数量等を確認してください。
- ◆コンテナを返却する際には、飯ごう・鍋・ざる・コップ以外のものが入っていないか確認してください。
- ◆カレー皿は、元の網かごに伏せて入れてください。

2 キャンプ管理棟前で調理器具等を取る。

(1) 調理器具を取る。



ピーラー 2 個



包丁 2 本



お玉 1 本



しゃもじ 2 本



まな板 2 枚



スプーン人数+1 本



台ふき 1 枚



たわし 2 個



金たわし 2 個



スポンジ 2 個



食器用洗剤 1 本



手洗い用石けん 1 本



消毒用スプレー 1 本



3 薪庫で薪を1缶ずつ取る。

- ◆薪の追加には、別途料金(300円)が必要です。
- ◆未使用の薪は、薪倉庫に返却してください。
- ◆使いかけの薪や焦げた薪は別に処理します。
- ◆缶は、重ねないで薪小屋に返却してください。

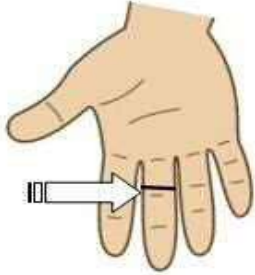
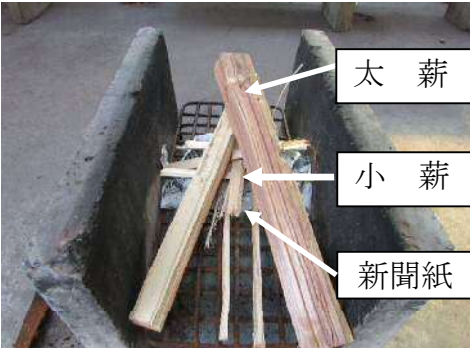
<片付け> ◆スポンジ, 台ふきは洗濯機の中に入れてください。それ以外は、もとの場所に返却してください。

◆返却数量の確認は引率者が責任をもって行ってください。

ご飯の炊き方

- 1 準備 飯ごう2個、米、軍手、薪（小薪・太薪）、新聞紙、消毒用スプレー、手洗い用石けん、洗剤、スポンジ、たわし、金たわし、着火ライター

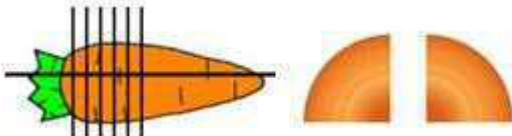
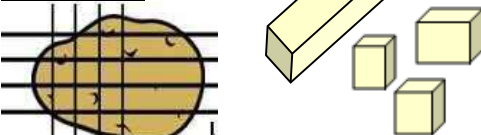
2 実施方法

炊き方手順	時間(分)	留 意 点
1 飯ごうを洗う。 2 米を2つの飯ごうに等分し、研ぐ。 3 水は、中指の第2関節よりも少し多めに入れる。水を入れたら、10分くらい吸水させる。 4 10分経ったら、かまど（U字溝）にかける。 5 小薪、太薪、スギの葉、新聞紙を使ってかまどの準備をし、火をつけ、ご飯を炊く。 〈飯ごうの様子〉 飯ごうから水が吹きこぼれたり、ふたに薪を当てると振動がしたりする。 6 吹きこぼれが止まり、振動がなくなったら、火を弱める。 ふたを開けて、スプーンで少し取って、炊けているか確認してもよい。 ※ 芯が残っていたら水を加え、再び炊く。 7 ご飯が炊けたら、飯ごうをひっくり返して蒸らす。その際、飯ごうについたススを新聞紙でとる。 ※ やけどに注意する。 8 一つの飯ごうからよそう。 空になった飯ごうには水を入れておく。 9 片付け (1) 飯ごうを洗うときは、残菜を排水溝に流さない。残菜は生ごみ用ポリバケツに入れる。 (2) 飯ごうの内側に米粒やぬめりが残らないように洗い、外側のススも落とす。 (3) 飯ごうはカラーコンテナに入れ、燃えかす（灰）は、ほうきやちりとりを使って消火を確認してから灰置き場に捨てる。	5 30 30 10 30 60	〈水の量〉 米の上に中指の先端を置き、第2関節よりも<u>少し多め</u>に水を入れる。  第2関節 〈薪の置き方と飯ごうの置き方〉 丸めた新聞紙（スギの葉等）の上に小薪を置き、さらに太い薪を置く。新聞紙に火をつけ、その炎が小薪から太薪に移るように工夫する。  

カレーの作り方

- 1 準備 カレー鍋とふた、包丁2本、ピーラー2本、まな板2枚、おたま1個、コップ1個、しゃもじ2本、カレー皿人数分+1枚（果物を盛る皿）、スプーン人数分+1本（調理用）、ざる2つ、台ふき1枚、消毒用スプレー、手洗い用石けん、洗剤、スポンジ、たわし、金たわし

2 実施方法

炊き方手順	時間(分)	留 意 点
1 道具を全て洗う。	20	〈野菜の切り方〉 野菜は、早く火が通るように切る。 にんじん  皮をむいて、縦長に2回切り、薄いちょう切りにする。
2 包丁、まな板はアルコール消毒をする。		
3 野菜を洗いピーラーで皮をむき、 <u>包丁でにんじんと玉ねぎは薄く、じゃがいもは小さく切る。皮はざるに入れて、ポリバケツに捨てる。</u>		
4 鍋に切った野菜を入れ、コップで水を入れる。 <u>水は、人数分+1杯入れる。</u>	10	じゃがいも  皮をむいて、短ざく切りにした後、小さなさいの目に切る。
5 かまどにかけて、野菜を煮る。途中まぜながら、あくを取る。	35	
6 おたまで <u>にんじん</u> を取り、スプーンで軽く切れるか確認する。		
7 豚肉を入れて、さらに煮る。	10	〈火の通りを確認する〉  おたまに、にんじんを入れてスプーンで火の通りを確認する。
8 カレールウを入れ、焦げないように底の方から混ぜる。	5	
9 果物を切って盛りつける。		
10 出来上がったごはんにかレールウをかけ、福神漬を袋から出し、盛りつけて班ごとに食べる。	30	
11 片付け	60	〈注意〉 かまどにかけた後の作業は、軍手（2枚重ね）を使い、やけどに気を付ける。 (1) 残菜や果物の皮は、生ごみ用ポリバケツに捨てる。 (2) 使った道具は、残菜やぬめりが残らないように洗う。 (3) 道具の数を確認しながら、カラーコンテナに入れて、管理棟前や食器庫の元あった場所に返却する。

BBQの進め方

- 1 準備 BBQコンロ、金網、 tong、皿人数分×2（取り皿・ご飯）、包丁2本、ピーラー2本、まな板2枚、ざる2つ、台ふき1枚、消毒用スプレー、手洗い用石けん、洗剤、スポンジ、たわし、金たわし

2 実施方法

進め方手順	時間(分)	留意点
1 道具（金網も）を全て洗う。	20	<野菜の切り方> ○野菜は、小さめに切る。 キャベツ・タマネギ・カボチャ  ※ 生肉は、切らない。 <注意> 金網は、十分に冷えてから洗う。
2 包丁、まな板はアルコール消毒をする。		
3 野菜を洗い、 <u>包丁で適当な大きさ（小さめ）に切る。</u> 皮は水を切り、ポリバケツに捨てる。	10	
4 BBQコンロに炭を入れ火をつけ金網をのせる。	50	
5 肉、野菜をのせ、焼いて食べる。		
6 片付け (1) 食べ残しの肉や野菜は、生ごみ用ポリバケツに捨てる。 (2) 使った道具は、残菜やぬめりが残らないように洗う。 (3) 道具の数を確認しながら、カラーコンテナに入れて、管理棟前や食器庫の元あった場所に返却する。	30	

焼きそばの作り方

- 1 準備 BBQコンロ、鉄板、 tong、皿人数分×2（取り皿・ご飯）、包丁2本、ピーラー2本、まな板2枚、ざる2つ、台ふき1枚、消毒用スプレー、手洗い用石けん、洗剤、スポンジ、たわし、金たわし

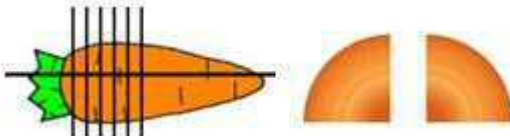
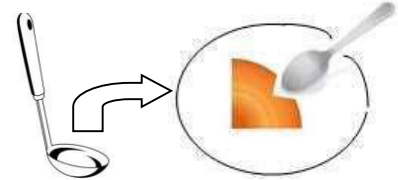
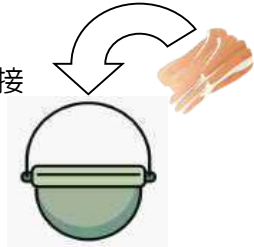
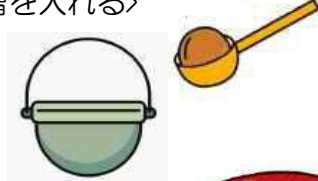
2 実施方法

進め方手順	時間(分)	留意点
1 道具（金網も）を全て洗う。	20	<野菜の切り方> 野菜は、小さめに切る。 タマネギ・キャベツ・にんじん  ※ 生肉は、切らない。 <注意> 鉄板は、十分に冷えてから洗う。
2 包丁、まな板はアルコール消毒をする。		
3 野菜を洗い、 <u>包丁で適当な大きさ（小さめ）に切る。</u> 皮は水を切り、ポリバケツに捨てる。		
4 BBQコンロに炭を入れ火をつけ、鉄板をのせて温める。		
5 油をひき、肉・野菜を炒める。	10	
6 麺を入れ、ほぐしながら炒める。	5	
7 焼きそばソースを入れてよく混ぜ、できあがり。	5	
8 片付け (1) 食べ残しや野菜は、生ごみ用ポリバケツに捨てる。 (2) 使った道具は、残菜やぬめりが残らないように洗う。 (3) 道具の数を確認しながら、カラーコンテナに入れて、管理棟前や食器庫の元あった場所に返却する。	5 30	

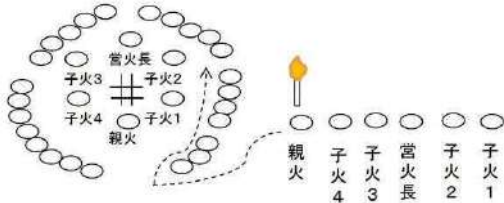
豚汁の作り方

- 1 準備 カレー鍋・ふた、包丁2本、ピーラー2本、まな板2枚、おたま1個、コップ1個、しゃもじ2本、カレー皿人数分+1枚（果物を盛る皿）、豚汁用お椀人数分、割箸（レストランから）、スプーン人数分+1本（調理用）、ざる2つ、台ふき1枚、消毒用スプレー、手洗い用石けん、洗剤、スポンジ、たわし、金たわし

2 実施方法

炊き方手順	時間(分)	留 意 点
1 道具を全て洗う。	20	〈野菜の切り方〉 野菜は、早く火がとおるよう小さめに切る。 にんじん・タマネギ等  皮をむいて、縦長に2回切り、薄いいちょう切りにする。
2 包丁、まな板はアルコール消毒をする。	10	〈火の通りを確認する〉  おたまに、にんじんをとり、スプーンで火の通りを確認する。
3 野菜を洗いピーラーで皮をむき、包丁で切る。小さめに切る方が火のとおりが早い。皮は水を切り、ポリバケツに捨てる。	35	
4 鍋に切った野菜やその他の具材を入れ、コップで水を人数分入れる。	10	〈豚肉を入れる〉 豚肉は、切らずに直接入れる。 
5 かまどにかけて、野菜を煮る。途中まぜながら、あくを取る。	5	〈味噌を入れる〉 
6 火がとおっているか確認する。おたまで大きめの野菜を取り、スプーンで切るなどするとよい。	30	
7 野菜に火がとおったら、豚肉を入れて、さらに煮る。	60	〈注意〉 かまどにかけた後の作業は、軍手（2枚重ね）を使い、やけどに気を付ける
8 豚肉に火がとおったら、味噌を入れる。お玉にみそを入れ、溶きながら入れると良い。		
9 味見をして、濃いときは水を加える。		
10 片付け (1) 残菜は、生ごみ用ポリバケツに捨てる。 (2) 使った道具は、残菜やぬめりが残らないように洗う。 (3) 道具の数を確認しながら、カラーコンテナに入れて、管理棟前や食器庫の元あった場所に返却する。		

キャンプファイヤー

ね ら い	営火を囲んで火と夜の神秘さにひたり、清らかな心を養うとともに参加者の連帯感を高め、親睦を図る。	
費 用	キャンプファイヤー用薪代 1,500 円	
対象・人数	小学生以上（150 人まで）	
場 所	霧島自然ふれあいセンターキャンプ場（営火場）	
準備・用具	・ 貸し出す用具：火床、CD、ぬれそうきん、バケツ、ポータブルアンプ（CD可）、灯油、延長コード ・ 団体の準備：トーチ6本、セリフのカード、懐中電灯 ※ 営火入場から退場までのリハーサルを当日の炊飯活動後半に実施する。	
必要な係	営火長1人、親火1人、子火4人、進行係	
隊 形		
実施方法	【内 容】 関係者リハーサル(20分程度) 〈第1部 迎え火のつどい・15分〉 (静) 1 開会のことば 2 営火入場 (BGM) 〈選曲自由〉 3 ともしびに捧げることば(親火) 4 誓いのことば(親火から子火へ) 5 迎え火のことば(営火長) 6 点火 (親火、子火、営火長) 7 歌「燃えろよ 燃えろ」〈選曲自由〉 〈第2部 交歓のつどい・45分〉 (動) 班別の出し物 レクリエーション・ゲーム・ダンス等 〈第3部 送り火のつどい・10分〉 (静) 1 採火 (営火長、親火、子火) 2 送り火のことば(営火長) 3 歌「今日の日はさようなら」〈選曲自由〉 4 営火退場 5 閉会のことば ※ 火床、トーチ等の後始末	【留 意 点】 ・ 音楽に合わせて、親火、子火4、子火3、営火長、子火2、子火1の順で入場する。 ・ 親火がともしびを営火長と子火に分火する。 ・ 営火長の合図で、火床に点火する。 ・ みんなで楽しく活動し、交流を深める。 ・ 火床からトーチに採火する。 ・ 3番まで歌った後、ハミングで火の係が退場する。 ※ 火床の火は、ホースの水で確実に消火する。 燃え残り等の後始末は、翌朝（清掃時）行う。

キャンプファイヤー（展開例）

《第1部：迎え火のつどい》

※ 参加者入場。「静、動、静の流れ」について、事前に十分指導しておく。
薪を丸く囲む形で席に着く。係は営火場の通路に待機し、親火だけ火をつける。

1 開会のことば（曲「遠き山に日は落ちて」を流してから）

「ただいまから、（ ）のキャンプファイヤーを始めます。」

2 「営火入場」

「営火入場」

・順番は親火、子火4、子火3、営火長、子火2、子火1の順

3 ともしびに捧げることば

「親火の方は、ともしびにささげることばをお願いします。」

親火のことば

「わたしたち〇〇〇の〇〇は、ここ霧島自然ふれあいセンターにおいて、キャンプファイヤーを行うことができ、うれしく思います。自然の中で共に活動し、寝食を共にする中で、今まで知らなかった友達のすばらしい姿を発見し、自分の姿を見直しながら、さらに、友情を深めたいと思います。今夜は、仲良く楽しく、いつまでも心に残るつどいにし、これを機会に明日からの生活に役立てることを誓い、ともしびにささげることばとします。」

令和〇〇年〇月〇〇日 〇〇代表〇〇 〇〇

4 誓いのことば

「親火の方は、子火に呼びかけて、ともしびを分けてあげてください。」

親 火 「強い心と体の持ち主になるために」

子火1 「わたしたちは、心と体をきたえ、どんな苦しみにも負けず、最後までやりぬく強い心と体の持ち主になるよう努めます。」

親 火 「豊かな心の持ち主になるために」

子火2 「わたしたちは、自分のことだけでなく、いつも他人の立場を考え、親切で思いやりのある温かい人間になるよう心がけます。」

親 火 「いつまでも変わらない友情のために」

子火3 「わたしたちは、このすばらしい友情をさらに深め、これからの人生を共に助け合い、励まし合っていくことを誓います。」

親 火 「一日一日に全力を尽くすために」

子火4 「わたしたちは、一日一日を反省し、明日に向かって全力を尽くし、悔いのない毎日を過ごすように努めます。」

5 迎え火のことば

「営火長は、迎え火のことばをお願いします。」

営火長のことば

「今夜は、みなさんとうとうキャンプファイヤーを行うことができ、うれしく思います。みなさん一人一人の胸に、情熱の炎が力強く燃えています。今夜のキャンプファイヤーがさらに友情を深め、団結を強め、今後の生活の向上につながることを期待します。そして、いつまでも心のアルバムに残るつどいになることを希望して迎え火のことばとします。」

6 点火

「営火長は、点火の合図をお願いします。」 営火長「点火」

7 歌「燃えろよ燃えろ」

「さあ、みんなで『燃えろよ燃えろ』を歌いましょう。」

「営火退場」（親火を先頭に退場し、ぬれぞうきんで火を消す）

《第2部 交歓のつどい》

「静かな中で第1部のセレモニーが終わりました。これからレクリエーションに入ります。出し物やゲームを大いに楽しみましょう。」

《第3部 送り火のつどい》

※ 係はトーチを持ち、火床の所定の場所で待機する。

1 採火

「ただ今から、第3部送り火の式を始めます。」

「係の皆さんは、採火してください」。係6人で採火する。

2 送り火のことば

「営火長は、送り火のことばをお願いします。」

営火長のことば

「今夜は、楽しくキャンプファイヤーを行うことができました。それは、皆さんの一人一人の心が一つになった証拠だと思います。このキャンプファイヤーの炎のように、いつまでも変わらぬ情熱と友情の炎を燃やし続け、これからの学校や家庭、地域での生活に生かしていくことを期待して、送り火のことばとします。」

3 歌「今日の日はさようなら」 (3番まで歌った後、ハミングで火の係が退場する。)

「最後にみんなで『今日の日はさようなら』を歌いましょう。3番まで歌ったら、ハミング（ラララ）で続けてください。」

4 営火退場

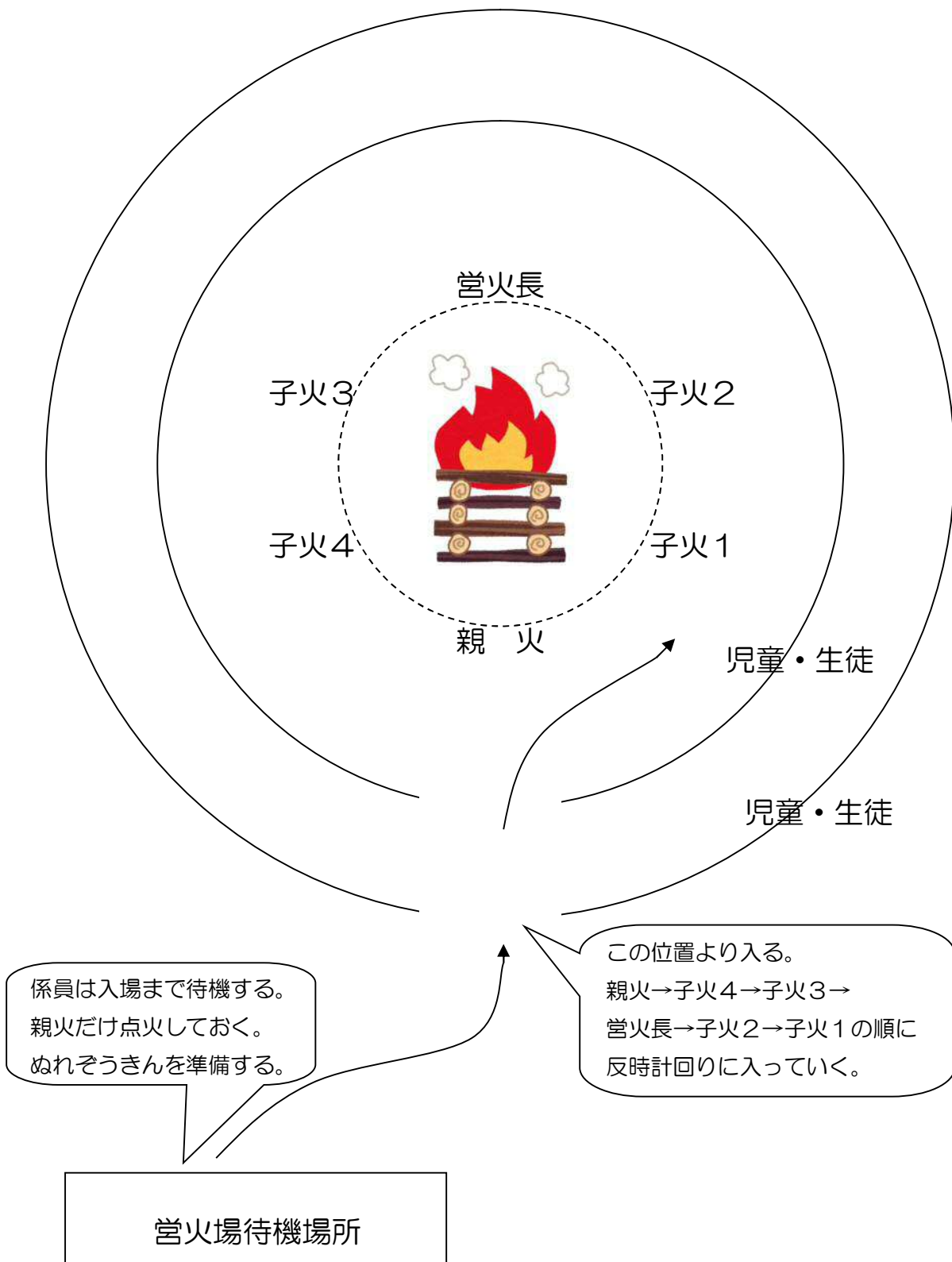
「営火退場」 (親火を先頭に退場し、ぬれそうきんで火を消す)

5 閉会のことば

「以上で〇〇〇〇のキャンプファイヤーのすべてを終わります。」

※ 参加者退場。退場後、火床とトーチに水をかけ、火を完全に消す。

入場時会場図および係員入場方法



キャンプファイヤー台本（子火用）

親 火 強い心と体の持ち主になるために。

子火1 わたしたちは、心と体をきたえ、どんな苦しみにも負けず、最後までやりぬく強い心と体の持ち主になるよう努めます。

親 火 豊かな心の持ち主になるために。

子火2 わたしたちは、自分のことだけでなく、いつも他人の立場を考え、親切で思いやりのある温かい人間になるよう心がけます。

親 火 いつまでも変わらない友情のために。

子火3 わたしたちは、このすばらしい友情をさらに深め、これからの人生を共に助け合い、励まし合^{はげ}っていくことを誓います。

親 火 一日一日に全力を尽くすために。

子火4 わたしたちは、一日一日を反省し、明^あ日^すに向かって全力を尽くし、悔^くいのない毎日を過ごすように努めます。

キャンプファイヤー台本（営火長用）

営火長（迎え火のことば）

「今夜は、みなさんとうこうしてキャンプファイヤーを行うことができ、うれしく思います。みなさん一人一人の胸に、情熱の炎が力強く燃えています。今夜のキャンプファイヤーがさらに友情を深め、団結を強め、今後の生活の向上につながることを期待します。そして、いつまでも心のアルバムに残るつどいになることを希望して迎え火のことばとします。」

営火長（点火の合図）

「点火」

営火長（送り火のことば）

「今夜は、楽しくキャンプファイヤーを行うことができました。それは、皆さんの一人一人の心が一つになった証拠だと思います。このキャンプファイヤーの炎のように、いつまでも変わらぬ情熱と友情の炎を燃やし続け、これからの学校や家庭、地域での生活に生かしていくことを期待して、送り火のことばとします。」

キャンプファイヤー台本（親火用）

親火（ともしびにささげることば）

「わたしたち〇〇〇の〇〇は、ここ霧島自然ふれあいセンターにおいて、キャンプファイヤーを行うことができ、うれしく思います。自然の中で共に活動し、寝食を共にする中で、今まで知らなかった友達のすばらしい姿を発見し、自分の姿を見直しながら、さらに、友情を深めたいと思います。今夜は、仲良く楽しく、いつまでも心に残るつどいにし、これを機会に明日からの生活に役立てることを誓い、ともしびにささげることばとします。」

令和〇〇年〇月〇〇日 〇〇代表〇〇 〇〇

親火→子火（誓いのことば）

親 火 強い心と体の持ち主になるために。

子火1 わたしたちは、心と体をきたえ、どんな苦しみにも負けず、最後までやりぬく強い心と体の持ち主になるよう努めます。

親 火 豊かな心の持ち主になるために。

子火2 わたしたちは、自分のことだけでなく、いつも他人の立場を考え、親切で思いやりのある温かい人間になるよう心がけます。

親 火 いつまでも変わらない友情のために。

子火3 わたしたちは、このすばらしい友情をさらに深め、これからの人生を共に助け合い、励まし合っていくことを誓います。

親 火 一日一日に全力を尽くすために。

子火4 わたしたちは、一日一日を反省し、明日に向かって全力を尽くし、悔いのない毎日を過ごすように努めます。

キャンプファイヤー台本（進行用）

<第1部 迎え火のつどい>

※ 参加者入場

1 開会のことば（CDデッキスイッチONしてから～「遠き山に日は落ちて」～）

「ただいまから、（ ）のキャンプファイヤーを始めます。」

2 営火入場

「営火入場」 親火，子火4，子火3，営火長，子火2，子火1の順

3 ともしびに捧げることば

「親火の方は，ともしびにささげることばをお願いします。」

親火のことば 「わたしたち～とします。」 令和〇〇年〇月〇日 〇〇代表 〇〇 〇〇

4 誓いのことば

「親火の方は，子火に呼びかけてともしびを分けてあげてください。」

親火と子火の誓いのことば 親火→子火1→親火→子火2→親火→子火3→親火→子火4

5 迎え火のことば

「営火長は，迎え火のことばをお願いします。」

営火長のことば 「今夜は，～迎え火のことばとします。」

6 点火

「営火長は，点火の合図をお願いします。」 営火長「点火」

7 歌「燃えろよ燃えろ」

「さあ，みんなで『燃えろよ燃えろ』を歌いましょう。」

「営火退場」

<第2部 交歓のつどい>

「静かな中で第1部のセレモニーが終わりました。これからレクリエーションに入ります。出し物やゲームを大いに楽しみましょう。」

<第3部 送り火のつどい>

1 採火

「ただ今から、第3部送り火の式を始めます。」

「係の皆さんは、採火してください。」

2 送り火のことば

「営火長は、送り火のことばをお願いします。」

営火長のことば 「今夜は、～迎え火のことばとします。」

3 歌「今日の日はさようなら」 (3番まで歌った後、ハミングで火の係が退場する。)

「最後にみんなで『今日の日はさようなら』を歌いましょう。3番まで歌ったら、ハミング（ラララ）で続けてください。」

4 営火退場 (親火を先頭に退場し、ぬれそうきんで火を消す。)

「営火退場」

5 閉会のことば

「以上で（ ）のキャンプファイヤーのすべてを終わります。」

ニュースポーツ

〈カローリング〉

概 要 氷上のスポーツ（カーリング）からヒントを得て誕生した，新しいスポーツである。

1 チーム3人のプレイヤーが6個のカラフルなジェットローラーを，コート先端にある直径90cmのポイントゾーンに向けて相手チームのプレイヤーと交互に走行してぶつけ合い得点を競う。

対 象 小学生以上

時 間 約 1 時間

人 数 1 チーム 3 人（2 チーム対抗）

準備物 ジェットローラー6 個，ポイントゾーン1 枚，テープ，マット

- 進め方
- ① ジャンケン等で先攻・後攻を決める。
 - ② 先攻の 1 番，後攻の 1 番，先攻の 2 番という順に6 名がローラーを押し出す。
 - ③ 最後にポイントゾーンの中心の近くにローラーのあるチームが勝利となる。



準備物



中心に近い赤の勝利



投げ方



コートの様子

〈シャッフルボード〉

概 要 木製の棒（キュー）で円板（ディスク）を押して区画した得点圏に入れ、得点を競うゲームである。

対 象 小学生以上

時 間 約 1 時間

人 数 シングルス（1 対 1）とダブルス（2 対 2），4 対 4 の対抗戦

準備物 シャッフルボード用の棒（キュー），円板（ディスク），マット

- 進め方
- ① 円板は黄 4 個，黒 4 個で黄組から始め，交互にキューで円板を押し出す。
 - ② 8 個の円板を押し終わる半ラウンド終了で得点を計算する。次に逆の方向から黒組より始める。
 - ③ 往復して得点の高い方が勝利となる。
 - ④ 線上の得点は無効となる。



準備物



合計 14 点



押し方



コートの様子

〈ストラックアウト〉

概 要 ドッジビーをサイドスローで投げて、的を打ち抜き得点を競うゲームである。

対 象 幼児から高齢者まで

時 間 約1時間

人 数 チーム（1～9人）×チーム数（不特定多数で実施可能）

準備物 ストラックアウトセット（1セット有り）、ドッジビー、スコアシート

- 進め方
- ① 手持ちのドッジビーは5個あり、5回連続して投げる。
 - ② ドッジビーは片手で持ち、両足は地面から離れないように投げる。
 - ③ 数字が得点になる。



ストラックアウトセット



ドッジビー



投げ方



合計15点

〈輪投げ〉

概 要 輪をアンダーハンドで弧を描くように投げて、ポールに入れ得点を競うゲームである。

対 象 幼児から高齢者まで

時 間 約1時間

人 数 1チーム（1～9人）×チーム数（不特定多数で実施可能）

準備物 輪投げ・座板セット（3セット有り）、スコアシート、

- 進め方
- ① 座板と投輪ラインの距離は、団体の判断により任意の距離で行う。
 - ② 9本の輪（赤4・黄4・青1）を続けて投げる。
 - ③ 輪は片手で持ち、両足は地面から離れないように投げる。
 - ④ 台のポールの下にある数字が得点になる。縦横斜めのいずれかの1列がそろうごとに10点加算される。



輪投げ・座板セット



投げ方



合計 11 点



合計 26 点

〈グラウンドゴルフ〉

概 要 ボールをホールポスト目指してクラブで打ち、何打でホールポストに入れるかを競うゲームである。敷地内に設置された8つのホールをクリア（ホール下部の輪の中に入れる）し、すべてのホールスコア（ホールに入れるために打った回数）の合計が少ない人（団体では個人のスコアの合計）が上位になる。

対 象 小学生以上

時 間 約2時間（人数による）

人 数 1チーム（4～6人） ※ 各ホールで同時にスタートする。

準備物 筆記用具（各グループに1本）、グラウンドゴルフ用ボール・クラブ（人数分：6人×3チーム分有り）、スコアシート、ボールマーク

進め方

- ① 打順をジャンケン等で決め、最後まで変更しない。
- ② 2打以降はゴールに遠い人から打つ。
- ③ ホール毎にスコアを記録する。8ホールを2回行う。



準備物



ホールクリア



打ち方

- 打つときは周りに人がいないか確認しましょう。
- 自分のボールにはマークをしましょう。
- 前のチームが終わったのを確認してから打ちましょう。
- 1回で入った場合（ホールインワン）は「マイナス3打」になります。

〈フライングディスクゴルフ〉

概 要 ディスクをゴール目指して投げ、何投でゴールに入れるかを競うゲームである。9ホールをクリア（ゴールのかごにディスクを入れる）し、すべてのホールのスコア（ゴールまでに投げた回数）の合計が少ない人（団体では個人のスコアの合計）が上位になる。

対 象 小学生以上

時 間 約2時間

人 数 1チーム（4～6人） ※ 各ホールで同時にスタートする。

準備物 筆記用具（1グループに1本）、フライングディスク（人数分：100枚程度有り）、ゼッケン、スコアシート、

進め方 ① 投げる順番をジャンケン等で決め、最後まで変更しない。
② 2投以降はゴールに遠い人から投げる。
③ ホール毎にスコアを記録する。9ホールを2回行う。



スタート



ゴール（ホールクリア）



投げ方

- ふれあい棟や創作の館の屋根にディスクが乗らないように気を付けましょう。特に風が強い日は注意しましょう。
- 前のチームが終わったのを確認してから投げましょう。
- 1回で入った場合は「マイナス3投」になります。

〈ゲーゴルゲーム〉

概 要 ゲーゴルスティックとゲーゴルボールを使い、1 m×5 mの長方形の競技マットの上に2種類の「得点ゾーン」を設け、個人あるいは団体による競技者で対抗形式によって行われる。四角得点ゾーンに1回、変形得点ゾーンに1回の計2回のゲームを行い、総得点の多い者（チーム）の勝ちとなる。

対 象 小学生以上

時 間 約1時間（人数による）

人 数 1人以上、団体戦1チーム5人以内

準備物 スティック、ボール6個、マット

- 進め方**
- ① ジャンケン等で先攻、後攻を決める。
 - ② 先攻の1番がスタートラインから6個の球を打ち、続けて第2ゲームを行う。2ゲーム終了後、得点を確認する。
 - ③ 次に後攻の1番が第1ゲーム、第2ゲームを行い、次に先攻の2番というように交互に行う。合計得点の高い者（チーム）が勝利となる。



ゲーゴルスティックとゲーゴルボール



打ち方



得点ゾーン完全に入っていれば得点



得点ゾーンと同じ番号のボールで得点が2倍

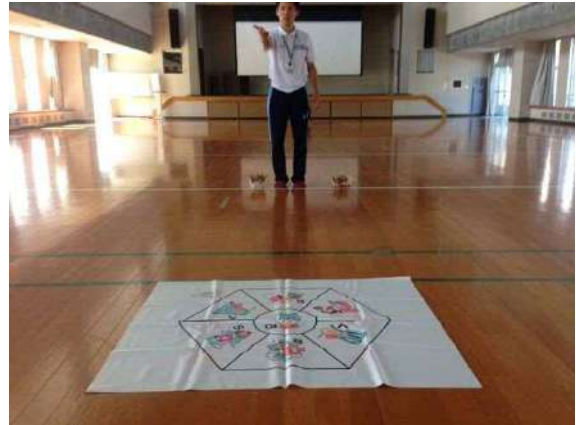
〈羽根っこゲーム（七福神ゲーム）〉

- 1 概 要 羽根を持って、アンダーハンド（下手投げの要領）で、弧を描くように投げると地面にきちんと立つようになっている。
- 2 対 象 子どもから高齢者まで
- 3 時 間 約 1 時間
- 4 人 数 1 対 1 ～ 10 対 10
- 5 準備物 シート、羽根（5セット有り）
- 6 進め方
 - ① 赤白の 2 チームに分かれて、ジャンケンで先攻・後攻を決め、交互に羽根をアンダーハンドで投げる。
 - ② 全ての羽根を投げ終わったら、得点を集計する。さらに七福神の全てにチームの羽根が入っていたらボーナス点として 50 点を加算する。

※ 先に 200 点に達したチームの勝ちや、七福神の全てにチームの羽根を入れることを目標にするなどオリジナルルールを決めてもよい。
- 7 留意事項
 - ・ シートまでの距離は 2 ～ 3 m が適当であるが、参加者によって調整してもよい。
 - ・ 投げた羽根がわくの中に完全に入れば得点になるが、羽根の台の部分が線にかかったり、羽根が倒れたりした場合は得点にならない。



準備物



赤・白交互にアンダーハンドで投げる

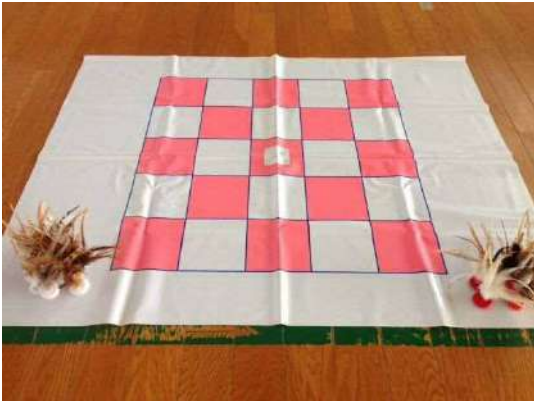


線にかかったり、倒れたりした羽根は無得点

- 交互に投げ、線にかかったり、倒れたりした羽根はすぐ取り除く。
- 全て投げ終わり、七福神全部に入っていたらプラス 50 点。
- 参加者によってシートまでの距離を調整してもよい。

〈羽根っこゲーム（陣とりゲーム）〉

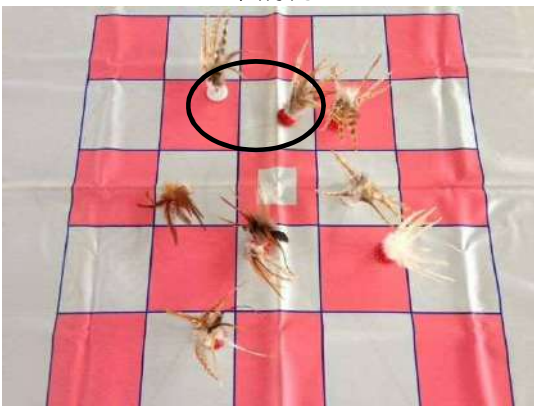
- 1 概 要 羽根を持って、アンダーハンド（下手投げの要領）で、弧を描くように投げると地面にきちんと立つようになっている。
- 2 対 象 子どもから高齢者まで。
- 3 時 間 約 1 時間
- 4 人 数 1 対 1 ～ 10 対 10
- 5 準備物 シート、羽根（5セット有り）
- 6 進め方
 - ① 赤白の 2 チームに分かれて、ジャンケンで先攻・後攻を決め、交互に羽根をアンダーハンドで投げる。
 - ② 全ての羽根を投げ終わったら、羽根の入ったマス目の数で競う。同じマス目に羽根が 2 個以上入っても、得点となるマス目は 1 個のみ。ただし、真ん中のマス目だけは、どちらもチームが入れても有効となる。※ 赤白マスに関係なく一列そろうまで投げ続けるビンゴ形式のルールや、ハサミ取り（オセロのようなルール）など、オリジナルルールを決めてもよい。
- 7 留意事項
 - ・ シートまでの距離は 2 ～ 3 m が適当であるが、参加者によって調整してもよい。
 - ・ 投げた羽根がわくの中に完全に入れば得点になるが、羽根の台の部分が線にかかったり、羽根が倒れたりした場合は得点にならない。
 - ・ 相手の色のマス目に入れても自分の得点にはならない。



準備物



赤・白交互にアンダーハンドで投げる



相手のマスに入っても得点にならない

- 交互に投げ、線にかかったり、倒れたりした羽根はすぐ取り除く。
- 参加者によってシートまでの距離を調整してもよい。

＜チームワークゲーム＞

1 概要 参加者どうしが協力して課題を解決する活動。声をかけ合い、楽しみながら、創意工夫して課題を解決していく喜びを味わうことができる。いくつかの種類があり、目的に応じて組み合わせることで、グループ内の人間関係を深めることができる。

2 対象 小学校中学年以上

3 時間 1種類につき15分～20程度

4 人数 1グループ5～10人程度

5 準備物 運動のできる服装、靴（室内の場合、体育館シューズ等）

【ふれあいセンターで準備する物】 各種用具、ストップウォッチ等

6 実施場所 つどいの広場・プレイホール

7 留意事項 (1) 引率者は事前に、参加者の実態や目的についてセンター職員と話し合い、行うゲームの種類を決定する。
(2) 目的に応じて、グループ分けを行う。事前にグループを決めておき、当日、レクリエーションを進めながらグループをつくる。

8 進め方 チームワークゲームは、設定された課題に対して参加者一人一人の持ち味や能力を出し合い、グループで協力して解決するプログラムである。

○ 課題の解決方法には正解がない。参加者全員がそれぞれの持ち味を出し合い、一つになって取り組むことが大切である。

○ 課題解決の過程においてグループ内でのコミュニケーションが活発になり、信頼感や協調性が生まれ、仲間づくりに大変効果的である。

○ 自然の中で行うことにより、参加者の冒険心をそそり、変化に富んだ内容になる。

9 支援のポイント

- ・ 各課題の目的、やり方、ルール等について熟知しておきます。
- ・ 自然環境やグループの特徴等の状況に対応できるように、やり方やルールの応用型を準備しておきます。
- ・ 参加者自身が自分たちの力だけで挑戦できるように、参加者のレベル（年齢、体力、男女比、経験等）に配慮した課題を選びます。
- ・ 出来る限り、最後までやりとげるようにします。
- ・ 課題は、「易しい」から「難しい」、「単純」から「複雑」という具合に配列します。
- ・ 時間制限を設けたり、ストーリーを作ったり、他のグループの解決時間を紹介する等、課題解

決に対する参加者の意欲を高めるように工夫します。引率者（スタッフ）は、見守る立場にあります。行き過ぎた助言は、参加者のユニークなアイデアや好ましい人間関係、課題を達成したときの満足感等を奪ってしまうことになります。

- ・ 引率者（スタッフ）は、常に安全面について配慮します。
- ・ 課題を解決したら、その成功を喜んであげます。なぜ成功したのか、他に方法はなかったのか、全員が協力していたか等のふり返りの時間を設けます。

10 活動の流れ（例）

- (1) 課題の認知，受容…グループに対して課題を提示します。
- (2) 課題の分析，思考…課題解決の方法をグループで考えます。
- (3) 課題解決の計画……参加者のアイデアを持ち寄り，解決方法を決定します。
- (4) 課題解決の実施……解決方法に従って解決していきます。うまく解決できないときは，(2)に戻ります。
- (5) 課題解決……課題が達成されます。
- (6) ふりかえり……グループがどのように動いたかを振り返ります。

11 チームワークゲームの例

（★…活動の導入向き / ★★…活動の中盤向き / ★★★…活動の終末向き）

(1) UFO着地（★）

竹輪を全員の指先（第一関節のあたり）で支え，指をはなさず地面に着陸させる。

【ポイント】誰かの指がはなれてしまったら，最初からやり直す。（指はピストルの形）
輪を下げる方法について話し合い・工夫する。
5人以上がよい。大人数が面白い。

【準備】竹輪（各グループ1本）



(2) トランポリン（★）

シートのはしをみんなで持って引っ張り，その中心にボールを乗せる。このシートをトランポリンの代わりにして，ボールを高く飛ばす。

【ポイント】みんなの息を合わせないとうまく飛ばない。
10回飛ばせたらクリア。
落ちてしまったら最初からなどルールを決める。

【準備】シート，柔らかいボール

(3) 硫酸の川 (★)

グループに与えられた足場（段ボール片）だけを使って、メンバー全員が川（川に想定した部分・10メートル程度）を渡る。

【ポイント】足場（段ボール片）は体から離れると流されてしまう。

足場は人数よりもちょっと少なめがよい。

誰かが落ちてしまったら、最初からやり直し。

※ 対象年齢に合わせて変えてよい。

【準備】段ボール片（数枚）



(4) パイプライン (★★)

1人1つずつパイプを持ち、スタートからゴールまで協力してボールを運ぶ。

【ポイント】途中でボールが落ちてしまうと、最初からやり直し。

ボールを持ったまま移動してはいけない。

状況に応じて、話し合う短い時間を設定する。

【準備】パイプ、ピンポン球、ゴール（空き缶等）



(5) フラフープリレー (★★)

手をつなぎ、大きな円をつくって、1カ所にフラフープをいれる。手を離さずに、フラフープを一周させる。

【ポイント】時間を計り、タイムをどこまで縮めることができるか挑戦させる。

どうすれば早く1周させることができるか話し合わせる。

【準備】フラフープ

※ ロープの輪で行うと、難易度が上がる。



(6) 人間知恵の輪(★★)

まず6~8人名程度の人数で円になる。両隣の人以外の人と手をつなぎます。ただし、同じ人とつないではいけない。手をつなぐとき、順序よく直前の上でつなぐようにしていくと、ほどけやすくなる。

みんなの手がからまっている状態なので、お互いに声をかけあって、くぐったり、またいだりしながら、1つの大きな円にする。 ※ 内向き、外向きの人がいる。

【ポイント】スター時点で、円がふたつになっていないかを確認する。

例：誰かが1回つないでいる手をギュっとにぎり、握られた人はその反対の手をギュっとにぎって伝えていく。

全員の手をまわって最初に握った人に帰って来たら、円が1重であるとわかる。

手は離さない。ねじれた場合、つなぎ替えるのはよい。

【準備】特になし



(7) 日本列島(★★★)

狭い土地(新聞紙)の上に、メンバー全員が乗り10秒数える。

【ポイント】みんなで話し合い、地面に足がつかないように工夫する。

※ 新聞紙大→小へ変え、課題を難しくする。

【準備】新聞紙1枚



(8) 一本橋(★★★)

二組に分かれ、一本橋の両端に立ち、橋から落ちないように移動して入れ替わる。

【ポイント】入れ替わる方法について工夫する。

一列で橋に立ち、誕生日や名前順に並びかえるバリエーションなどもある。

【準備】一本橋(角材2本を並べたもの)



(9) ムカデ競争 (★★)

スタートラインを背にして縦一列に、膝を立てて班で一列になって座り、それぞれ背中を向けている人の足首をしっかりと握って競走する。

【ポイント】足首を離してムカデが切れたら、スタート地点に戻って再スタートする。みんなで声を合わせてリズムを取ることが大切。「前進のみ (S→G)」や「周回 (目印を回ってくる)」「バックで戻ってくる」などのバリエーションで楽しめる。

【準備】 笛、折り返し用のコーン (パイプいす)



(10) タグマッチ (★)

タグ (布) を腰にはさみ、左 (右) 手どうしをつなぐ。合図と同時に、相手のタグを取り合う。早く取った人の勝ちとなる。

【ポイント】腰にはさむタグの長さをそろえる。手を放してはいけない。

【準備】 笛、ストップウォッチ、タグ (布)



(11) ネットパスラリー (シートで遊ぶ) (★★)

ネットにボールを載せて持ち、ペア2組で向かい合い、ネットの上のボールを交換する。

【ポイント】ニュートラルゾーンに踏み入らないようにする。
ネット (シート) の大きさに合わせて人数を調整する。人数が多くなるほど難易度が上がる。

【準備】 ネット (シート)、ボール、ストップウォッチ



(12) リングテニス (★★)

向かい合ったペアがリングを1個ずつ持ち、かけ声をあわせ、全員でリングをスローイングし、お互いのパートナーが投げたリングをキャッチする。(リングの交換)

【ポイント】アンダーハンドでスローイングする。

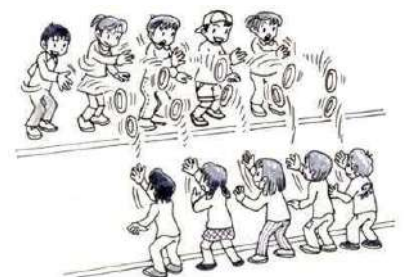
スローイングとキャッチングは必ず片手で行う。

掛け声に合わせて一斉に行う。

リングが1個でも地面に落ちたらアウトとなる。

全員がミスなくキャッチできた時にカウントする。

【準備】 リング



オリエンテーリング

ね ら い	地図とコンパスを使ってポストを探しながら、霧島の大自然に親しむ。また、グループ活動を通して協調性を養い、達成の喜びを味わう。	
時間・費用	・ 2時間程度 ・ 無料	
対象・人数	・ 小学生以上 ・ 100人程度	
場 所	霧島自然ふれあいセンター周辺（オリエンテーリングコース）	
準備・道具	【参加者が準備する物】 ・ 運動のできる服装 ・ 水筒 ・ 帽子 【ふれあいセンターで準備する物】 ・ 地図、コンパス、ゼッケン、筆記用具、紙ばさみ、記録用紙、引率者巡視マップ	
コ ー ス	1 Aコース 小学生向き 2 Bコース 中学生以上向き	
留 意 事 項	1 センター職員は事前事後の指導を行うが、原則として同行しない。 2 グループ編成は4～6人とし、男女混合が望ましい。 3 グループから離れた行動をとらないように注意する。 4 活動中は、天候の急変や事故防止に備え、対応措置を考えておく。	
実 施 方 法	【内 容】 1 集合 2 人数の確認、健康観察 3 実施方法、地図の見方、コンパスの使い方 の説明 (1) オリエンテーリングとは (2) 地図の説明 (3) コンパスの使い方の説明 (4) 競技上の注意 ・ チームはそろって行動する。 ・ 自然愛護、安全に気を付ける。 4 オリエンテーリングの実施 (1) スタート (2) ポストを探す (3) ゴール 5 人員及び健康状態の確認とふりかえり 6 用具の後始末	【留 意 点】 ○ トイレをすませチームごとに整列する。 ○ 参加できない者への活動を配慮する。 (用具の集配、スタート・ゴールのチェック等) ○ 制限時間内に、ポストの配点を考慮しながらできるだけ多くのポストを回り、なるべく多くの得点を集めてゴールする。 ○ 地図の見方、コンパスの使い方を実習する。 ※ 地図、コンパスの使い方は別紙参照。 ○ 徒歩を原則として、グループで協力しながらポストを探す。 ○ 交通ルールを守り事故に気を付ける。 ○ もし道に迷ったら元にもどる。 ○ 事故等が発生した場合、直ちに事務室へ連絡する。 ○ 超過時間1分につき5点減点する。 ○ 全員の帰着を確認し、健康観察をする。 ○ 答え合わせをする。

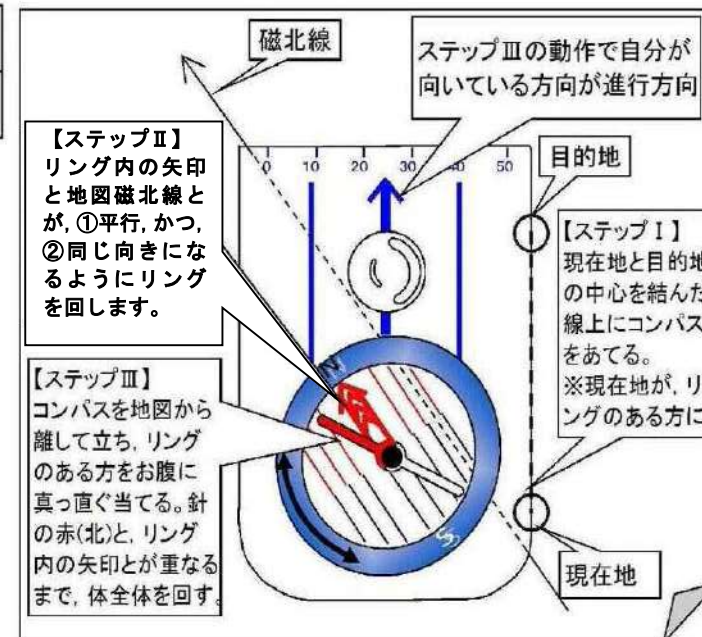
オリエンテーリング【Aコース】(主に小学生以上用)

県立霧島自然ふれあいセンター

78-2815

チーム名				ゼッケン番号		人数	
名前							
制限時間	時間	分	ゴール予定時刻	時	分	秒	→ A
スタート時刻	時	分	秒	ゴール時刻	時	分	秒 → B

- ※ 制限時間を過ぎたら減点されます。また、終了時刻までには必ずセンターに戻りましょう。
- ※ コンパスの進行線が進む方向です。コンパスのリング内の針と間違えないようにします。
- ※ グループ長はゼッケンを着用し、必ずグループごとに協力して行動しましょう。
- ※ 交通ルールを守り、他の交通の邪魔にならないよう注意し、事故に気をつけましょう。
- ※ 民家や他の施設の敷地には入りません。(乗馬クラブ、みやまコンセル、自然教育の森は除く)
- ※ もし道に迷ったら、地域の方に助けを求めましょう。



番号	2	4	6	11	13	15	18	19	20	21	22	28	29	30	課題 得点 合計 270点
記号															
アルファベット															
得点	25	15	20	10	30	25	20	25	20	10	25	25	15	5	



※ ゴール予定時刻を過ぎてゴールした場合

ロスタイム減点	B - A =	分	秒	—	点
---------	---------	---	---	---	---

課題得点		順位
ロスタイム減点	—	
合計得点		

オリエンテーリングコース指導者巡視マップ



周辺施設地との連携を図ったプログラム

霧島自然ふれあいセンターの周辺には多種多様な施設があります。これらの施設との連携を図ることでさらに充実した研修を行うことができます。

プログラム	場 所	対 象	時 間	費 用	備 考
ミニコンサート	みやまコンセール (徒歩 10 分) Tel0995-78-8000	幼児以上	約 1.5 時間	大人 500 円 高校生以下 200 円	午前 10:30～ 午後 13:30～ 20 名以上
乗 馬 体 験	霧島高原乗馬クラブ (徒歩 5 分) Tel0995-78-3455	幼児以上		1 人 550 円	一周 3～4 分の引き馬 ※ センターのプログラムの場合の費用
野外彫刻鑑賞	霧島アートの森 (車 40 分) Tel0995-74-5945	幼児以上	約 1 時間	小・中学生 150 円 高校・大学生 200 円 一般 310 円	学校行事の場合は 入場料免除 20 名以上で団体割引
発 電 所 見 学	九州電力大霧地熱発電所 (車 35 分) Tel0995-74-1186	小学生以上	約 2 時間	無料	要予約 ※ 1 回の見学につき 最大 69 人まで
クロスカントリー	柳平の 1 周約 2.4 km の林道周回コース。	小学生以上	1～2 時間	無料	
水 泳	霧島市牧園町 B & G (徒歩 5 分) Tel0995-78-3770	幼児以上		1 回 110 円	7 月～9 月営業
屋内スポーツ	霧島市牧園町 B & G (徒歩 5 分) Tel0995-78-3770	幼児以上	1 時間 1 面	1 面 220 円	バレーボールコート 3 面可 ※ 水曜日休館
	牧園アリーナ (車 10 分) Tel0995-76-2500	幼児以上	1 時間 1 面	1 面 220 円	バレーボールコート 4 面可 ※ 月曜日休館
テ ニ ス	霧島市牧園町 テニスコート (徒歩 5 分) Tel0995-78-2004	小学生以上	1 時間 1 面	250 円 (1 面) 貸 し ラ ケ ッ ト・ボール有	テニスコート 3 面
ス ケ ー ト	えびの高原 アイススケート場 (車 30 分) Tel0984-33-0161	小学生以上		小学生 610 円 中学生 820 円 貸し靴代 630 円	12 月～2 月営業 20 名以上で団体割引 有り
歴史資料等見学	上野原縄文の森 Tel 0995-48-5701 埋蔵文化財センター Tel 0995-48-5811	小学生以上	約 2 時間	小 中 学 生 1 人 150 円 ※ 埋文センタ ーは無料	団体割引 (20 人) 小・中学生 120 円 ※ 埋文センターは無料

※ ミニコンサート・乗馬体験は、霧島自然ふれあいセンターで予約の手続きを行います。希望する団体は、前月の 15 日までに連絡してください。

※ その他の活動については、団体で各施設へ連絡を取り、予約・交渉等を行ってください。予約ができたものについては、研修計画に入れてください。

創作活動を効果的に行うために

【活動前】

- 1 団体のねらいが達成できる創作活動にしましょう。
- 2 引率者は、創作活動についての事前研修をしましょう。
- 3 引率者の役割分担を決めましょう。
- 4 活動についてふれあいセンター職員と最終打合せをしましょう。
- 5 活動に必要な用具等の貸し出しを受けましょう。(数量等の確認)

【活動中】

- 1 常に人数や健康・安全の状況を把握しましょう。
- 2 必要に応じ、適当な休憩をとりましょう。(夏場は水分をこまめにとりましょう。)
- 3 火の取り扱いに注意しましょう。
- 4 内線電話の場所を確認し、事務室と連絡がとれる体制にしましょう。 緊急の場合は速やかに事務室に連絡しましょう。

【活動後】

- 1 活動で出たゴミは所定の場所に捨てましょう。それ以外の物は持ち帰りましょう。
- 2 借用品の数を確認し、所定の場所へ確実に返却しましょう。
- 3 活動後のふりかえりをしましょう。

<ポイント>

- ① 相互鑑賞
 - ② 作るに当たってのデザインの理由
 - ③ うまくできたところ、難しかったところ
 - ④ 次に作るとき、気を付けるところなど
- 4 諸点検を済ませ、事務室へ連絡しましょう。(事務室：304, 305, 306)

創作活動プログラム一覧

番号	プログラム	概 要	対 象	時 間	費 用	可能 人数
①	焼 き 板	杉板をバーナーで焼いて磨き、木の実や枝等で飾り付けをしたフォトフレームを作る。	小 学 生 以上	2 時間	100 円	50 人
②	塗 り 箸	6色の漆が重ねてある箸をサンドペーパーで研ぎ、オリジナル模様の箸を作る。	幼児 以上	1 ～ 2 時間	250 円	100 人
③	ガ ラ ス エ 芸	ガラスコップの表面に、ルーターを使って絵や模様を彫る。	小 学 生 以上	2 時間	200 円	40 人
④	レザークラフト キーホルダー	牛革に刻印やペンで絵や文字を描き、染色とコーティングをして、ストラップをつけ、キーホルダーを作る。	小 学 生 以上	2 時間	200 円	120 人
⑤	プ ラ ホ ビ ー	プラスチック板に絵や文字を描き、オーブンで加熱し、ストラップをつけキーホルダーを作る。	幼児 以上	1 ～ 2 時間	100 円	60 人
⑥	水 ロ ケ ッ ト	ペットボトルと厚紙でロケットを作り、発射台を使って飛ばす。	小 学 生 以上	2.5 時 間	紙・テープ 各 50 円	50 人
⑦	コ ル ク エ 芸 コ ー ス タ ー	原画をコルクに転写し、それを彫り上げながら切り絵風の模様のコースターを作る。	小 学 生 以上	2 時間	150 円	50 人
⑧	バ ル ー ン モ デ リ ン グ	ペンシルバルーンを膨らまし、ひねりながら動物等を作る。	小 学 生 以上	1 ～ 2 時間	1 本 20 円	50 人
⑨	洋 風	ポリ袋と竹ひごを使って、洋ダコを作り、揚げる。	小 学 生 以上	2.5 時 間	200 円	50 人
⑩	桜 チ ッ プ キーホルダー	桜の木の枝を使い、削ったり磨いたりしながら、キーホルダーを作る。	小 学 生 以上	1.5 時 間	100 円	40 人
⑪	切 り 絵	台紙をカッターで切り、裏から色画用紙等を貼って仕上げ、最後に色紙等に貼り作品にする。	小学 5 年 生 以上	2.5 時 間	120 円	100 人

※ これらの他に、団体で材料等を持ち込んで独自の創作活動を行うこともできます。創作に必要な道具についてはセンターから貸し出します。研修主事と十分な打合せを行ってください。

焼き板

ね ら い	杉板の全面をバーナーで焼き、木の実や枝などで飾り付け、フォトフレーム等を作る活動を通して、創作の楽しみを味わうとともに、用具の安全な使い方を知る。 また、飾りに自然物を使うことで、自然に関心を持ち、自然を愛する心を養う。
時 間	2時間
費 用	100円
対 象	小学生以上
可能人数	50人程度
場 所	創作の館
準備・道具	【参加者が用意する物】 ・どんぐりなどの木の実、木の枝、葉っぱ、小石などの自然物等 【ふれあいセンターが準備する物】 ・杉板(1枚) ・麻ひも(1本) ・ヒートン(2個) ・はさみ ・バーナー ・火ばさみ ・たわし ・きり ・接着剤 ・白布 ・軍手 ・油性ペン(必要に応じて)
展 開	1 用具の準備 2 集合、人数確認 3 作り方の説明、注意事項、用具の配布 4 創作開始 (1) どんぐりや木の枝、かれ葉などを拾う。 (2) 軍手をして火ばさみで板を持ち、バーナーで板全体を焼く。 (3) 木目に沿って、たわしでこすり、すすを落とした後、白布でこすり「つや」を出す。 (4) きりで少し穴を開けて、ヒートンと麻ひもを付ける。 (5) 接着剤を使ってどんぐり等の飾りを付ける。 5 後始末と用具の返却 6 まとめ(相互鑑賞等) 7 解散
留意事項	○ 安全・健康面には十分気を付ける。 ・バーナーが固定されているか確認する。 ・バーナーを扱うときは軍手をつける。 ・バーナーは人に向けない。 ・焼いた板をたわしでこするときは、屋外で行う。 ○ 用具等は大切に扱い、元の場所に確実に返却する。 ○ ゴミなどの後始末や研修室の清掃を行う。

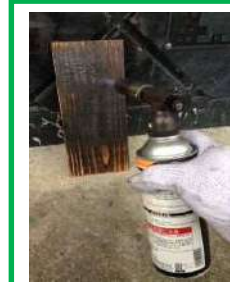
焼き板

- 1 どんぐりや木の枝、かれ葉などを拾っておく。



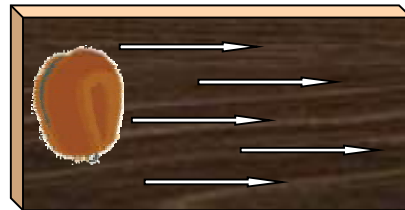
- | | | |
|-------|--------|--------|
| • 杉板 | • 軍手 | • バーナー |
| • たわし | • 火ばさみ | |
| • きり | • ヒートン | • 白布 |
| • 麻ひも | • 接着剤 | • はさみ |

- 2 軍手をして、火ばさみで板を持ち、バーナーで全体を焼く。

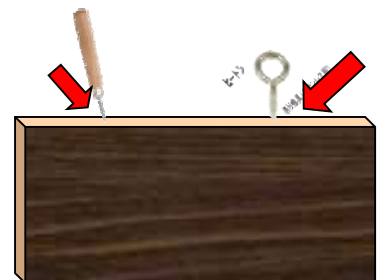


- バーナーが固定されているか確認する。
- 必ず軍手を着用し、点火の際は周囲に気を付ける。
- ガス栓を開き、点火ボタンを押す。
- ※ バーナーの先は、冷えるまで触らない。

- 3 木目に沿って、たわしでこすり、すすを落とした（屋外で行う）あと、白布で磨く。



- 4 きりで2カ所、穴をあけ、ヒートンと麻ひもを付ける。



- 5 接着材を使って、周囲にどんぐり等で飾りを付ける。



- 6 フォトフレーム完成！



塗り箸

ね ら い	6色の漆が重ねてある箸をサンドペーパーで磨き、模様を描き出す活動を通して、創作の楽しみを味わう。
時 間	1～2時間
費 用	250円
対 象	幼児以上
可能人数	100人程度
場 所	創作の館、多目的ホール
準備・道具	【参加者が用意する物】 特になし 【ふれあいセンターが準備する物】 ・塗り箸(1組)黒か朱 ・サンドペーパー(1枚) ・白布(1枚) ・新聞紙 ・台ふき ・洗面器
展 開	1 用具の準備 2 集合、人数確認 3 作り方の説明、注意事項、用具の配布 4 創作開始 (1) 模様を決める。 (2) サンドペーパーに水を少しつけて研磨する。 (3) 表面の黒色(朱色)の下には、黄、緑、白、赤と色が出てくるので、研磨しながら模様を作る。 (4) 白布で、箸についた削り粉を拭き取る。 5 後始末と用具の返却 6 まとめ(相互鑑賞等) 7 解散
留意事項	○ 塗り箸は研磨を進めると、下地の黒色(朱色)が出てくるので、それ以上は磨かないようにする。(下地の下は木です。) ○ 水を少しつけて研磨することで、作業がしやすく、削り粉が立ちにくい。 ○ 用具等は大切に扱い、元の場所に確実に返却する。 ○ ゴミなどの後始末や研修室の清掃を行う。

塗り箸

1 模様を決める。



2 サンドペーパーに水を少しつけて研磨する。

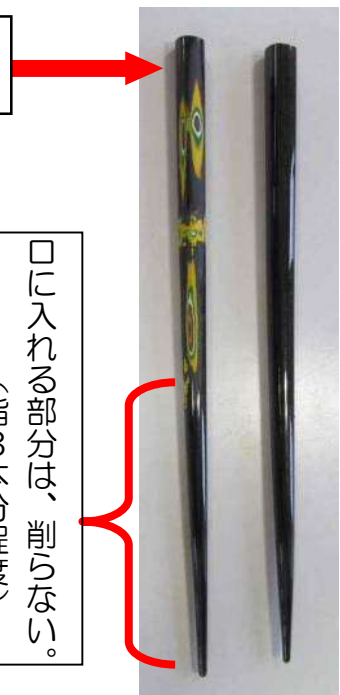
表面の黒色（朱色）の下には、黄、緑、白、赤と色が出てくるので、研磨しながら模様を作る。研磨を進めると、下地の黒色（朱色）が出てくるので、それ以上は磨かないようにする。（下地の下は木です。）



3 白布で、箸についた削り粉を拭き取る。



上端から 1 cm 程度は削らない。



口に入れる部分は、削らない。
（指3本分程度）

4 もう片方を同様に作る。



ガラス工芸

ね ら い	ルーター(ガラス彫刻機)を使って、ガラスコップの表面に絵や模様を彫ることで、創作の楽しみを味わうとともに、用具の安全な使い方を知る。
時 間	2時間
費 用	200円
対 象	小学生以上
可 能 人 数	40人程度
場 所	創作の館
準備・道具	【参加者が用意する物】 ・筆記用具 ・下絵 【ふれあいセンターが準備する物】 ・ガラスコップ(1個) ・ルーター(ガラス彫刻機) ・ぞうきん ・セロテープ ・油性ペン(必要に応じて) ・けがきペン ・黒紙
展 開	1 用具の準備 2 集合, 人数確認 3 作り方の説明, 注意事項, 用具の配布 4 創作開始 (1) 紙に下絵を描く。 (2) ガラスコップの内側に下絵を貼り付ける。 (3) ルーターの先端に芯を取り付ける。 (4) ルーターを使い, 下絵に沿って線を彫る。 (5) 細い線や文字は, けがきペンを使って彫る。 (6) 黒い紙をコップの内側に入れてデザインを確認する。 (7) コップ表面のガラスの粉を, 濡れぞうきんで拭き取る。 (8) 色をつける場合は, 線に沿って油性ペンで色を塗る。 5 後始末と用具の返却 6 まとめ(相互鑑賞等) 7 解散
留 意 事 項	○ 安全面には十分気を付ける。 ・ ルーターの先端工具はしっかり固定する。 ・ ルーターの芯はコップに押しつけない。 ・ ルーターの芯に髪の毛が絡みつかないように気を付ける。 ・ ガラスの粉がついた手で目をこすらない。 ・ 濡れぞうきんの上で削ると, コップがすべりにくい。 ○ 用具等は大切に扱い, 元の場所に確実に返却する。 ○ ゴミなどの後始末や研修室の清掃を行う。

ガラス工芸

1 コップのサイズにあわせた紙に下絵を描く。



2 コップの内側に下絵をはりつける。



3 ルーター（ガラス彫刻機）に芯を取り付ける。（固定式の彫刻機もある）



ロックボタンを押しながらルーターの根元を左に回し、芯を先端に差し込む。
まっすぐ差し込まれていることを確認してから、根元を右に回して固定する。

4 ルーターを使い、下絵にそって線を彫る。



- 細い線や文字は、けがきペンを使って彫る。
- そうきんの上で削ると、すべりにくい。
- コップ表面のガラスの粉を、濡れそうきんで拭き取る。
- 色をつける場合は、線に沿って油性ペンで色を塗る



「ガラス工芸完成!」

＜注意＞

- ガラスの粉を吸い込まないように、時々ぬれ雑巾で拭く。
- ガラスの粉がついた手で、目をこすらないようにする。
- 髪の毛が長い人は、ルーターの先端に髪が巻き込まれないようゴムで束ねるなど注意する。

レザークラフトキーホルダー

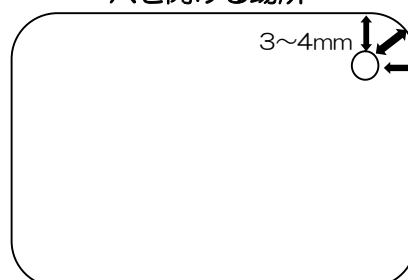
ね ら い	革に刻印やペンで絵等を描き、ストラップをつけ、キーホルダーを作る活動を通して、創作の楽しみを味わうとともに、牛革を使うことで、命を大切にすることを養う。
時 間	2時間
費 用	200円
対 象	小学生以上
可 能 人 数	120人程度
場 所	創作の館、多目的ホール
準備・道具	【参加者が用意する物】 特になし 【ふれあいセンターが準備する物】 ・レザー（牛革） ・刻印 ・油性ペン ・木づち ・フェルト ・ゴム板 ・ストラップ
展 開	1 用具の準備 2 集合、人数確認 3 作り方の説明、注意事項、用具の配布 4 創作開始 (1) レザー（革）に穴を開ける。 (2) レザー（革）に刻印やペンで絵などを描く。 (3) ストラップを付ける。 (4) 茶色の液につける。（着色） (5) 乾いたら白い液につける。（コーティング） (6) つるして乾かす。（2 時間程度） 5 後始末と用具の返却 6 まとめ（相互鑑賞等） 7 解散
留 意 事 項	○ 安全面には十分気を付ける。 ※ 木づちを使う際は、自分の手や周りに気を付ける。 ○ 刻印を使い終わったら、同じ番号の元の場所に返却する。 ○ 用具等は大切に扱い、元の場所に確実に返却する。 ○ ゴミなどの後始末や研修室の清掃を行う。

レザークラフトキーホルダー

1 レザー（革）に穴を開ける（ストラップ用）



穴を開ける場所



刻印を打つときは、穴が開いている方を
自分に向けて打つ

2 刻印やペンで描く



3 ストラップを付ける



4 茶色の液につけて（着色），乾かす（15分程度）



5 乾いたら白い液につける（コーティング）



6 つるして乾かし（2時間程度），乾いたら完成！



プラホビー

ね ら い	プラスチック板の特性を生かして、絵や文字を描き、オープンで縮め、キーホルダーにする活動を通して、創作の楽しみを味わうとともに、用具の安全な使い方を知る。 加熱によって素材が縮む現象を通して、科学への関心を高める。
時 間	1～2時間
費 用	100円
対 象	幼児以上
可 能 人 数	60人程度
場 所	創作の館、多目的ホール
準備・道具	【参加者が用意する物】 ・筆記用具 ・下絵 【ふれあいセンターが準備する物】 ・プラスチック板(1人2枚) ・ストラップ(2個) ・オープン ・軍手 ・ピンセット ・はさみ ・油性ペン ・押し板 ・パンチ ・アルミはく
展 開	1 用具の準備 2 集合、人数確認 3 作り方の説明、注意事項、用具の配布 4 創作開始 (1) プラ板にストラップを通す穴を、パンチで開ける。 (2) プラ板に油性ペンで絵を描く。(下絵等を持参し、その上にプラ板をのせ、写してもよい) (3) オープンのアルミはくの上にプラ板をのせ、加熱する。 (4) 縮んだプラ板が平らになったらピンセットで取り出し、押し板にはさみ軽く押さえ、形を整える。 (5) ストラップを付け、完成。(大きさは元の約1/4になる。) 5 後始末と用具の返却 6 まとめ(相互鑑賞等) 7 解散
留 意 事 項	○ オープンや中のプラ板は高温なので、必ず軍手で作業する。(幼児等の場合は引率者が行うことが望ましい。) ○ 縮んだプラ板が平らになったら、ピンセットで取り出す。(幼児等の場合は引率者が行うことが望ましい。) ○ 用具等は大切に扱い、元の場所に確実に返却する。 ○ ゴミなどの後始末や研修室の清掃を行う。

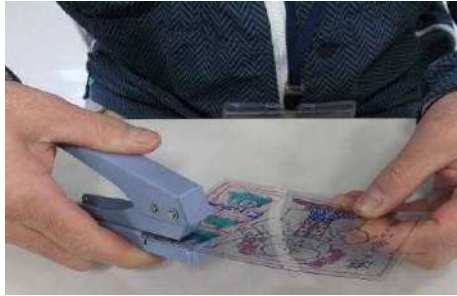
プラホビー



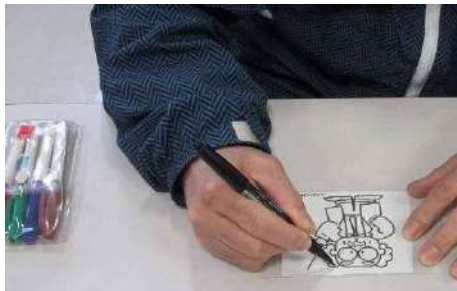
<道具>

- ・プラスチック板（1人2枚）
- ・ストラップ
- ・軍手
- ・押し板
- ・オープン
- ・ピンセット
- ・パンチ
- ・アルミはく
- ・油性ペン
- ・はさみ

1 プラ板にストラップを通す穴を、パンチで開ける。



2 プラ板に油性ペンで絵を描く。
（下絵等を持参し、写してもよい）



3 オープンのアルミはくの上にプラ板をのせ、加熱する。



4 縮んだプラ板が平らになったらピンセットで取り出し、押し板にはさみ軽く押さえ、形を整える。



5 ストラップを付け、完成！（大きさは元の約1/4になる。）

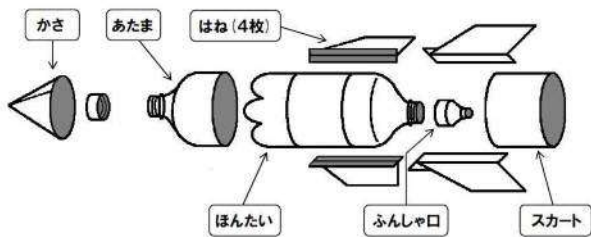


水ロケット

ね ら い	ペットボトルの特性を生かし、水ロケットを作って、飛ばす活動を通して、創作の楽しみを味わうとともに、用具の安全な使い方を知る。 空気圧を推進力に変える現象を通して、科学への関心を高める。
時 間	2時間 30 分（発射実験までを含む）
費 用	厚紙50円 ビニルテープ50円
対 象	小学生以上
人 数	50人程度
場 所	創作の館，多目的ホール，つどいの広場
準備・道具	【参加者が用意する物】 ・ペットボトル （炭酸系の500mlでくびれのない円筒形のもの2本） 【ふれあいセンターが準備する物】 ・ビニルテープ ・接着剤 ・工作用カッター ・はさみ ・定規 ・油性ペン ・ホッチキス ・厚紙(型つき) ・噴射口 ・空気入れ ・発射台
展 開	1 用具の準備 2 集合，人数確認 3 作り方の説明，注意事項，用具の配布 4 創作開始 (1) ペットボトルを頭とスカートの部分に分ける。 (2) 本体に頭とスカートをつける。 (3) 厚紙ではねとかさを作り，模様などを描き，本体につける。 (4) 完成したロケットを飛ばす。 ア ペットボトルに，水を半分ぐらい入れる。(250ml 程度) イ 本体に噴射口を取り付け，発射台にセットする。 ウ 空気入れで空気を入れて発射する。(15 回程度) 5 後始末と用具の返却 6 まとめ（相互鑑賞等） 7 解散
留意事項	○ 安全面には十分気を付ける。 ・カッターの取り扱いに注意する。 ・水ロケットを発射する際は，大人の人と一緒に飛ばし，人に向けて飛ばさない。また，障害物のない広い場所で飛ばす。 ○ 用具等は大切に扱い，元の場所に確実に返却する。 ○ ゴミなどの後始末や研修室の清掃を行う。

水ロケット

【分解図と部品の名称】

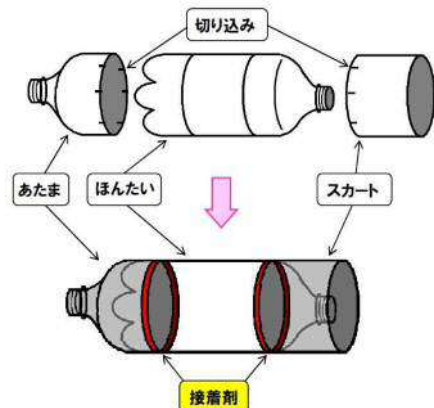


【準備するもの】

ペットボトル(炭酸系2本)

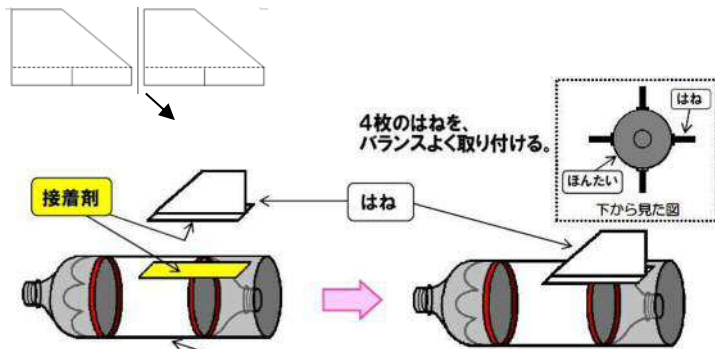
- ビニルテープ
- 接着剤
- 工作用カッター
- はさみ
- 定規
- 油性ペン
- ホッチキス
- 厚紙 (型つき)
- 空気入れ(発射口付き)
- 発射台

- 1 ペットボトルを頭とスカートの部分に分ける。
- 2 本体に頭とスカートを付ける。
※ 接着剤やホッチキスで接着した後、
ビニルテープで補強する。

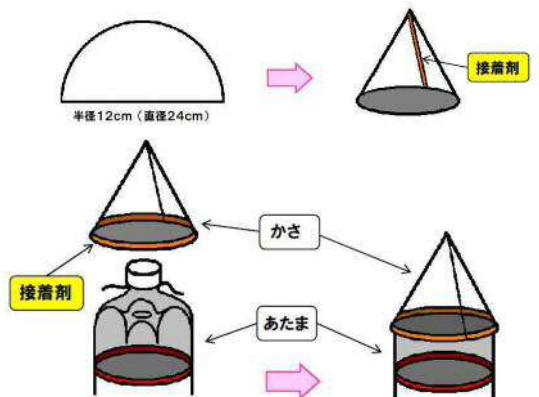


- 3 厚紙からはねとかさの型を切り抜き、模様などを描き、本体に取り付ける。

① はねの取り付け



② かさの取り付け



- 4 水ロケット完成！ 噴射口を取り付け、発射台に置いたら、ロケット発射！

- ① 水を入れ、発射口を付ける。
- ② 空気入れで空気を入れる。
- ③ 安全を確認して発射する。

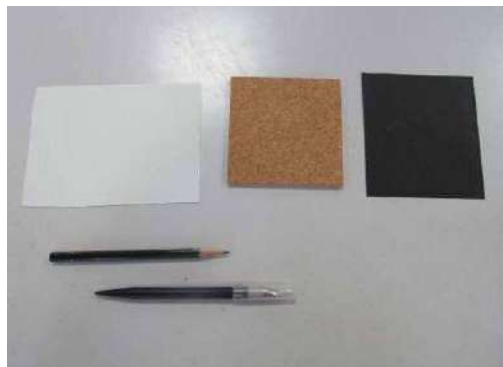
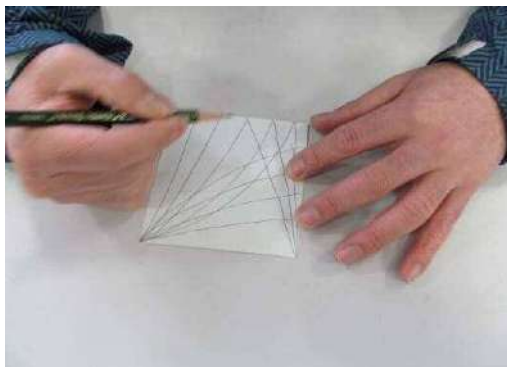


コルク工芸コースター

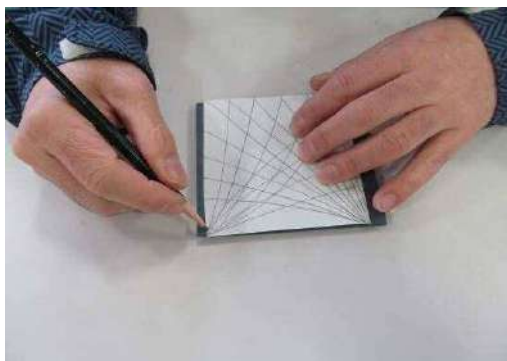
ね ら い	下絵をコースター表面のコルク部分に写し、白い部分を切り取り、コースターを作ること、創作の楽しみを味わうとともに、用具の安全な使い方を知る。
時 間	2時間
費 用	150円
対 象	小学生以上
人 数	50人程度
場 所	創作の館、多目的ホール
準備・道具	【参加者が用意する物】 ・筆記用具 ・下絵 【ふれあいセンターが準備する物】 ・コルク工芸コースター式 ・テープ ・クラフト用カッター ・カーボン紙 ・油性ペン（必要に応じて）
展 開	1 用具の準備 2 集合、人数確認 3 作り方の説明、注意事項、用具の配布 4 創作開始 (1) 紙に下絵を描く。 (2) コースターの上に下絵をのせてテープで固定し、その間にカーボン紙をはさみ、下絵を写す。見えにくい線や細かい線は、油性ペン等ではっきり書く。 (3) 写した下絵の黒い部分に沿って、カッターで切りこみを入れる。はがし取る部分を黒く塗っておくとよい。 (4) コルクボードの黒い部分をはがし取る。 5 後始末と用具の返却 6 まとめ（相互鑑賞等） 7 解散
留意事項	○ 安全面には十分気を付ける。 ・ カッターの取り扱いに注意する。 ○ カッターは傾けず、コルクに対して垂直に持って切りこむ。 ○ コルクは切りこみ線が見えにくいので、早めにはがす。 ○ 用具等は大切に扱い、元の場所に確実に返却する。 ○ ゴミなどの後始末や研修室の清掃を行う。

コルク工芸コースター

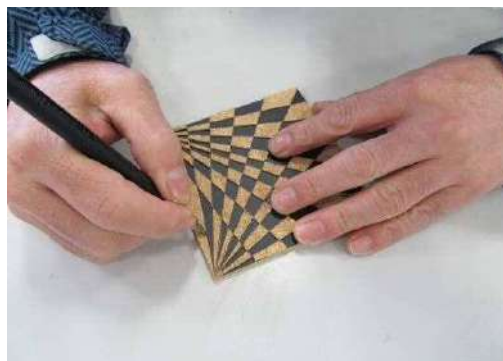
- 1 紙に下絵を描く。



- 2 コースターの上に下絵をのせ、
カーボン紙をはさみ下絵を写す。



- 3 写した下絵の黒い部分に沿って、
カッターで切りこみをしっかり入れる。



※ テープで固定するとずれない。

- 4 コルクボードの黒にしたい部分をはがす。



コルク工芸コースター完成！

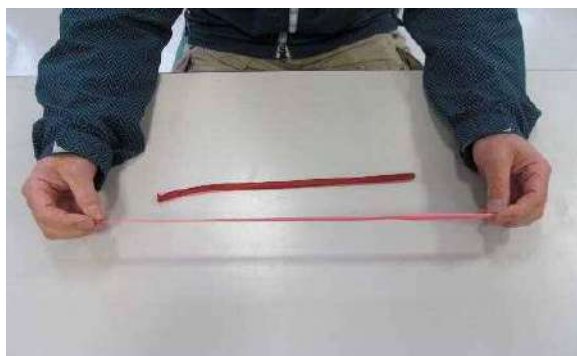


バルーンモデリング

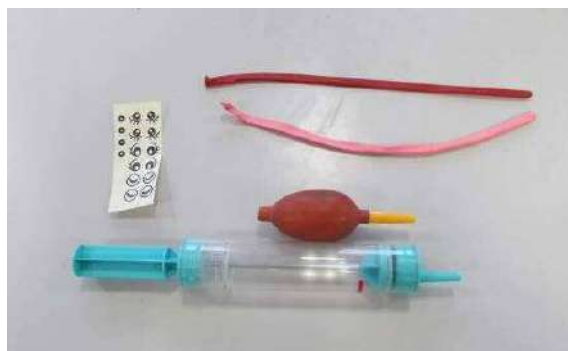
ね ら い	ペンシルバルーンから、動物等のオブジェを作る活動を通して、創作活動の楽しさを知るとともに、仲間と作品作りをすることの喜びを知る。
時 間	1～2時間
費 用	1本20円
対 象	小学生以上
可 能 人 数	50人程度
場 所	創作の館、多目的ホール
準備・道具	【参加者が用意する物】 特になし 【ふれあいセンターが準備する物】 ・ペンシルバルーン ・ハンドポンプ
展 開	1 用具の準備 2 集合、人数確認 3 作り方の説明、注意事項、用具の配布 4 創作開始 (1) 膨らませる前に風船を両腕が広がる幅に数回引っ張る。 (2) 風船を10cmほど残してポンプで膨らませる。 (ねじる部分の空気の逃げ場を確保する) (3) ねじる長さやねじる箇所を工夫して動物等を作る。 5 後始末と用具の返却 6 まとめ（相互鑑賞等） 7 解散
留 意 事 項	○ 安全面には十分気を付ける。 ○ 基本的には頭→両耳→両前足→胴体→両後足→尾の順で作る。 ○ 風船をねじるときは必ず同じ方向にねじる。（4回程度） ○ 耳や足は同じ長さになるように気を付ける。 ○ 同じ作り方でも長さを変えると違う動物ができあがる。 ○ 風船が破裂しないために ・ 空気の入れすぎに気を付ける。 ・ 膨らました風船が机などに触れないように気を付ける。 ○ 用具等は大切に扱い、元の場所に確実に返却する。 ○ ゴミなどの後始末や研修室の清掃を行う。

バルーンモデリング

- 1 膨らませる前に風船を引っ張る。



＜道具＞



- 2 風船を 10 cmほど残してポンプで膨らませる。（ねじる部分の空気の逃げ場を確保する）



- 3 ねじる長さやねじる箇所を工夫して動物を作る。



＜例：犬の作り方＞

頭→両耳→両前足→胴体→両後足→尾の順

- 風船は同じ方向にねじる。（4回程度）
- 耳や足は同じ長さになるように



バルーンモデリング（例：犬）の完成！

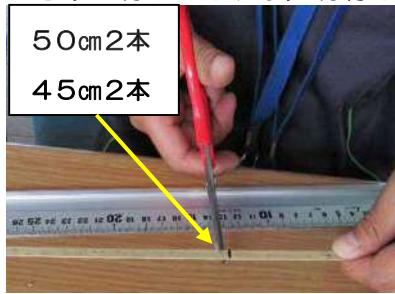


洋風

ね ら い	ポリ袋と竹ひごの特性を生かし、洋風を作って、飛ばす活動を通して、創作の楽しみを味わうとともに、用具の安全な使い方を知る。
時 間	2時間30分
費 用	200円
対 象	小学生以上
人 数	50人程度
場 所	創作の館、多目的ホール、プレイホール
準備・道具	【参加者が用意する物】 特になし 【ふれあいセンターが準備する物】 ・ポリ袋 ・竹ひご ・たこ糸 ・セロテープ ・工作用カッター ・はさみ ・キリ ・型板 ・竹尺（1m） ・カッターマット ・油性ペン
展 開	1 用具の準備 2 集合，人数確認 3 作り方の説明，注意事項，用具の配布 4 創作開始 (1) はさみで竹ひごを切り，竹骨を作る。 (2) ポリ袋を型紙に合わせ，線を引く。 (ポリ袋の向きに注意する) (3) ポリ袋の線に沿ってカッターで切り，本体と鼻部分をセロテープで接着する。 (4) 本体に竹骨を付ける。 (5) キリで鼻部分に糸目を開け，たこ糸を取り付ける。 (6) 油性ペンで本体に絵を描き，洋風完成！ 5 後始末と用具の返却 6 まとめ（相互鑑賞等） 7 解散
留 意 事 項	○ 安全面には十分気を付ける。 ・ カッターの取り扱いに注意する。 ・ キリの取り扱いに注意する。 ○ 飛ばしてみて，よく揚がらないときは尾を付け，調整する。 ○ 用具等は大切に扱い，元の場所に確実に返却する。 ○ ゴミなどの後始末や研修室の清掃を行う。

洋風

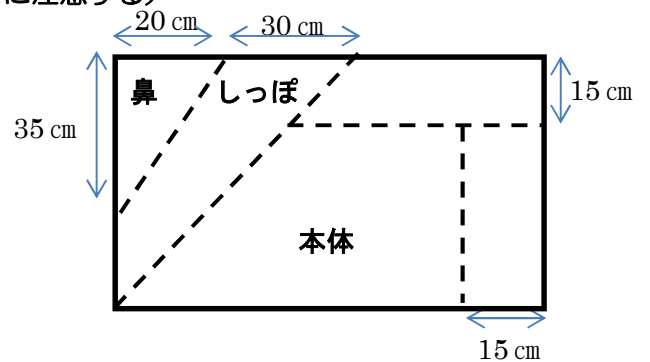
1 はさみで竹ひごを切り、竹骨を作る。



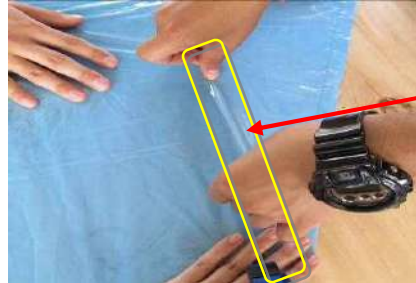
<道具・材料>

- ・ポリ袋
- ・竹ひご
- ・たこ糸
- ・セロテープ
- ・工作用カッター
- ・カッターマット
- ・はさみ
- ・キリ
- ・竹尺 (1m)
- ・油性ペン

2 ポリ袋を型紙に合わせ、線を引く。(ポリ袋の向きに注意する)

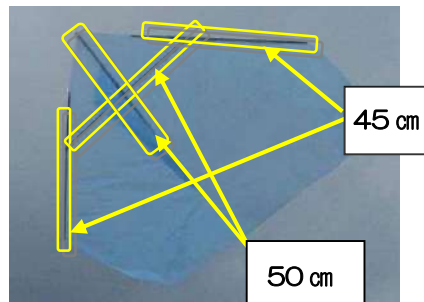


3 ポリ袋の線に沿ってカッターで切り、本体と鼻部分をセロテープで接着する。

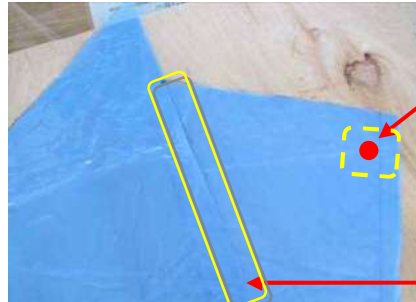


セロテープ位置

4 本体に竹骨を付ける。



5 キリで鼻部分に糸目を開け、たこ糸を取り付ける。



糸目位置
セロテープで補強後、
穴を開ける。

6 油性ペンで絵を描き、洋風完成！



桜チップキーホルダー

ね ら い	身近な親しみのある桜の枝を使って、キーホルダーを作成する。 普段、目にする桜の枝も工夫によって味わいのあるキーホルダーにできることの楽しさを実感させる。
時 間	1 時間 3 0 分
費 用	1 0 0 円（1 個）
対 象	小学校高学年以上 （保護者同伴であれば、小学校低学年以下も検討する。）
可 能 人 数	4 0 人程度
場 所	創作の館、キャンプ場
準備・道具	【参加者が用意する物】 ・軍手 ・タオル等 【ふれあいセンターが準備する物】 ・桜の枝 ・のこぎり ・バーナー ・ワックス ・はさみ ・工作用ナイフ ・サンドペーパー ・ペンチ ・ミニヒートン ・ストラップ ・新聞紙 ・火ばさみ
展 開	1 用具の準備 2 集合、人数確認 3 作り方の説明、注意事項、用具の配布 4 創作開始 (1) 桜の枝を選ぶ（太さ2 cm×長さ6 cm程度） (2) ナイフで枝の表皮を剥ぐ。 (3) 白い幹が出てきたら、サンドペーパーで軽く磨く。 (4) バーナーで、全面を黒くなるまで焼く。 (5) 更にサンドペーパーで表面がなめらかになるまで磨く。 (6) ワックスを塗る。 (7) ミニヒートン、ストラップを付けて完成。 5 後始末と用具の返却 6 まとめ（相互鑑賞等） 7 解散
留 意 事 項	○ 安全・健康面には十分気を付ける。 ・バーナーが固定されているか確認する。 ・バーナーを扱うときは軍手を着ける。 ・バーナーは人に向けない。傾けすぎない。 ・工作ナイフは削る場所によって刃の先端や根元を使い分ける。 ○ 桜の枝は焼くと縮むので、細すぎず、太すぎない部分をのこぎりで切り取る。 ○ ヒートンの取り付けは、枝自体が細いので、キリは不適であるため、ペンチを使ってねじ込むように取り付ける。

桜チップキーホルダー

○ 道具等準備するもの（センターにあります）

- 1 キリ
- 2 工作用ナイフ、ハサミ
- 3 ラジオペンチ
- 4 サンドペーパー
- 5 トーチ
- 6 ストラップ、ヒートン
- 7 ワックス
- 8 桜の小枝（材料）

研修生が用意するのは
タオル、手袋等（軍手）
のみ



1 桜の小枝を選び、表皮をナイフで剥く（白色の芯の部分がでるまで）



- けがをしないように十分気を付ける。
- 枝の股の部分は無理をせず、サンドペーパー等で削り取る。

2 サンドペーパーで全面を削り、磨く。



3 トーチで全面を焼き（ヒートンをつける端の部分はあまり焼かない）さらにサンドペーパー磨き、ある程度ツヤを出す。

※ トーチ使用時は火の扱いに注意（火ばさみ、手袋（軍手）の使用）。



4 ストラップ装着後、ワックスを指でなでるようにつけて完成。



【色々なタイプの桜チップキーホルダー】

切り絵

ね ら い	切り絵をすることにより，創造力や根気を育て，自分で一つの作品を作り上げることの達成感・成就感を味わわせる。
時 間	2時間30分～3時間
費 用	120円
対 象	小学5年生以上
可 能 人 数	100人程度
場 所	多目的ホール，創作の館
準備・道具	【参加者が用意する物】 特になし 【ふれあいセンターが準備する物】 ・デザインカッター ・カッターマット ・はさみ ・のり ・原画 ・台紙 ・色画用紙 ・色紙 ・千代紙 ・ごみ袋
展 開	1 用具の準備 2 集合，人数確認 3 作り方の説明，注意事項，用具の配布 4 創作開始 (1) 作りたい絵を選ぶ。 (2) 用具を準備する。(デザインカッター， カッターマット) (3) 台紙を切る。 ※ 細かいところから広いところへ。 (4) 台紙に色画用紙を貼る。(のり， はさみ， 色画用紙) (5) 色紙に作品を貼る。 ※ 時間が余ったらペンで文字を書く。 5 後始末と用具の返却 6 まとめ(相互鑑賞等) 7 解散
留 意 事 項	○ 安全の確保，材料の特性，道具の特性と使い方，他者との関わり方を指導する。 ・ 紙を押さえる手の位置に十分気を付ける。 ・ カッターナイフ等を使う際は，安全面に十分配慮する。 ・ 活動中は，引率指導者は個別に安全指導にあたる。 ○ 用具等は大切に扱い，元の場所に確実に返却する。 ○ ゴミなどの後始末や研修室の清掃を行う。

「切り絵」

◇ 必要な道具と材料を確認する。

- 道具：デザインカッター（カッターナイフ）、カッターマット、セロテープ、はさみ、のり、ごみ袋
- 材料：台紙、原画、色画用紙、色紙、千代紙

1 原画を台紙に張る。



(1) 原画を選ぶ。

- 曲線や細かい部分が多いものは、カットも裏張りも時間がかかるのでデザインカッター（カッターナイフ）の使い方の習熟度合いに応じて選ぶようにする。

(2) セロテープで原画を台紙に張る。（四隅をしっかり留める。）

- 台紙は黒以外の色でもよいが、裏張りする色とのバランスを考えて選ぶようにする。
- セロテープで数箇所を留めて原画がズレないようにする。

2 台紙にそって切る。

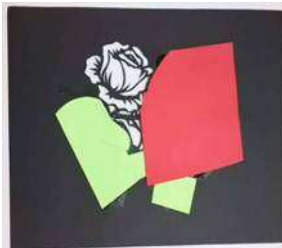


(1) 原画と台紙を重ねて、同時にカットする。

- 「細かい箇所」からカットする。また、「中心部」からカットし、「外側」は最後にカットする。
- 「外側」からカットすると、切り絵がバラバラになりやすく、紙の強度も落ちる。
- 原画の線とズレても構わない。切りすぎた場合は、裏からテープを貼って修正する。



3 切り終わった台紙の裏から色画用紙を貼る。



⇒



＜「葉」→「大輪の花」の順に色画用紙を貼る。＞



⇒



＜残りの花に色画用紙を貼る。＞

(1) 完成したときに、最前面となる部分から貼る。

- のり付けする前に色紙を当てて、配色等の重なりがないかを確認する。
- 色紙は、必要に応じてハサミで切る。
- のりは、台紙の方に延ばしながらつける。色紙につけると、表にのりがはみ出し汚くなる。

4 作品の周囲を大まかに切り取り、輪郭に沿ってカットし、原画を丁寧にはがす。

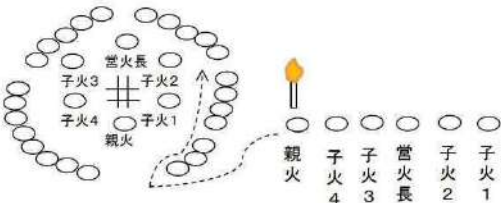


5 色紙に貼る。

- のりをつけすぎるとしわが寄ったりするので、のりは少なめにす方がキレイな仕上がりになる。



ともしびのつどい

ね ら い	(1) セレモニーやレクリエーションに集団の一員としての自覚を持って参加させることにより、けじめや連帯感を身につけさせるとともに、参加者一人一人に自己を見つめさせ、希望を持たせる。 (2) ゲームや出し物を通して、レクリエーションの楽しさを味わう。	
費 用	ろうそく代1人5円	
対象・人数	小学生以上・200人程度	
場 所	プレイホール	
準備・用具	- 借用できるする用具：燭台、ろうそく（大、小：人数分）、シート、着火ライター、CDデッキ、CD - 団体の準備：セリフのカード、懐中電灯 ※ 営火入場から退場までのリハーサルを当日の夕食前に実施する。 ① 電動カーテンを閉める。 ② シートを中央に置き、燭台を置く。 ③ ろうそく（大、小：人数分）を確認する。	
必要な係	営火長1人、親火1人、子火4人、進行係	
隊 形		
実施方法	【内 容】 関係者リハーサル 〈第1部迎え火のつどい・20分〉（静） 1 開会のことば 2 営火入場（BGM）〈選曲自由〉 3 ともしびに捧げることば（親火） 4 誓いのことば（親火から子火へ） 5 燭台へ点火（親火、子火） 6 迎え火のことば（営火長） 7 分火（係から全員へ） 8 司会者からよびかけ（ともしびを消す） 〈第2部交歓のつどい・45分〉（動） 班別の出し物 レクリエーション・ゲーム・ダンス等 〈第3部送り火のつどい・15分〉（静） 1 送り火のことば（営火長） 2 納火 3 司会者からのよびかけ 4 閉会のことば	【留 意 点】 ・ 音楽に合わせて、親火、子火4、子火3、営火長、子火2、子火1の順で入場する。 ・ 分火の時は、火をもらう方がろうそくを傾けるようにする。 ・ 床にろうそくが垂れないように留意する。 ※ 広くホールを使う場合は、中央燭台の火を消し、プレイホールのすみに移動する。 ・ みんなで楽しく活動し、交流を深める。 ※ 燭台を中央に移動し、ろうそくに火をつける。 ・ 自己を見つめさせる機会にする。 ・ 閉会后、燭台等を片付ける。

ともしびのつどい（展開例）

<第1部 迎え火のつどい>

- ※ 参加者入場（静、動、静の流れについて、事前に十分指導しておく）
静かに燭台を丸く囲む形で入場する。 「一重の円」＜50人＜「二重の円」
係は器具庫1で待機。親火だけ火をつけ、電灯を消す。

1 開会のことば（曲（「遠き山に日は落ちて」を流してから）

「ただいまから、（ ）のともしびのつどいを始めます。」

2 営火入場

「営火入場」

・親火、子火4、子火3、営火長、子火2、子火1の順

「営火長は、点火の合図をお願いします。」 営火長「点火」

親火：頂上の一本に火をつける。

3 ともしびに捧げることば

「親火の方は、ともしびにささげることばをお願いします。」

親火のことば

「わたしたち（ ）の（ ）人は、ここ霧島自然ふれあいセンターにおいて、ともしびのつどいを開くことができ、うれしく思います。ひとつ屋根の下で共に語らい、共に寝起きする中で、今まで気付かなかった友達のすばらしい姿を発見し、自分の姿を見直しながら、さらに、友情を深めたいと思います。今夜は、仲良く、楽しく心に残るつどいにし、これを機会に明日からの生活に役立てることを誓い、ともしびにささげることばとします。」

令和〇〇年〇月〇日 〇〇代表 〇〇 〇〇

4 誓いのことば

「親火の方は、子火に呼びかけて、ともしびを分けてあげてください。」

親 火 「強い心と体の持ち主になるために」

子火1 「わたしたちは、心と体をきたえ、どんな苦しみにも負けず、最後までやりぬく強い心と体の持ち主になるよう努めます。」

親 火 「豊かな心の持ち主になるために」

子火2 「わたしたちは、自分のことだけでなく、いつも他人の立場を考え、親切で思いやりのある温かい人間になるよう心がけます。」

親 火 「いつまでも変わらない友情のために」

子火3 「わたしたちは、このすばらしい友情をさらに深め、これからの人生を共に助け合い、励まし合っていくことを誓います。」

親 火 「一日一日に全力を尽くすために」

子火4 「わたしたちは、一日一日を反省し、明日に向かって全力を尽くし、悔いのない毎日を過ごすように努めます。」

5 燭台へ点火

「係の方は、全員で燭台のろうそくに点火してください。」

6 迎え火のことば

「営火長は、迎え火のことばをお願いします。」

営火長のことば

「燭台のともしびは、わたしたちに何かを語りかけているようです。何かを求めているようです。このセンターでの生活を通して、皆さん一人一人が、これまでの自分、これからの自分を考えようとしていることでしょう。ここでの生活の中で、あらためて人の和の大切さや尊さを見つけることと思います。そして、このともしびのつどいの中で、自分をさらに見つめることにし、迎え火のことばとします。」

7 分火

「それでは、このともしびを周りにいる皆さんにも分けてあげましょう。営火長、親火、子火の皆さんは、自分の近くの人にともしびを分けてください。また、周りの皆さんも、もらったともしびを、周りの人に分けてあげましょう。」

8 司会者からのよびかけ

「一本の小さな親火から、今（ ）本の美しい光の輪ができました。美しい光の輪をつくっている小さなともしび、これは人間だけが使うことのできる火です。わたしたちの祖先がはるか昔から絶えることなく、大切に守り続けてきた火です。文化の火ともいえるともしびです。そのともしびを目の高さまで上げて、じっと見つめてみましょう。今ごろはきっとみなさんの家族が、あなたのことを考えていることでしょうか。友達と仲良くできているだろうか。けがはしていないだろうか。病気はしていないだろうか。みなさんはそのような家族の気持ちを理解できるでしょうか。

今まで、わがままを言って困らせたり、口ごたえをしったりしたことはなかったでしょうか。家族に対して今まで自分はどうかであったか。今しばらく考えてみましょう。自分の身をすり減らしながら、周りを温かく、明るく照らすろうそくは、子どもを育てる親の姿に似てはいないでしょうか。

子どものために尽くしながら、一日一日歳を重ねていく親を大切にする、思いやりのある子どもであって欲しいと思います。親のことを考えるとき、人の心は最も素直になると言われます。その気持ちを心の奥深くしまう意味で静かに、ともしびを消してください。」

「これで迎え火の式を終わります。」

※ 出し物等で広くホールを使う場合は、燭台の火を消し、プレイホールのすみに移動する。

<第2部 交歓のつどい>

「静かな中で第1部のセレモニーが終わりました。これからレクリエーションに入ります。歌やゲームで大いに楽しみましょう。」

※ 第3部の前に燭台を中央に移動し、ろうそくに火をつける。

<第3部 送り火のつどい>

1 送り火のことば

「ただ今から第3部『送り火の式』を始めます。」

「営火長は、送り火のことばをお願いします。」

営火長のことば

「楽しかったつどいも、いよいよ終わりの時がやってきました。静かな中に自分を見つめたり、生活の反省をしりました。このつどいで深められた友情と感動をいつまでもよい思い出として、明日からの生活にいかしていくことを期待し、送り火のことばとします。」

2 納火

「係の方は、燭台の最上段の一本を残して、他のともしびを消してください。」

3 司会者からの呼びかけ

「ホール内に広がったともしびは、今、私たち全員の心をまとめて中央の燭台の1本にかえり、一段と輝きを増したかのようです。このともしびのように、仲良く団結して、それぞれの目標に向かって、挑戦のともしびを燃やし続けていきましょう。そして、ここ霧島自然ふれあいセンターで、体験を通して学んだことを生かし、学校や家庭、地域をともしびのように明るく温かく照らせる一人ひとりになっていきましょう。」

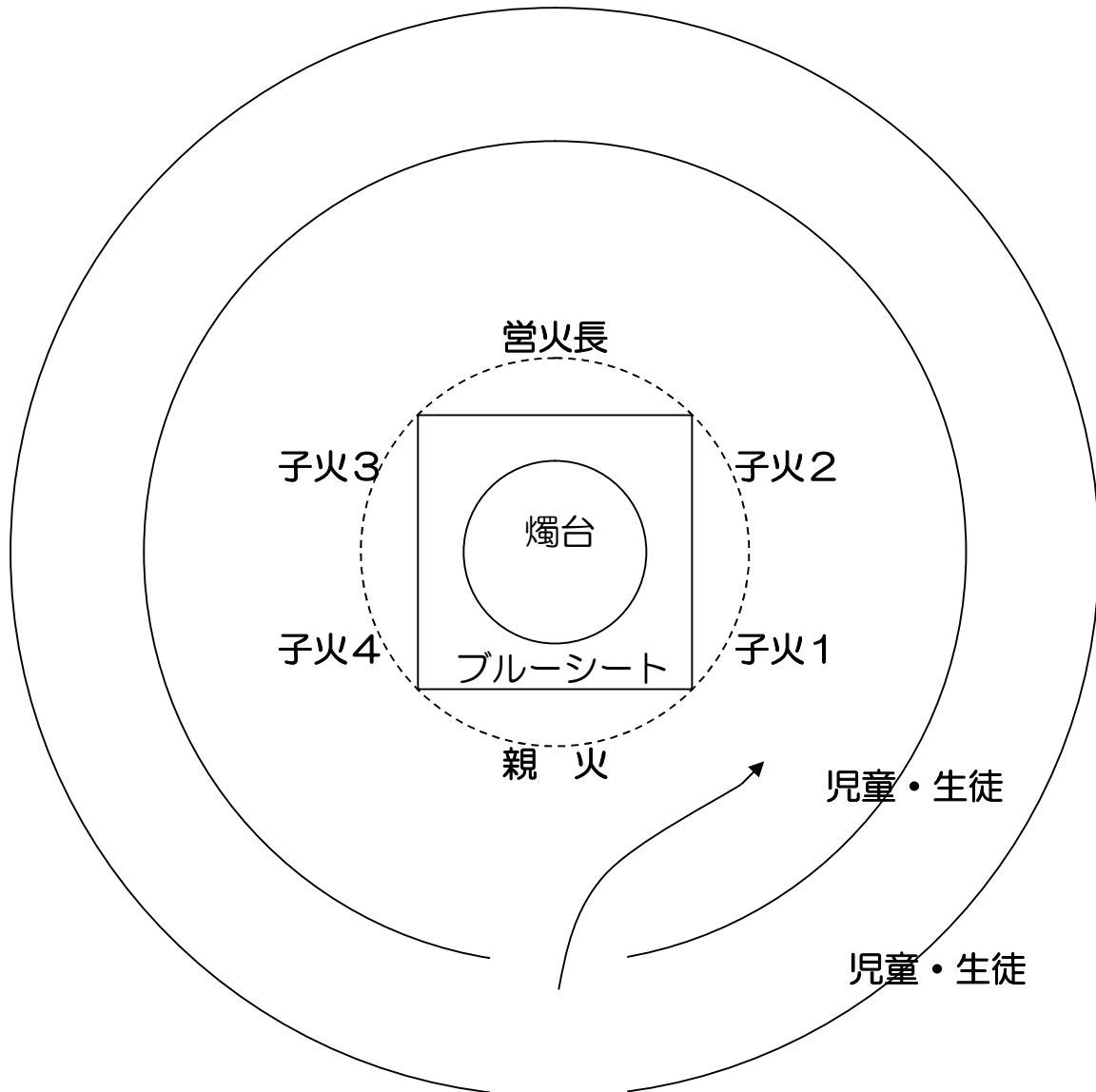
「親火の方は、最後の一本のともしびを消してください。」

4 閉会のことば

「以上で（ ）のともしびのつどいのすべてを終わります。」

入場時会場図および係員入場方法

ステージ



係員入場までドアを閉めて
待機する。
親火だけ点火しておく。

この位置より入る。
親火→子火4→子火3→
営火長→子火2→子火1の順に
反時計回りに入っていく。

器具庫1

入 口

ともしびのつどい台本（子火用）

親 火 強い心と体の持ち主になるために

子火1 わたしたちは、心と体をきたえ、どんな苦しみにも負けず、最後までやりぬく強い心と体の持ち主になるよう努めます。

親 火 豊かな心の持ち主になるために

子火2 わたしたちは、自分のことだけでなく、いつも他人の立場を考え、親切で思いやりのある温かい人間になるよう心がけます。

親 火 いつまでも変わらない友情のために

子火3 わたしたちは、このすばらしい友情をさらに深め、これからの人生を共に助け合い、^{はげ}励まし合っていくことを誓います。

親 火 一日一日に全力を尽くすために

子火4 わたしたちは、一日一日を反省し、^{あす}明日に向かって全力を尽くし、^く悔いのない毎日を過ごすように努めます。

ともしびのつどい台本（営火長用）

営火長（点火の合図）

「点火」

営火長（迎え火のことば）

「^{しょうくたい}燭台のともしびは、わたしたちに何かを語りかけているようです。何かを求めているようです。このセンターでの生活を通して、皆さん一人一人が、これまでの自分、これからの自分を考えようとしていることでしょう。ここでの生活の中で、あらためて人の和の大切さや^{とうと}尊さを見つけることと思います。そして、このともしびのつどいの中で、自分をさらにみつめることにし、迎え火のことばとします。」

営火長（送り火のことば）

「楽しかったつどいも、いよいよ終わりの時がやってきました。静かな中に自分を見つめたり、生活の反省をしたりしました。このつどいで深められた友情と感動をいつまでもよい思い出として、明日からの生活にいかしていくことを期待し、送り火のことばとします。」

ともしびのつどい台本（親火用）

営火長（点火の合図）→ 《親火：頂上の一本につける。》

親火（ともしびにささげることば）

「わたしたち（ ）の（ ）人は、ここ霧島自然ふれあいセンターにおいて、ともしびのつどいを開くことができ、うれしく思います。ひとつ屋根の下で共に語らい、共に寝起きする中で、今まで気づかなかった友達のすばらしい姿を発見し、自分の姿を見直しながら、さらに、友情を深めたいと思います。今夜は、仲良く、楽しく心に残るつどいにし、これを機会に明日からの生活に役立てることを誓い、ともしびにささげることばとします。」

令和〇〇年〇月〇日 〇〇代表 〇〇 〇〇

親火→子火（誓いのことば）

親 火 強い心と体の持ち主になるために

子火1 わたしたちは、心と体をきたえ、どんな苦しみにも負けず、最後までやりぬく強い心と体の持ち主になるよう努めます。

親 火 豊かな心の持ち主になるために

子火2 わたしたちは、自分のことだけでなく、いつも他人の立場を考え、親切で思いやりのある温かい人間になるよう心がけます。

親 火 いつまでも変わらない友情のために

子火3 わたしたちは、このすばらしい友情をさらに深め、これからの人生を共に助け合い、励まし合っていくことを誓います。

親 火 一日一日に全力を尽くすために

子火4 わたしたちは、一日一日を反省し、明日に向かって全力を尽くし、悔いのない毎日を過ごすように努めます。

ともしびのつどい台本（進行用）

<第1部 迎え火のつどい>

※ 参加者入場

1 開会のことば（CDデッキスイッチONしてから～「遠き山に日は落ちて～」）

「ただいまから、（ ）のともしびのつどいを始めます。」

2 営火入場

「営火入場」 親火，子火4，子火3，営火長，子火2，子火1の順

「営火長は，点火の合図をお願いします。」 営火長「点火」

親火：頂上の一本来に火をつける。

3 ともしびに捧げることば

「親火の方は，ともしびにささげることばをお願いします。」

親火のことば 「わたしたち～とします。」 令和〇〇年〇月〇日 〇〇代表 〇〇 〇〇

4 誓いのことば

「親火の方は，子火に呼びかけて，ともしびを分けてあげてください。」

親火と子火の誓いのことば 親火→子火1→親火→子火2→親火→子火3→親火→子火4

5 燭台へ点火

「係の方は，全員で燭台のろうそくに点火してください。」

6 迎え火のことば

「営火長は，迎え火のことばをお願いします。」

営火長のことば 「燭台のともしびは，～迎え火のことばとします。」

7 分火

「それでは，このともしびを周りにいる皆さんにも分けてあげましょう。営火長，親火，子火の皆さんは，自分の近くの人にともし

びを分けてください。また、周りの皆さんも、もらったともしびを、周りの人に分けてあげましょう。」

8 司会者からのよびかけ

「一本の小さな親火から、今（ ）本の美しい光の輪ができました。美しい光の輪をつくっている小さなともしび、これは人間だけが使うことのできる火です。わたしたちの祖先がはるか昔から絶えることのなく、大切に守り続けてきた火です。文化の火ともいえるともしびです。

そのともしびを目の高さまで上げて、じっと見つめてみましょう。今ごろはきっとみなさんの家族が、あなたのことを考えていることでしょう。友達と仲良くできているだろうか。けがはしていないだろうか。病気はしていないだろうか。みなさんはそのような家族の気持ちを理解できるでしょうか。

今まで、わがままを言って困らせたり、口ごたえをしたりしたことはなかったでしょうか。家族に対して今まで自分はどうであったか。今しばらく考えてみましょう。自分の身をすり減らしながら、周りを温かく、明るく照らすろうそくは、子どもを育てる親の姿に似てはいないでしょうか。

子どものために尽くしながら、一日一日歳を重ねていく親を大切にする、思いやりのある子どもであって欲しいと思います。親の

ことを考えるとき、人の心は最も素直になると言われます。その気持ちを心の奥深くしまう意味で静かに、ともしびを消してください。」

「これで迎え火の式を終わります。」

※ 出し物等で広くホールを使う場合は、燭台の火を消し、プレイホールのすみに移動する。

<第2部 交歓のつどい>

「静かな中で第1部のセレモニーが終わりました。これからレクリエーションに入ります。歌やゲームで大いに楽しみましょう。」

※ 第3部の前に燭台を中央に移動し、ろうそくに火をつける。

<第3部 送り火のつどい>

1 送り火のことば

「ただ今から第3部『送り火の式』を始めます。」

「営火長は、送り火のことばをお願いします。」

営火長のことば 「楽しかったつどいも～送り火のことばとします。」

2 納火

「係の方は、燭台の最上段の一本を残して、他のともしびを消してください。」

3 司会者からよびかけ

「ホール内に広がったともしびは、今、私たち全員の心をまとめて中央の燭台の 1 本にかえり、一段と輝きを増したかのようです。このともしびのように、仲良く団結して、それぞれの目標に向かって、挑戦のともしびを燃やし続けていきましょう。そして、ここ霧島自然ふれあいセンターで、体験を通して学んだことを生かし、学校や家庭、地域をともしびのように明るく温かく照らせる一人ひとりになっていきましょう。」

「親火の方は、最後の一本のともしびを消してください。」

4 閉会のことば

「以上で（ ）のともしびのつどいのすべてを終わります。」